

現場説明書

工事名 国立青少年教育振興機構
国立若狭湾青少年自然の家海の学習棟トイレ等改修工事

| 国立青少年教育振興機構財務部施設管理課 | | |
|---------------------|-------|----|
| 課長 | 施設管理課 | 担当 |
| | | |

1 工事名 国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家海の学習棟トイレ等改修工事

2 工事場所 福井県小浜市田鳥区大浜 (国立若狭湾青少年自然の家構内)

3 完成期限 令和6年2月16日(金曜日)

4 一般事項

現場説明書の適用方法

- (1) ・印で始まる事項については、○印を付した事項のみ適用する。
- (2) 文中及び表中の各欄に数字、文字、記号等を記入する事項については記入してある事項のみ適用する。
- (3) ——印又は×印で抹消した事項は全て適用しない。

5 施工に関する事項

(1) 工事用地

範囲は監督職員と協議の上決定し、使用にあたっては「工事用地使用許可願」を監督職員に提出して、発注者等の承諾を得ること。ただし、工事用地の借料は無償とする。

(2) 仮設物の設置等

① 仮設建物等

仮設建物等を設置するときは、「仮設物設置許可願」を監督職員に提出して発注者等の承諾を得ること。

② 障害物の撤去又は移設

障害物の撤去又は移設をするときは、~~別図及び~~監督職員の指示により行うこと。

③ 仮囲い等

仮囲い等を設けるときは、別図の位置に、図示の種類によること。

④ 監督職員事務所

・設ける (号) 設けない

| 号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-------------------------|------|------|------|------|-------|---|
| 規模 (m ²) | 10内外 | 20内外 | 35内外 | 65内外 | 100内外 | |

⑤ 仮設物の維持管理等

仮設物は、施工、監督及び検査に便利かつ安全な材料構造でかつ関係法規に準拠して設置するものとし、常に維持保全に注意すること。

⑥ 墜落制止用器具の着用について

労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)による墜落制止用器具(フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等)とする。

⑦ その他

- a) 工事期間中、近隣住民等第三者には、十分注意を払うこと。
- b) 既存施設や道路等を汚損もしくは破損したときは、速やかに監督職員と協議の上原状に復するものとする。
- c) 撤去工事における騒音、塵埃等には十分注意し、必要に応じて養生等の処置を講ずること。
- d) 工事車両等の運行にあたっては、安全対策について、監督職員と十分協議の上事故防止に努める。

(3) 工事用電力等

- ① 工事用電力、電話、給水、排水等は受注者において手続きの上設置し、その費用及び使用料は受注者の負担とする。
- ② 工事用電力
 - ・ 電力会社と協議の上引き込む
 - 構内より分岐できる
- ③ 工事用電話
 - ・ 構外より引込む。
 - 携帯電話にて対応する
- ④ 工事用給水
 - ・ 構外より引込む。 ○ 構内より分岐できる。 ・ さく井する。 ・
- ⑤ 工事用電力、電話、給水の引き込み位置は別図により、排水は別図又は監督職員の指示による。
- ⑥ 工事に際して、学内の上水道、下水道施設を使用するときは「上(下)水道使用願」を監督職員に提出して、発注者等の承諾を得ること。
- ⑦ その他
工事用電力・工事用給水を所内より分岐する場合は、受注者の負担において電力量計、量水器を設置し、料金は国立若狭湾青少年自然の家へ納入する。

(4) 工事写真等

① 工事写真等

工事写真等は、文部科学省が定めた「工事写真撮影要領」により撮影し、次表のものを提出すること。

| 区 分 | 大 き さ | 種 類 | 組 |
|---------|-------|-------|-----|
| 敷地状況写真 | サービス判 | カ ラ ー | 1 組 |
| 着工前写真 | サービス判 | カ ラ ー | 1 組 |
| 工 事 写 真 | サービス判 | カ ラ ー | 1 組 |
| 完 成 写 真 | サービス判 | カ ラ ー | 1 組 |

※ 完成写真はファイルし、表紙に工事名、工期を記入し、撮影方向等を明示した配置図、平面図を添付すること。

② その他

質疑回答書、現場説明書、特記仕様書及び設計図（発注図）のA3版2つ折り製本を2部提出すること。

(5) その他

鍵は、各組（一組は同一鍵3本）毎に鍵札（アクリル製）を付け、キープラン及び鍵リストを添えて鍵箱（鍵掛け付き）に納めて提出すること。

6 契約に関する事項

(1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構工事請負契約基準（以下、「基準」という。）の運用

①基準第3の規定による、

工事費内訳明細書 { ○ 提出する。
・ 提出しない。

工 程 表 { ○ 提出する。
・ 提出しない。

- ② 基準第29第4項にいう「請負代金額」とは、損害を負担する時点における請負代金額をいう。
- ③ 天災、その他不可抗力による1回の損害合計額が前項にいう請負代金額の1000分の5の額（この額が20万円を越えるときは20万円）に満たないものは損害合計額とみなさないものとする。
- (2) 契約の保証について
落札者は、工事請負契約書案の提出とともに、次の①から⑦のいずれかの書類を提出しなければならない。
- ① 契約保証金として納付するものが、現金の場合は、保管金領収証書及び契約保証金納付書
- ア 保管金領収証書は、三菱UFJ銀行渋谷支店に契約保証金の金額に相当する金額の現金を払い込んで交付を受けること。
- イ 保管金領収証書の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 出納責任者 山川 寿典**と記載するように申し込むこと。
- ウ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- エ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、契約保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- オ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに保管金払渡請求書を提出すること。
- ② 契約保証金の納付に代わる担保が、国債（国債に関する法律の規定により登録された国債を除く）、政府の保証のある債券、銀行、株式会社商工組合中央金庫、農林中央金庫又は全国を地区とする信用金庫連合会の発行する債券、日本国有鉄道改革法（昭和61年法律第87号）附則第2項の規定による廃止前の日本国有鉄道法（昭和23年法律第256号）第1条の規定により設立された日本国有鉄道及び日本電信電話株式会社等に関する法律（昭和59年法律第85号）附則第4条第1項の規定による解散前の日本電信電話公社が発行した債券で政府の保証のある債券以外のもの、地方債及び独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める社債の場合は、政府保管有価証券払込済通知書及び契約保証金納付書
- ア 政府保管有価証券払込済通知書は、三菱UFJ銀行渋谷支店に契約保証金の金額に相当する金額の当該有価証券を払い込んで、交付を受けること。
- イ 政府保管有価証券払込済通知書の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 出納責任者 山川 寿典**と記載するように申し込むこと。
- ウ 請負金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- エ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保管有価証券は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- オ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに政府保管有価証券払渡請求書を提出すること。
- ③ 契約保証金の納付に代わる担保が、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関が振り出し又は支払を保証した小切手、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関が引き受け又は保証若しくは裏書をした手形で

ある場合は、当該有価証券及び契約保証金納付書

ア 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

イ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、当該有価証券は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

ウ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに政府保管有価証券払渡請求書を提出すること。

- ④ 契約保証金の納付に代わる担保が、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関に対する定期預金債権の場合は、当該債権に係る証書及び当該債権に係る債務者である銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関の承諾を証する確定日付のある書面及び契約保証金納付書

ア 当該債権に質権を設定し提出すること。

イ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

ウ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、当該債権は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

エ 受注者は、工事完成後、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**から当該債権に係る証書及び当該債権に係る債務者である銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関の承諾を証する確定日付のある書面の返還を受けるものとする。

- ⑤ 債務不履行による損害金の支払を保証する金融機関等の保証に係る保証書及び契約保証金納付書

ア 債務不履行による損害金の支払の保証ができる者は、出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和29年法律第195号）第3条に規定する金融機関である銀行、信託会社、保険会社、信用金庫、信用金庫連合会、労働金庫、労働金庫連合会、農林中央金庫、株式会社商工組合中央金庫、株式会社日本政策投資銀行並びに信用協同組合及び農業協同組合、水産業協同組合その他の貯金の受入れを行う組合（以下「銀行等」という。）又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社（以下「金融機関等」と総称する。）とする。

イ 保証書の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。

ウ 保証債務の内容は、工事請負契約書に基づく債務の不履行による損害金の支払いであること。

エ 保証書上の保証に係る工事の工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。

オ 保証金額は、契約保証金の金額以上とすること。

カ 保証期間は、工期を含むものとする。

キ 保証債務履行請求の有効期間は、保証期間経過後6カ月以上確保されるものとする。

ク 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合等の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

ケ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、金融機関等から支払われた保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

コ 受注者は、銀行等が保証した場合にあっては、工事完成後、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**から保証書（変更契約書を含む。）の返還を受け、銀行等に返還すること。

- ⑥ 債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約に係る証券
- ア 履行保証保険とは、保険会社が債務不履行時に保険金を支払うことを約する保険である。
- イ 履行保証保険は、定額てん補方式を申し込むこと。
- ウ 保険証券の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。
- エ 証券上の契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
- オ 保険金額は、請負代金額の10分の1の金額以上とする。
- カ 保険期間は、工期を含むものとする。
- キ 請負代金額の変更により保険金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- ク 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保険会社から支払われた保険金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保険金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- ⑦ 債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証に係る証券
- ア 公共工事履行保証証券とは、保険会社が保証金額を限度として債務の履行を保証する保証である。
- イ 公共工事履行保証証券の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。
- ウ 証券上の主契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
- エ 保証金額は、請負代金額の10分の1の金額以上とする。
- オ 保証期間は、工期を含むものとする。
- カ 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合等の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- キ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保険会社から支払われた保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- (3) 工事請負代金債権の債権譲渡
- この工事の受注者は、下請セーフティーネット債務保証事業又は地域建築業経営強化融資制度のいずれかに係る融資を受けることを目的として、工事請負代金債権の債権譲渡を申し出ることができるものとする。
- (4) 下請契約の締結
- 受注者は、下請負人を使用する場合は、「建設工事標準下請契約約款」（昭和52年4月26日中央建設業審議会決定）に準拠した適切な下請契約を締結すること。また、「建設業法令遵守ガイドライン（第5版）-元請負人と下請負人の関係に係る留意点-」（平成29年3月国土交通省土地・建設産業局建設業課）により適切な取引をすること。
- (5) 建設産業における生産システム合理化指針の遵守等について
- 工事の適正かつ円滑な施工を確保するため、「建設産業における生産システム合理化指針について」（平成3年2月5日付け建設省経構発第2号の3建設省建設経済局長通知）において明確にされている総合・専門工事業者の役割に応じた責任を的確に果たすとともに、適正な契約の締結、適正な施工体制の確立、建設労働者の雇用条件等の改善等に努めること。また、下請代金の支払については発注者から受取った前払金の下請建設業者に対する均てん、下請

代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等その適正化について特段の配慮をすること。

(6) 監督職員の権限

基準第9第2項第1号から第3号に示す範囲とする。

(7) 請負代金の支払

請負代金（前払金及び~~中間前払金~~を含む）は、受注者からの適法な支払請求書に応じて独立行政法人国立青少年教育振興機構財務部財務課から2回以内に支払うものとする。

(8) 請負代金の前払い

公共工事の前払金保証事業会社と保険契約を締結し、当該保証証書を添えて工事請負代金額の「10分の4」以内の額の前払金を請求することが出来る。~~また、前払金の支払を受けた後、公共工事の前払金保証事業会社と保険契約を締結し、当該保証証書を添えて工事請負代金額の「10分の2」以内の額の中間前払金を請求することができる。~~

(9) 工事関係保険の締結

この工事の受注者は、速やかに、次の付保条件により、建設工事保険契約（共済その他これに準じる機能を有するものを含む。）締結すること。

① 保険対象

工事請負契約の対象となっている工事全体とすること。

② 保険契約者

受注者とすること。

③ 被保険者

発注者並びに受注者及びそのすべての下請負人（リース仮設材を使用する場合には、リース業者を含む。）とすること。

④ 保険金額

請負代金額と同額とすること。ただし、支給材料又は貸与品の価額が算入されていないときはその新調達価額を加算し、保険の目的に含まれない工事の費用（解体撤去工事費、用地費、補償費等をいう。）が算入されているときはその金額を控除すること。

⑤ 保険金支払額の控除額（免責額）

請負代金額の1000分の5の額（この額が20万円を超えるときは20万円）未満とすること。

⑥ 保険金請求者

受注者とすること。

⑦ 保険期間

工事着手の日から工事目的物の完成引渡しの日までの期間とすること。

⑧ 特約条項

ア 同一発注者による同一工事場内における分離発注工事の隣接工区受注者相互間の求償権不行使特約を付帯すること。

~~イ 水災危険担保特約を付帯すること。~~

ウ 次の付保条件により、損害賠償責任担保特約を付帯（請負業者賠償責任保険その他これに準じる機能を有するものを付保することを含む。）すること。

（ア）対人賠償保険金額は、1名につき1億円以上かつ1事故につき10億円以上とすること。

（イ）対物賠償保険金額は、1事故につき1億円以上とすること。

（ウ）発注者受注者相互間の交差責任担保特約を付帯すること。

（エ）分離発注工事の隣接工区に対する賠償責任担保特約を付帯すること。

⑨ その他

ア ここで示す付保条件は、工事関係保険として最低限必要と思われる付保条件であり、受注者が受注者の判断でこれ以上の付保条件で工事関係保険を付保することを妨げるものでない。ただし、当該付保条件についても発注者が指示したものとみなす。

イ 建物の建築工事の受注者は、分離発注される当該建物の付帯設備工事の受注者と協議の上、建築工事の受注者が保険契約者となり、付帯設備工事の受注者を被保険者に加

え、一括して建設工事保険契約を締結することも可能である。

ウ 受注者が工事関係保険契約を締結したときは、遅滞なく、その保険証券を発注者に提示すること。ただし、総括契約方式による付保の場合は、保険会社の引受証明を発注者に提示すること。

エ 工事関係保険契約締結後に設計変更等により工事期間又は請負代金額に変更を生じた場合などには、速やかに、付保条件について変更の手続をとること。

7 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について

- (1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構が発注する建設工事（以下「発注工事」という）において、暴力団員、暴力団員準構成員又は暴力団関係業者（以下「暴力団員等」という）による不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合には、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力をを行うこと。
- (2) (1)により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
- (3) 発注工事において、暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合には、発注者と協議を行うこと。

8 その他

(1) 工事実績情報サービス（CORINS）への登録

この工事の受注者は、工事契約内容及び施工内容について契約締結後10日以内に、登録内容に変更があったときは登録内容に変更が生じた日から10日以内に、完成引渡しについて完成引渡し後10日以内にそれぞれの情報を財団法人日本建設情報総合センターの工事実績情報サービス（CORINS）への登録すること。

(2) 公共事業労務費調査への協力

毎年定期的実施される公共事業労務費調査への協力を依頼することがあるので、労働基準法第108条による賃金台帳を整備しておくこと。

なお、賃金台帳の整備にあたっては、全国建設業協会刊「建設現場の賃金管理の手引き」によること。

(3) 建設業退職金共済制度について

- ① 建設業退職金共済組合に加入するとともに、その建設業退職金共済制度の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。
- ② 「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。
- ③ 掛金収納書（発注者用）を工事請負契約締結後原則1ヶ月以内（電子申請方式による場合にあっては、工事請負契約締結後原則40日以内）に、発注者に提出すること。

~~(4) 工事成績評定について~~

~~この工事は、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成12年法律第127号）及び「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」（令和元年10月18日閣議決定）に基づき、文部科学省が定めた工事成績評定要領（平成20年1月17日付け19文科施第370号）による工事成績評定の対象工事である。~~

~~(5) ワンデーレスポンスの実施について~~

~~本工事はワンデーレスポンスの実施対象工事である。~~

- ~~① ワンデーレスポンスとは、発注者からの質問、協議に対して、発注者は、基本的に「その日のうちに」回答するよう対応することである。なお、即日回答が困難な場合に、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうちに」することを含むものとする。~~
- ~~② 受注者は、実施工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議を行うこと。~~
- ~~③ 受注者は、工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査~~

~~し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。~~

- (6) 主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間について
- ① 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員と協議の上定める。
 - ② 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日とする。
- (7) 現場代理人の工事現場における常駐の緩和について
- ① 基準第10第3項に規定する現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないとは、以下のものとする。
 - ア 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間。）。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員と協議の上、定める。
 - イ 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続き、後片付け等のみが残っている期間。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、発注者に通知した日とする。
 - ウ 工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間。
 - エ 工事現場において作業等が行われていない期間。
 - ② 基準第10第3項に規定する発注者との連絡体制が確保されるとは、発注者又は監督職員と携帯電話等で常に連絡が取られること、かつ、発注者又は監督職員が求めたときは、工事現場に速やかに向かう等の対応が取られることとする。
 - ③ その他請負契約の締結後、監督職員と協議の上、現場代理人の工事現場における常駐を要しない期間を定める。
- (8) 建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者及び監理技術者補佐の工事における取扱いについて
- 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を認めない。
- (9) 特別重点調査を受けた者との契約について
- 「低入札価格調査対象工事に係る特別重点調査の試行について」（平成21年3月31日大臣官房文教施設企画部長通知）に基づく特別重点調査を受けた者との契約については、その契約の保証については請負代金の10分の3以上とし、前払金の割合については、請負代金額の10分の2以内とする。ただし、工事が進捗した場合の中間前払金及び部分払の請求を妨げるものではない。
- (10) 引渡し後点検について
- 受注者は、完成引渡し後1年経過を目途に、施設の不具合の有無等について点検を行うものとする。
- (11) 設計図書の取扱い
- 本工書の設計図書の取扱いは以下によるものとする。
- ① 図書の取扱い、保管は、善良なる管理者の注意義務を負うことに同意すること。
 - ② 目的以外の使用は禁止とすること。
 - ③ 図書を複製する場合、その部数は必要最低限とし、複製した図書は用済み後責任を持って確実に処分すること。
- (12) デジタル工事写真の黒板情報電子化について
- デジタル工事写真の黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における黒板の記載情報の電子的記入及び工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るもので

ある。

本工事で受注者がデジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得た上でデジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事（以下、「対象工事」という。）とすることができる。対象工事では、以下の①から③の全てを実施することとする。

なお、本項に規定していない事項は「工事写真撮影要領（文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官）」に準ずる。

① 必要な機器・ソフトウェア等の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以下、「使用機器」という。）については、「工事写真撮影要領（文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官）」の「2.1.2 形状、寸法、仕様等の確認方法2.」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認機能（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」(URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、対象工事での使用機器について提示するものとする。

② デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、「工事写真撮影要領（文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官）」の「2.1.2形状、寸法、仕様等の確認方法 2.」による。

なお、対象工事において、「小黑板情報電子化」と「小黑板を被写体に添えての撮影（従来の方法）」を併用することは差し支えない（例えば、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、使用機器の利用が困難な工種が想定される）。

③ 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、②に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」という。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者はURL（http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html）のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

国立若狭湾青少年自然の家 海の学習棟 トイレ等改修工事 設計図

令和 5 年 6 月 設計



目 次

国立若狭湾青少年自然の家 海の学習棟 トイレ等改修工事 設計図 (令和 5 年 6 月 設計)

| 建 築 | | 電 気 設 備 | | 機 械 設 備 | |
|--------|--------------------|---------|------------------|---------|-----------------|
| D - 01 | 建築工改修事特記仕様書 (その 1) | E - 01 | 電気設備工事特記仕様書 (1) | M - 01 | 機械設備工事特記仕様書 (1) |
| D - 02 | 建築改修工事特記仕様書 (その 2) | E - 02 | 電気設備工事特記仕様書 (2) | M - 02 | 機械設備工事特記仕様書 (2) |
| D - 03 | 建築改修工事特記仕様書 (その 3) | E - 03 | 電気設備 改修前・改修後 平面図 | M - 03 | 給排水衛生設備 既存平面図 |
| D - 04 | 建築改修工事特記仕様書 (その 4) | E - 04 | 配線器具・照明器具表 | M - 04 | 給排水衛生設備 改修後平面図 |
| D - 05 | 建築改修工事特記仕様書 (その 5) | | | M - 05 | 換気設備 平面図 |
| D - 06 | 建築改修工事特記仕様書 (その 6) | | | | |
| D - 07 | 建築改修工事特記仕様書 (その 7) | | | | |
| D - 08 | 案内図、概要書 | | | | |
| D - 09 | 配 置 図 | | | | |
| D - 10 | 仕 上 表 | | | | |
| D - 11 | 既存 1階平面図 | | | | |
| D - 12 | 既存 1階平面詳細図 | | | | |
| D - 13 | 改修後 1階平面詳細図 | | | | |
| D - 14 | 改修後 断面詳細図 | | | | |
| D - 15 | 天井伏図 | | | | |
| D - 16 | 展開図 (1) | | | | |
| D - 17 | 展開図 (2) | | | | |
| D - 18 | 展開図 (3) | | | | |
| D - 19 | 改修後 建具表 | | | | |
| D - 20 | 雑詳細図 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|------------------------------------|--|---|--|---|---|---|---|--|
| 4-3 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ | 1. 専門工事業者 ※監督員の承諾する専門工事業者 保証期間 ※5年間 | 2. タイル接着力試験 ※行う ・行わない | 3. ひび割れ部改修工法 ※樹脂注入工法 種 類 ひび割れ幅 (mm) 注入間隔 (mm) 注入量 (ml/m) ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~1.0未満 200~300 ※130 ・ 自動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~0.3未満 50~100 ※40 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上~0.5未満 100~200 ※70 0.5以上~1.0未満 150~250 ※130 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア採取確認 ・行う (採取り部の補修方法: ・ Uカットシール材充填工法 [4.2.2][4.3.5] ・ シーリング材充填 充填材料 ※1成分または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ タイル部分張替え工法 [4.5.7] 接着材 [4.2.2] ※ポリマーセメントモルタル ・ 変成シリコーン樹脂 (JIS A 5557) ・ ウレタン樹脂 (JIS A 5557) 張付け材料 既成調合モルタル ・使用する ・ タイル張替え工法 [4.2.2][4.5.8] 張付け材料 既成調合モルタル ・使用する 張付け工法 外装タイル ※密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り [4.5.8][表4.5.3] ・ 外装タイル接着剤張り 外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・外装タイル接着剤張り 伸縮調整目地および、ひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.11による ・図示 目地寸法 (mm) (幅×深さ) コガシ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※20以上×10以上 その他 ※10以上×10以上 ・10以上×7以上 | 4. 欠損部改修工法 [4.5.7] [4.2.2] [4.2.2][4.5.8] [4.5.8][表4.5.3] [4.5.7] [4.2.2] [4.5.15] | 5. 浮き部改修工法 [4.4.10~4.4.15][4.5.15] | 6. 目地改修工法 [4.2.2][4.5.16] [4.2.2][4.5.16] | 4-4 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ | 1. 既存塗膜等の除去 および下地処理 [4.6.3] 塗り仕上げ外壁等 | 2. 下地調整材 [4.6.3] 3. 仕上げ塗材仕上げ [18.1.3] 塗業者 ※塗装工事および仕上げ塗材仕上げの塗り面積の合計が概ね500㎡以上の工事、または塗装専門業者が元請業者である工事 ※日本塗装工業会の会員 (「日本塗装工業会指導要領」に基づき、指導員の指導を受けること。) ・ 上記に該当しない工事 ※監督員の承諾する業者 新規仕上げ塗材の種類 [4.1.5][4.2.2][表4.2.4] 種 類 呼び名 防火材料 仕上げの形状 ・ 薄付け仕上げ塗材 ・ 外装薄塗材 S i ・ 可とう形外装薄塗材 S ・ 外装薄塗材 E ・ 可とう形外装薄塗材 E ・ 防水形外装薄塗材 E ・ 外装薄塗材 S ・ 内装薄塗材 W ・ 厚付け仕上げ塗材 ・ 外装厚塗材 C ・ 外装厚塗材 S i ・ 外装厚塗材 E ・ 複層仕上げ塗材 ・ 複層塗材 C E ・ 複層塗材 S i ・ 複層塗材 E ・ 複層塗材 R E ・ 防水形複層塗材 C E ・ 防水形複層塗材 E ・ 防水形複層塗材 R E ・ 可とう系改修用 ・ 可とう系改修塗材 E ・ 可とう系改修塗材 C E ・ マスチック塗材 ・ A種 ・ B種 外壁用塗膜防護水塗 仕上げの形状 外壁用塗膜防護水塗の耐候性 ※JIS A 6909の耐候性1種相当 下地準動機材の適用 ・適用する ・適用しない 吹付か工法の模様材の種類 ・ 所要量 (kg/㎡) 外壁用仕上げ塗材の種類 ・ 所要量 (kg/㎡) | 4. 網戸等 [5.2.3] 種 類 材 質 線 径 網 目 ・ 防虫網 ・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ※0.25mm以上 ※16~18メッシュ ・ ステンレス (SUS316) 製 ・ 防鳥網 ステンレス (SUS304) 線材 1.5mm ピッチ 15mm 性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1] 外部に面する樹脂製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所 ・ A種 S-4 ※A-4 ※W-4 ※図示 ※図示 ・ B種 S-5 ※W-5 ・ C種 S-6 遮音性能の種別 ・ T-A種 ・ T-B種 [5.3.2][表5.3.2] 断熱性能の種別 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種 [5.3.2][表5.3.3] 表面色 ・ 白 ・ 黒 ・ ブラウン ・ シルバー [5.3.4] 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.4.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) [5.4.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・) [5.4.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 (・) [5.4.4] 鋼板類の厚さ (1枚の有効開口幅950mmまたは有効高さ2,400mmを超える場合) [5.4.4] 区分 使用箇所 厚さ (mm) 窓 枠種別 外部の下枠、水切り板 2.3 出入口 枠種別 外部に面するスイングドアの建具の場合 2.3 つすり 2.0 戸 中骨 2.3 9. 鋼製軽量建具 [5.5.2] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.5.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) [5.5.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・) [5.5.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 (・) [5.5.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.11による ・ mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出成形材 10. ステンレス製建具 [5.4.2][表5.2.1] 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2][表5.2.1] ステンレス鋼板 ・ SUS430J1L ・ SUS304 ・ SUS443J1 [5.6.3] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.6.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) [5.6.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・) [5.6.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 (・) [5.6.4] 表面仕上げ ※H L仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ (補強有り) [5.6.5] 11. 木製建具 [16.7.2] 建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 [16.7.2] 建物内部の木製建具に使用する表面材および接着剤のホルムアルデヒドの放散量 [16.7.2] ※F☆☆☆☆ フラッシュ戸の表面材の種類 ※図示 [16.7.2] からち戸の樹種 かまち () 鏡板 () [16.7.2] 枠の材料 ※図示 [16.7.2] つすりの材料 ※図示 [16.7.2] ふすま [16.7.2] 上張り ※地場産和紙 ・ 新鳥の子またはビニル紙程度 (押入れ等の裏面は除く) ・ 鳥の子 縁仕上 ※図示 ・ 塗り縁 ・ 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (カワガキ塗装) 12. 建具用金物 [5.7.1~3] 材質、形状及び寸法 [5.7.1~3] 金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修特記仕様書表5.7.11により適用は建具表による 金属性建具用丁番の枚数及び大きさ ※改修特記仕様書表5.7.2による ・ 建具表による 樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ※改修特記仕様書表5.7.3による ・ 建具表による 錠り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 () ※建具表による 錠り類 (品質)、(性能) ※建築材料等品質性能表による クローザー類 (品質・性能)、(試験方法) ※建築材料等品質性能表による 錠 [5.7.4] マスターキー ・ 製作する (・ 既存マスターキーに合わせる) ・ () ※製作しない その他の錠の製作本数 ※3本1組 錠箱 ・ 有 () ※無 13. 自動ドア開閉装置 [5.8.2][5.8.3][表5.8.1~5.8.4] 自動ドア開閉装置の性能 耐放射ノイズ 防 錆 防 滴 引戸用検出装置 凍結防止措置 ※D S L D-1 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ 電流 (電圧) センサー ・ 行う ・ D S L D-2 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ 光線 (圧力) センサー ・ S S L D-1 ・ 音波センサー ・ S S L D-2 ・ タッチスイッチ ・ 図示 ・ ペダルスイッチ ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能スイッチ 多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置の性能値 [5.8.2] ※改修特記仕様書表5.8.2による 引戸用検出装置性能値 ※改修特記仕様書表5.8.3による 戸の開閉方式 ・ 建具表による [5.8.3] 引戸検出装置の種類 ・ 改修特記仕様書表5.8.4 () による ※建具表による 凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない ※改修標準仕様書表5.9.1による [5.9.3][表5.9.1] 14. 自閉式上り引戸装置 [5.10.2] 15. 重量シャッター [5.10.2] シャッターの種類 ・ 一般重量シャッター 耐風圧性能 () N/m2 ・ 外壁用防火シャッター 耐風圧性能 () N/m2 ・ 屋内用防火シャッター ・ 屋内用防煙シャッター 開閉方式による種類 [5.10.2][表5.10.1] ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける [5.10.2] | 14. 軽量シャッター [5.11.2][表5.11.1] 開閉方式 ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) [5.11.2][表5.11.1] 耐風圧性能 () N/m2 [5.11.2] スラット 材質 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯) [5.11.3] めっき付着量 ※Z06またはF06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12 開閉方式 ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) [5.11.2][表5.11.1] 耐風圧性能 () N/m2 [5.11.2] スラット 材質 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯) [5.11.3] めっき付着量 ※Z06またはF06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板および鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板および鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12 形状 ・ インターロック形 ・ オーバーラッピング形 [5.11.4] 15. オーバーヘッドドア [5.12.2][5.12.3] セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ・ ロケット形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバーガラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイレフト形 ・ パーチカル形 耐風圧性能 () N/m2 [5.12.2] 電動式の場合の保護装置 ・ 図示 16. ガラス [5.13.2] ガラスの種類は、次による。ただし、その種類および厚さごとの使用箇所、図示。 [5.13.2] ・ フロート板ガラスの厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 型板ガラスの品質および厚さによる種類等 ※図示 < > ① 入り板ガラスの品質および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 合わせガラスの配合および特性等による種類等 ※図示 < > ・ 強化ガラスの板ガラスの種類および特性等による種類等 ※図示 < > ・ 熱線吸収ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 複層ガラスの板ガラスの種類および特性等による種類等 ※図示 < > ・ 熱線反射ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 倍強度ガラスの板ガラスの種類および厚さによる種類 ※図示 < > 17. ガラスとめ材 [5.13.2] 建具の種類 ガラスとめ材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ※シーリング材 ※建築製作所の仕様による ・ ガスケット ・ 図示 ※グレイジングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ステンレス製 ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 18. ガラスブロック積み [5.13.5] 表面形状 呼び寸法 厚 さ 色 調 目地幅 (mm) 伸縮調整目地 (mm) 正方形 ・ 125×125 80 ・ ・ 平積み 外側 ※6以下毎に ・ 160×160 95 ・ ・ ・15~25 ※15以下 10~25 ・ 200×200 95 ・ 125 ・ ・ ・ 320×320 95 ・ ・ ・ 内側 長方形 ・ 250×125 80 ・ ・ ※6以上 ・ 320×160 95 ・ ・ 曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 壁用金属枠および補強材 ・ 設ける (形状 ※図示) 方骨 ※ステンレス鋼 (SUS304)径5.5mm はしご形状補強および単筋 目地の方骨の補強方法 ※ガラスブロック製造所の仕様による。 化粧目地モルタルの色 () シーリング材 ※改修標準仕様書表3.7.11による 金属化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ※図示 ・ 形状 ※図示 | 6 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ | ①改修範囲 [6.1.3] 既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う () 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 [6.1.3] ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 [6.1.3] ※既存のまま ・ 図示 ②既存床の撤去、下地 補修 [6.2.2] ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ (接着剤は可能な限り) [6.2.2] () 下地モルタルとも (※図示の範囲 ・ 除去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 () 機械的除去工法 ・ 目荒工法 [6.2.2] 改修後の床の清掃範囲 () 図示 [6.2.2] ポリマーセメントモルタルおよびエポキシ樹脂モルタル [4.2.2][6.2.2] 「外装改修工事」による。 ③既存壁の撤去、下地 補修 [4.4.9][6.3.2] 間仕切り壁等に伴う他の構造物の補修 ※モルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補強 ・ 行う) ・ 図示 ④木下地等 [6.5.1][表6.5.1~2] 表面仕上げの程度 適用箇所 機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種 手加工 ・ H-A種 ・ H-B種 ※内部造作材 ・ H-C種 ※下地材 木材の含水率 (下地材 ・ A種 ※B種) [6.5.2][表6.5.3] (造作材 ・ A種 ・ B種 ※県木材組合連合会品質保証材) 保存処理木材 ・ 使用する (使用箇所) ※代用樹種の禁止 杉材については県産材を使用すること。 その他の材についても県産材を使用するよう努力すること。 |
| | 年度別 R 5 令和5年6月 | 分 類 第 一 分 類 第 二 分 類 第 三 分 類 第 四 分 類 第 五 分 類 | 工事名称 国立若狭湾青少年自然の家 海の学習棟 トイレ等改修工事 図面番号 D 03 | 設計 株式会社 未来プランニング 1級建築士事務所 福井県 (い) 755号 管理建築士 1級建築士 第117905号 浜岸吉満 | 図面名称 建築改修工事特記仕様書 (その3) 縮 尺 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------------|--|-----------------------|----------------|-----------|
| 製材 [G] [6.5.2(2)] ※「製材の日本農林規格」による製材 ・下地用針葉樹製材 | | | | | |
| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 保存処理 |
| | | | ・1級 ※2級 | | |
| ・造作用針葉樹製材 | | | | | |
| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 保存処理 |
| | | | ・上小節 | | |
| ・広葉樹製材 | | | | | |
| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 等級 | 形状 | 保存処理 |
| | | | ・特等※1等・2等 | | |
| ・「製材の日本農林規格」以外の製材 | | | | | |
| 施工箇所 | 樹種名 | 寸法(mm) | 材面の品質 | 防虫処理 | |
| | | | | ・有 ・無 | |
| 造作材の材面の品質 ※A種 ・B種 | | | | | |
| 造作用集成材 [G] [6.5.2(3)] ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・造作用集成材 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外) | | | | | |
| 施工箇所 | 樹種名 | 寸法(mm) | 見付け材品質 | 見付面積 | |
| | | | ※1等・2等 | | |
| ・化粧ばり造作用集成材 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外) | | | | | |
| 施工箇所 | 化粧薄板の樹種名 芯材の樹種名 | 見付面積 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材品質 |
| | 化粧薄板: 芯材: | | | | ※1等・2等 |
| ・化粧ばり造作用集成柱 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外) | | | | | |
| 施工箇所 | 化粧薄板の樹種名 芯材の樹種名 | 見付面積 | 寸法(mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材品質 |
| | 化粧薄板: 芯材: | | | | ※1等・2等 |
| 造作用単板積層材 [G] [6.5.2(4)] ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ 造作用単板積層材 (※「単板積層材の日本農林規格」・「単板積層材の日本農林規格」以外) | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の品質 | 防虫処理 | | |
| | | ※天然木化粧加工 ・塗装加工 ・加工しない(・1等・2等・3等) | ・する ・しない | | |
| C.L.T. (直交集成板) [G] [6.5.2(5)] | | | | | |
| 施工箇所 | 品名 | 曲げ性能 (強度等級) | 種別 | 接着性能 (使用環境) | 樹種 |
| | | | | | 寸法mm |
| 床張り用合板等 [G] [6.5.2(6)] ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ 普通合板 | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 表板の樹種名 | 板面の品質 | 防虫処理 |
| | ※5.5 ・ | ※1類 ・2類 | 広葉樹・1等※2等 針葉樹 ※C-D | ・する ・しない | |
| 構造用合板 | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 等級 | 表板の樹種名 | 板面の品質 |
| | ※12.0 ・ | ※1類 ・特類 | ・1級 ※2級 | ※針葉樹 ・ | ※C-D ・ |
| ・「日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 [G] | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 防虫処理 | |
| | | | ・1類 ・特類 | | |
| ・「日本農林規格」による天然木化粧合板 [G] | | | | | |
| 施工箇所 | 化粧板に使用する 単板の樹種名 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 防虫処理 | |
| | | | ・1類 ・2類 | | |
| ・「日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [G] | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 接着の程度 | 単板の樹種名 | 化粧加工の方法 | 防虫処理 |
| | | | | | |

5. 軽量鉄骨天井下地

6. 軽量鉄骨壁下地

⑦ ビニル床シート、
ビニル床タイル及び
ゴム床タイル張り [G]

| | | | | | |
|---|--|--|--------------------------|---------------------------------|------------------------|
| パーティクルボード | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表裏面の区分 | 曲げ強さ(N/mm ²) | 耐水性 | 難燃性 |
| | ※15.0 | ・素地 ・単板張り ・化粧 | | ・P又はM | ・難燃2級 ・難燃3級 |
| 構造用パネル | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 等級 | | | |
| | | ・1級 ・2級 ・3級 ・4級 | | | |
| ・MDF [G] (12.2.1(5)) | | | | | |
| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の状態 による区分 | 曲げ強さに よる区分 | 接着剤に よる区分 | 難燃性 による区分 |
| | | | | | |
| ・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 [6.5.5] | | | | | |
| 適用部位: () | | | | | |
| ・薬剤の加圧注入による防腐、防蟻処理 | | | | | |
| 適用部材 | | | | | |
| ・K2 ・K3 ・K4 | | | | | |
| ・K2 ・K3 ・K4 | | | | | |
| ・K2 ・K3 ・K4 | | | | | |
| ・薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理 | | | | | |
| 適用部材 | | | | | |
| 処理の方法 | | | | | |
| 薬剤の種類 | | | | | |
| ※改修標準仕様書6.5.5(1)(b)② | | | | | |
| ※JIS K 1571に適合又は同等品 | | | | | |
| 7~2による | | | | | |
| ・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻 | | | | | |
| 適用部位: () | | | | | |
| 野縁等の種類 [6.6.2][表6.6.1] | | | | | |
| 屋外 (・19型 ※25型) 屋内 (※19型 ・25型) | | | | | |
| 屋外の軒天井、ピロティ天井等 [6.6.3][6.6.4] | | | | | |
| 補強方法 ※図示 | | | | | |
| 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔および周辺部からの距離 ※図示 | | | | | |
| 野縁の間隔 ※図示 | | | | | |
| 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 | | | | | |
| 天井のふところが1.5m以上の場合の補強方法 ※標準仕様書14.4.4(8)による | | | | | |
| 天井のふところが3mを超える場合の場合の補強方法 ※図示 | | | | | |
| 天井下地材における耐震性を考慮した補強 | | | | | |
| ・行う (※図示) ・行わない | | | | | |
| 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 | | | | | |
| ・行う (※図示) ・行わない | | | | | |
| スタッド、ランナーの種類 [6.7.3][表6.7.1] | | | | | |
| ※改修標準仕様書表6.7.1による。 | | | | | |
| スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示 | | | | | |
| 出入口及びこれに準じる開口部の補強 | | | | | |
| ※改修特記仕様書6.7.4(5)による | | | | | |
| ビニル床シート、ビニル床タイルの特殊機能 [6.8.2] | | | | | |
| 帯電防止 | | | | | |
| ・帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上3.2未満、または体積電気抵抗値(JIS A 1454)1x10 ⁷ ~1x10 ⁹ Ω程度 | | | | | |
| 耐動荷重 | | | | | |
| JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩耗性試験、層間はく離強度試験(発泡層のあるビニル床シートのみ)およびキャスト性試験等の試験後、異常がないこと。 | | | | | |
| 施工箇所の下地がセメント系下地および木質系下地以外の場合の接着剤の種類 ※図示 | | | | | |
| ビニル床シート張り [6.8.2] | | | | | |
| 記号 | 施工箇所 | 色柄 | 厚さ(mm) | 特殊性能 | |
| ※FS | | 無地 | ※2.0 ・2.5 | ・帯電防止 ・耐動荷重 ・耐薬品性 ・防汚性 | |
| ○HS | 脱衣室、シャワー室 (参考:サンゲツフロア) | ※無地 ○柄物 | ○2.8 | ○抗菌、防カビ ○防汚性 | |
| 再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること。(PFの場合を除く) | | | | | |
| 目地処理する場合の工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所:) [6.8.3] | | | | | |
| ビニル床タイル張り [6.8.2] | | | | | |
| 記号 | 施工箇所 | 色柄 | 寸法(mm) | 厚さ(mm) | 特殊性能 |
| ・TT (単層ビニル床 タイル) | | ※無地 | ・300×300 ・450×450 | ※2.0 | ・帯電防止 ・耐動荷重 ・防汚性 |
| ・FT (複層ビニル床 タイル) | | ※無地 | ・300×300 ・450×450 | ※2.0 | ・帯電防止 ・耐動荷重 ・防汚性 |
| ・KT (コンポジション ビニル床タイル) | | ※無地 | ・300×300 ・450×450 | ※2.0 | ・帯電防止 ・耐動荷重 ・防汚性 |
| 再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること。 | | | | | |
| 視覚障害者用床タイル(形状 JIS T 9251) [6.8.2] | | | | | |
| 施工箇所 | 種類 | 寸法(mm) | 厚さ(mm) | | |
| 屋内 | ※塩化ビニル製 ・レジンコンクリート製 ・磁器またはせっ器質タイル ・タイルカーベット | ※300×300程度 ※300×300程度 ※300×300程度 ※300×300程度 | ・ ・ ・ ・ | ※7程度 ・ ・ ・ | |
| 屋外 | ・レジンコンクリート製 ・磁器またはせっ器質タイル | ※300×300程度 ※300×300程度 | ・ ・ | ※30程度 ・ | |
| ビニル幅木 [6.8.2] | | | | | |
| 材質 ※軟質 ・硬質 | | | | | |
| 高さ(mm) ※60 ・75 ・100 | | | | | |
| 厚さ(mm) ※2.0 | | | | | |

8. カーペット敷き

⑨ 合成樹脂塗床

10. フローリング張り [G]

11. 畳敷き

| | | | | | |
|---|---|-------------------|--|---------------------|---------------|
| ゴム床タイル [6.8.2] | | | | | |
| 種類 | バイル形状 | 帯電性 | 織り方 | 色柄等 | 備考 |
| 種類 色柄 厚さ(mm) 寸法(mm) | ・単層品 ・複層品 () ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 () | ※人体帯電圧 3kv以下 | ・ウルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アクセスミンスターカーペット | ・無地 ・柄物 (標準品) | |
| 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 [6.9.2][表6.9.1] | | | | | |
| タフテッドカーペット | | | | | |
| バイル形状 | バイル長さ(mm) | 工法 | 帯電性 | 備考 | |
| ・カットバイル | ※5~7 | ※全面接着工法 | ※人体帯電圧 3kv以下 | | |
| ・B種 | | ・グリッパー工法 | | | |
| ・B種 | ※4~6 | | | | |
| ・C種 | | | | | |
| ・カット、ループ併用 | ※4 | | | | |
| ・カット、ループ併用 | ・ | | | | |
| ニードルパンチカーペット [6.9.2] | | | | | |
| 帯電性 ※人体帯電圧3kv以下 | | | | | |
| 厚さ(mm): | | | | | |
| 備考: | | | | | |
| タイルカーペット [6.9.2] | | | | | |
| バイル形状 | 種別 | 施工場所 | 寸法(mm) | 総厚さ(mm) | 備考 |
| ※ループバイル | ※第一種 ・第二種 | | ※500×500 | ※6.5 | |
| ・カットバイル | | | | | |
| ・カット、ループ併用 | | | | | |
| 帯電性 ・人体帯電圧3kV以下(フリーアクセスフロア敷設範囲) | | | | | |
| 下敷き材 ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号呼び厚さ8mm | | | | | |
| 敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し | | | | | |
| 階段部分 ※模様流し ・市松敷き | | | | | |
| 見切り、押さえ金物 ・適用する(材質、形状等 ※図示) | | | | | |
| 種別 施工箇所 仕上りの種類 [6.10.3][表6.10.4~6.10.8] | | | | | |
| 厚膜型塗床材 | 弾性ウレタン塗床 | シャワー室排水溝 | ※平滑仕上げ | ・防汚仕上げ | |
| | ・エポキシ樹脂塗床 | | ・つや消し仕上げ | | |
| | | | ・薄膜流し展べ工法(・平滑・防汚) | | |
| | | | ・厚膜流し展べ工法(・平滑・防汚) | | |
| | | | ・樹脂モルタル工法(・平滑・防汚) | | |
| ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 [6.10.2] | | | | | |
| ※F☆☆☆☆ | | | | | |
| ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ [6.11.2] | | | | | |
| 単層フローリング [6.11.2~6][表6.11.1][表6.11.3][表6.11.5] | | | | | |
| 種類 | 工法 | 樹種 | 厚さ(mm) | 大きさ(mm) | 仕上塗装 |
| ・フローリング ボード1等 | ・釘留め工法 ・根太張り工法 ・直張り工法 ・接着工法 | ※なら | ・15 ・12以上 | 幅75以上 ・長さ400以上 | ・塗装品 ・無塗装品 |
| ・フローリング ブロック1等 | ・接着工法 | ※なら | ※15 | ※303×303 | |
| ・モザイク パーケット1等 | ・接着工法 | | | | |
| 天然木化粧複合フローリング [6.11.2~6][表6.11.2][表6.11.4][表6.11.6] | | | | | |
| 樹種 | 工法 | 種別 | 厚さ・大きさ | 防湿処理 | 仕上塗装 |
| ※なら | ・釘留め工法 ・根太張り工法 ・直張り工法 | ・A種 ・B種 ・C種 | | ・行う | ・塗装品 ・無塗装品 |
| | ・接着工法 ・接着材 ※合成樹脂発泡シート | | | | |
| 現場塗装 [6.11.6] | | | | | |
| ・行う(施工箇所) | | | | | |
| ※ウレタン樹脂ワニス塗り | | | | | |
| ・オイルステインの上、ワックス塗り | | | | | |
| ・生地のままワックス塗り | | | | | |
| 種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種(畳床) [6.12.2][表6.12.1] | | | | | |
| ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ | | | | | |
| 畳表および畳床はVOC含有量が少ないものとする。 | | | | | |

12. セッコウボードその他
ボード及び合板張り

13. 壁紙張り

⑩ モルタル塗り

⑪ タイル張り [G]

| | | | | | |
|---|---------------------|--|-----|-------|----|
| 種類 JISの記号 厚さ(mm)、規格等 [6.13.2] | | | | | |
| 種類 | JISの記号 | 厚さ(mm) | 規格等 | | |
| ・硬質木毛セメント板 | HW [G] | ・15 ・20 ・25 | | | |
| ・中質木毛セメント板 | MW [G] | ・15 ・20 ・25 | | | |
| ・普通木毛セメント板 | NW [G] | ・15 ・20 ・25 | | | |
| ・硬質木片セメント板 | HF [G] | ・12 ・15 ・18 ・21 | | | |
| ・普通木片セメント板 | NF [G] | ・30 | | | |
| ・けい酸カルシウム板 | 0.8FK 1.0FK | タイプ2(無石綿) ・6 ・8 | | | |
| ・ロックウール化粧吸音板 | DR | ※フラットタイプ(※9(不燃) ・12 ・) ・凹凸タイプ(※12(不燃) ・15 ・) | | | |
| ・ロックウール吸音ボード1号 | RW-B | ※25 | | | |
| ・グラスウール吸音ボード32K | GW-B | ※25(ガラスクロス包) | | | |
| ・せっこうボード | GB-R | ※12.5(不燃) ・15(不燃) ・9.5(準不燃) | | | |
| ・不燃積層せっこうボード | GB-NC | 9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) 専用下地材有り | | | |
| ・シーリングせっこうボード | GB-S | 12.5(不燃) | | | |
| ・強化せっこうボード | GB-F | ・12.5(不燃) ・15(不燃) | | | |
| ・せっこうラスボード | GB-L | 9.5 | | | |
| ・化粧せっこうボード | GB-D | ・12.5(不燃) ・9.5(準不燃) ・トラバーチン ・木目(幅440mm程度) 模様(※柱目 ・板目) 専用下地材有り | | | |
| ・普通合板 | [G] | 表面の材種 ・生地、透明塗料塗り(ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り(しな合板程度) 板面の品質() 厚さ()mm 接着の程度() ・防虫処理 | | | |
| ・天然木化粧合板 | | 化粧板の樹種名() 接着の程度(・1類・2類) 厚さ(mm)()タイプ ・防虫処理 | | | |
| ・特殊加工化粧合板 | | ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 表面性能()タイプ 接着の程度(・1類・2類) 厚さ(mm)()タイプ ・防虫処理 | | | |
| ・メラミン樹脂化粧板 | | JIS K6903による 厚さ1.2 | | | |
| ・ポリエスチル樹脂化粧板 | | | | | |
| ・ミディアムテンシティファイ バーボード | MF [G] | ・3 ・7 ・9 ・12 | | | |
| ・単板張りパーティクル ボード | [G] | ・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 | | | |
| ・化粧パーティクルボード | [G] | ・単板オーバーレイ ・プラスチックオー ーレイ ・塗装 ・10(難燃) ・12(難燃) | | | |
| ・ハードボード(素地) | HB [G] | ・無研磨板(・スタンダード・テンパード) ・研磨板(・スタンダード・テンパード) | | | |
| ・ハードボード(化粧) | [G] | ・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 | | | |
| ・インシュレーションボード | IB [G] | A級(・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 | | | |
| 遮音シール材 [6.13.2] | | | | | |
| ・適用する(・アクリル系シーリング材 ・ウレタン系シーリング ・ジョイントコンパウンド) 合板類、繊維板およびパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 [6.13.2] | | | | | |
| ※F☆☆☆☆ | | | | | |
| 合板類の張付け ・A種 ※B種 [6.13.3] | | | | | |
| せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による | | | | | |
| ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ [6.14.2] | | | | | |
| 施工箇所 | 壁紙の種類 | 防火性能 | 備考 | | |
| | 紙 繊維 プラスチック 無機質 その他 | | | | |
| | ・ () | ※不燃・準不燃・難燃 | | | |
| | ・ () | ※不燃・準不燃・難燃 | | | |
| | ・ () | ※不燃・準不燃・難燃 | | | |
| | ・ () | ※不燃・準不燃・難燃 | | | |
| 全て防かび剤入り接着剤、防かび剤入りシーラーを使用する。 [6.14.3][表7.2.7] | | | | | |
| せっこうボードの下地調整 [6.14.3][表7.2.7] | | | | | |
| ※R種 (施工箇所) | | | | | |
| モルタル ⑩現場調合材料(セメントは改修特記仕様書8-2コンクリート工事による) [6.15.3] | | | | | |
| ⑪既調合材料 | | | | | |
| 既製目地材 ・使用する [6.15.3] | | | | | |
| 床目地 種類 ※押し目地 [6.15.6] | | | | | |
| 目地割り ※2m程度 | | | | | |
| 最大目地間隔 ※3m程度 | | | | | |
| 伸縮調整目地の位置 床タイル(※縦、横とも4m以内ごと) ・図示 ○設けない [6.16.2] | | | | | |
| 床タイル以外 (・図示) | | | | | |
| 伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による | | | | | |
| セメントモルタルによるタイル張り | | | | | |
| タイルの形状、寸法等 [6.16.3] | | | | | |
| 施工箇所 | 形状寸法 (mm) | 再生材 | 吸水率 | うわぐすり | 役物 |
| | 通用 | 1類 2類 3類 | | | |
| | | | | | |
| 男女トイレ床 | 25×25 | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 標準的な曲がりの役物は一体成形とする [6.16.3] | | | | | |
| 試験張り ・行う | | | | | |
| 見本焼き ・行う | | | | | |
| 有機系接着剤によるタイル張り | | | | | |
| タイルの形状、寸法等 [6.16.4] | | | | | |
| 施工箇所 | 形状寸法 (mm) | 再生材 | 吸水率 | うわぐすり | 役物 |
| | 通用 | 1類 2類 3類 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

16. セルフレベリング材塗り [6.16.3] [6.16.4] [6.17.2] [表6.17.1]
17. ブラインド [2.3.1] [5.1.6] [20.2.12]
18. カーテン [2.3.1] [5.1.6] [20.2.14]
19. カーテンレール [5.1.6] [20.2.14]
20. ブラインドボックス およびカーテンボックス [5.1.6] [5.2.4]
21. フリーアクセスフロア (20.2.2)
22. 可動開仕切 (20.2.3)
23. 移動開仕切 (20.2.4)
24. トイレブース (20.2.5)

25. 表示 (20.2.10)
26. 天井見切縁
27. 天井点検口
28. 床点検口
29. 床点検口
30. かぎ箱
31. 材料 [7.1.3]
32. 塗装業者 [7.1.3]
33. 下地調整 [7.2.1] [表7.2.1~7.2.7]
34. 錆止め塗料塗り [7.3.2~7.3.3] [表7.3.1~7.3.4]

35. 塗装 [7.4.2~7.14.2] [表7.4.1~7.14.1]
36. 耐震改修工事 共通事項
37. 撤去工事
38. 鉄筋の種類 [8.2.1] [表8.2.1]

39. 溶接金網
40. 鉄筋の加工および組立て [8.3.4] [8.4.2] [8.4.3]
41. 機械式継手 [8.4.2]
42. 溶接継手 [8.4.3]
43. 柱の配筋 [8.3.4] [参考図1.1]
44. 梁の配筋 (参考図3.2)
45. 壁の配筋および補強 [8.3.7]
46. 各部配筋 (5.3.7)
47. ガス圧接 [8.3.8] (5.4.9)
48. 割製補強筋 [8.21.6] [8.22.7]
49. コンクリートの種類 および強度 [8.1.3] [8.1.4]
50. セメントの種類 [8.2.5] [表8.2.3]
51. 骨材 [8.2.5]
52. 混和材料 [8.2.5]
53. 構造用モルタル [8.2.6]
54. 構造体強度補正值 および適用期間 [8.2.5] (6.3.2) (表6.3.2) (6.12.2)

| 7. 寒中コンクリートの適用期間 (6.11.1) | <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種 高炉セメントB種</th> </tr> <tr> <td>福井・丹南地区</td> <td>1/1~ 2/20</td> </tr> <tr> <td>大野・勝山地区</td> <td>12/11~ 3/10</td> </tr> <tr> <td>嶺南地区</td> <td>1/11~ 2/10</td> </tr> </table> | 種類 | 普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種 高炉セメントB種 | 福井・丹南地区 | 1/1~ 2/20 | 大野・勝山地区 | 12/11~ 3/10 | 嶺南地区 | 1/11~ 2/10 | 3. シアコネクタ 現場打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ 種類 ※金属拡張系あと施工アンカーの異形差防アンカー 径 (mm) ※D10 長さ (mm) ※8d (d:シアコネクタの径) 埋込み深さ (mm) 間隔 (mm) ※500×500 シアコネクタとセパレーターの兼用 ※兼用してもよい・兼用しない [8.7.8] | 13. 鉄骨ブレース設置後の仕上げ 14. 柱底均しモルタルの工法 15. 錆止め塗料の種類 16. 鉄骨ブレース設置後の仕上げ 17. 柱底均しモルタルの工法 18. 錆止め塗料の種類 | 8-6 グラウト工事 1. モルタルおよびグラウト材 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-7 連続繊維補強工事 1. 連続繊維補強工法 2. 連続繊維シートおよび浸透接着剤等の材料 3. 連続繊維シートの施工準備 4. 連続繊維シートの貼付け 5. 連続繊維補強材の強度試験 6. 仕上げ | 8-8 耐震スリット新設工事 1. スリットの種類 | 2. スリットの施工 3. スリットの充填材の挿入及び周囲補修等 | 8-9 免震・制振改修工事 1. 材料および性能確認試験 2. 免震材料または減震材の設置 3. 既存構造体との取合い 4. 設置後の仕上げ 5. 耐火被覆 6. 免震エキスパンションジョイント 7. 検査 | 8-10 基礎工事 1. 一般事項 2. 既存杭の撤去等 3. 埋戻しおよび盛土 4. 山留めの存置 5. 杭地業 6. 砂利地業 7. 捨てコンクリート地業 | <table border="1"> <tr> <th colspan="4">部分スリットの形状</th> </tr> <tr> <th>記号</th> <th>片側スリット</th> <th>両側スリット</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>形状</td> <td>※図示</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅W (mm)</td> <td>※図示</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地部の残存厚さt8 (mm)</td> <td>※壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td> <td>※壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既存鉄筋の処理</td> <td>・存置する ・既存鉄筋はつり出し・切断してよい</td> <td>・存置する ・切断してよい</td> <td></td> </tr> </table> | 部分スリットの形状 | | | | 記号 | 片側スリット | 両側スリット | 備考 | 形状 | ※図示 | ※図示 | | 幅W (mm) | ※図示 | ※図示 | | 目地部の残存厚さt8 (mm) | ※壁厚の1/2以下かつ70mm以下 | ※壁厚の1/2以下かつ70mm以下 | | 既存鉄筋の処理 | ・存置する ・既存鉄筋はつり出し・切断してよい | ・存置する ・切断してよい | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|------------------------------|---------------------------------------|--|--|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-----|----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | 種類 | 普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種 高炉セメントB種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福井・丹南地区 | 1/1~ 2/20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大野・勝山地区 | 12/11~ 3/10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 嶺南地区 | 1/11~ 2/10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 部分スリットの形状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記号 | 片側スリット | 両側スリット | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 形状 | ※図示 | ※図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 幅W (mm) | ※図示 | ※図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目地部の残存厚さt8 (mm) | ※壁厚の1/2以下かつ70mm以下 | ※壁厚の1/2以下かつ70mm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 既存鉄筋の処理 | ・存置する ・既存鉄筋はつり出し・切断してよい | ・存置する ・切断してよい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 打継ぎの位置、打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 (6.6.4) (6.8.1) | <p>打継ぎの位置 ※標準仕様書6.6.4.(1)による・図示による ()</p> <p>目地寸法 ※標準仕様書9.7.3.(1)(7)による・図示による ()</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ・図示による ()</p> | ④穿孔機械 ①ハンマードリル ※低騒音、低振動型穿孔機 (ダイヤモンドコアドリル、ハイブリッドコアドリル、ミストドリル、ソノドリル等) | 8-6 グラウト工事 グラウト材 無収縮グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | 8-6 グラウト工事 グラウト材 プレミックスおよび現場調合形 混和材料 セメント系 (酸化カルシウムおよびカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. せき板合板等の材質等 (8.2.7) | <p>塗装 ・有 (使用部位) () ・無 ()</p> <p>材料 ○合板 (※12mm) () [G] ○無 ()</p> <p>メッシュ型枠 JIS G 3302 (使用部位 埋設となる基礎、基礎梁および関連する柱部分 (ただし、見えがかりで仕上げの無い部分は除く) とする。その際、コンクリートは10mmふかすこととし、寒中コンクリートの養生方法、型枠締付け方法については、監督職員の承諾を得ること。)</p> <p>・断熱材兼用型枠 (使用部位 ())</p> <p>・MCR工法用シート (使用部位 打増し厚さ・20mm ())</p> <p>・床型枠用鋼製デッキプレート (使用部位 ())</p> <p>・ (使用部位 ())</p> <p>スリーブの材質及び規格等 ()</p> <p>・図示による () [8.2.7]</p> | 1. 鉄骨製作工場 [8.1.5] (7.1.3) ※建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株) 日本鉄骨評価センターまたは(株) 全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(・S・H・M・R・J) グレード」として国土交通大臣から認可を受けた工場または同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場 [8.1.5] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. コンクリートの打込み工法等 (8.21.8) [8.23.5] | <p>部位毎のコンクリートの打設工法の指定 [8.21.8] [8.23.5]</p> <table border="1"> <tr> <th>補強工法</th> <th>打設工法</th> <th>部位</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">現場打ちコンクリート壁の増設工事</td> <td>・流込み工法 [8.19.8(a) (1), (b)]</td> <td>・全ての増設壁・図示</td> </tr> <tr> <td>・圧入工法 [8.19.8(a) (2), (c)]</td> <td>・全ての増設壁・図示</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻きおよび溶接閉鎖フープ巻き工法</td> <td>・流込み工法 [8.21.5(c) (i)]</td> <td>・全ての補強柱・図示</td> </tr> <tr> <td>・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)]</td> <td>・全ての補強柱・図示</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法および溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等</td> <td>・流込み工法 [8.21.5(c) (i)]</td> <td>・全ての補強柱・図示</td> </tr> <tr> <td>・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)]</td> <td>・全ての補強柱・図示</td> </tr> </table> <p>鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法および溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 [8.23.5]</p> <p>柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ※免泡プラスチック保温材等を埋込む・柱頭柱脚の隙間寸法 ※図示</p> <p>あと打ちコンクリートまたはモルタルの厚さ ※図示 mm</p> | 補強工法 | 打設工法 | 部位 | 現場打ちコンクリート壁の増設工事 | ・流込み工法 [8.19.8(a) (1), (b)] | ・全ての増設壁・図示 | ・圧入工法 [8.19.8(a) (2), (c)] | ・全ての増設壁・図示 | 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻きおよび溶接閉鎖フープ巻き工法 | ・流込み工法 [8.21.5(c) (i)] | ・全ての補強柱・図示 | ・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)] | ・全ての補強柱・図示 | 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法および溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 | ・流込み工法 [8.21.5(c) (i)] | ・全ての補強柱・図示 | ・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)] | ・全ての補強柱・図示 | 2. 施工管理技術者 [8.1.5] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 補強工法 | 打設工法 | 部位 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現場打ちコンクリート壁の増設工事 | ・流込み工法 [8.19.8(a) (1), (b)] | ・全ての増設壁・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・圧入工法 [8.19.8(a) (2), (c)] | ・全ての増設壁・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻きおよび溶接閉鎖フープ巻き工法 | ・流込み工法 [8.21.5(c) (i)] | ・全ての補強柱・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)] | ・全ての補強柱・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法および溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 | ・流込み工法 [8.21.5(c) (i)] | ・全ての補強柱・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・圧入工法 [8.21.5(c) (ii)] | ・全ての補強柱・図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. コンクリートの仕上げ (8.1.4) [表8.1.4] | <p>打ち放し仕上げ [8.1.4] [表8.1.4]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </table> <p>仕上り平たんさ [8.1.4] [表8.1.5]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・a種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>和風便器閉塞部 (男女トイレ床)</td> </tr> </table> | 種別 | 施工箇所 | ・A種 | | ・B種 | | ・C種 | | 種別 | 施工箇所 | ・a種 | | ・b種 | | ・c種 | 和風便器閉塞部 (男女トイレ床) | 3. 鋼材 [8.2.8] [表8.2.7] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種別 | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・A種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・C種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種別 | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・a種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・b種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・c種 | 和風便器閉塞部 (男女トイレ床) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. 外部に面する打直し仕上げ (8.7.8) | 打増し厚さ ※図示 [8.7.8] | 4. 普通ボルト [8.13.2] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8-4 あと施工アンカー工事 | <p>①あと施工アンカーの材料 [8.2.4]</p> <p>あと施工アンカーの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>セメント方式</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>埋込深さ (mm)</th> <th>引張耐力 (kN)</th> <th>せん断耐力 (kN)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※本体打込み式改良型</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○スリーブ打込み式</td> <td>D13</td> <td>50</td> <td>17.9</td> <td>29.6</td> <td></td> </tr> </table> <p>接合筋の種類、径、長さ ※図示</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>埋込深さ (mm)</th> <th>引張耐力 (kN)</th> <th>せん断耐力 (kN)</th> </tr> <tr> <td>・接合系</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※カプセル式 回転・打撃式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカー筋の径および埋込み深さ ※図示</p> <p>接着剤の品質 ※有機系・無機系</p> <p>アンカー筋の種類 ※表8.2.1の異形種類・図示</p> <p>アンカー筋の新設壁内への定着長さ ※頭部ナット付き 20d ・頭部ナット無し 30d (dはアンカー筋径)</p> <p>②あと施工アンカーの確認試験 [8.2.4]</p> <p>性能確認試験 ※実施しない</p> <p>・実施する (試験方法及び試験数・図示 ())</p> <p>施工確認試験 ※実施する [8.12.7]</p> <p>試験方法 ※引張試験</p> <p>確認強度 ※図示 ○許容引張荷重の2/3 1ロット3本以上</p> <p>・実施しない</p> <p>穿孔前の埋込み配管等の調査 [8.12.4]</p> <p>※鉄筋探知器 (金属探知器) により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う</p> <p>・はつり出しによる</p> | セメント方式 | 呼び径 (mm) | 埋込深さ (mm) | 引張耐力 (kN) | せん断耐力 (kN) | 備考 | ※本体打込み式改良型 | | | | | | ○スリーブ打込み式 | D13 | 50 | 17.9 | 29.6 | | 種類 | 呼び径 (mm) | 埋込深さ (mm) | 引張耐力 (kN) | せん断耐力 (kN) | ・接合系 | | | | | ※カプセル式 回転・打撃式 | | | | | 5. 高力ボルト [8.2.9] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 |
| セメント方式 | 呼び径 (mm) | 埋込深さ (mm) | 引張耐力 (kN) | せん断耐力 (kN) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※本体打込み式改良型 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○スリーブ打込み式 | D13 | 50 | 17.9 | 29.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 呼び径 (mm) | 埋込深さ (mm) | 引張耐力 (kN) | せん断耐力 (kN) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・接合系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※カプセル式 回転・打撃式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. 溶接部の試験 (8.15.12) | H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験の方法 [8.15.12] | 6. 仮組 [8.13.10] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 錆止め塗装 (7.3.3) [8.17.2] | <p>塗装の範囲 [7.3.3] [8.17.2]</p> <p>耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ※図示による ()</p> <p>耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※標準仕様書8.17.2(1)(7)~(4) ※図示による ()</p> <p>塗装の種類</p> <p>・鉄鋼面の錆止め塗料の種類</p> <p>屋外 ※A種</p> <p>屋内 ※A種</p> <p>・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種類</p> <p>・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨で溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種</p> | 7. 技能資格者 [8.15.3] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 耐火被覆材の種類および性能 (8.18.2)~[8.18.8] | <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能 (耐火時間)</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">耐火被覆材の種類</td> <td>耐火被覆材吹付け</td> <td>・乾式吹付ロックウール ・半乾式吹付ロックウール ・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火被覆材張り</td> <td>・繊維混入ケイ酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">耐火被覆材の種類</td> <td>ラス張りモルタル塗り</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火塗料</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>材料および工法は、建築基準法に基づき指定または認定を受けたものとする</p> | 種類 | 種類 | 材料・工法 | 性能 (耐火時間) | 適用箇所 (部位・部分) | 耐火被覆材の種類 | 耐火被覆材吹付け | ・乾式吹付ロックウール ・半乾式吹付ロックウール ・湿式ロックウール | | | 耐火被覆材張り | ・繊維混入ケイ酸カルシウム板 | | | 耐火材巻付け | ・高断熱ロックウール | | | 耐火被覆材の種類 | ラス張りモルタル塗り | — | | | 耐火塗料 | — | | | 8. 錆止め塗料の種類 [8.17.2] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | |
| 種類 | 種類 | 材料・工法 | 性能 (耐火時間) | 適用箇所 (部位・部分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐火被覆材の種類 | 耐火被覆材吹付け | ・乾式吹付ロックウール ・半乾式吹付ロックウール ・湿式ロックウール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 耐火被覆材張り | ・繊維混入ケイ酸カルシウム板 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 耐火材巻付け | ・高断熱ロックウール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耐火被覆材の種類 | ラス張りモルタル塗り | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 耐火塗料 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) (表7.10.1) | <p>構造用アンカー [7.2.4] (7.10.3) (表7.10.1)</p> <p>材質 ※SNR400B</p> <p>アンカーフレームの形状および寸法 ※図示</p> <p>建方用アンカー</p> <p>材質 ※SS400</p> <p>アンカーボルトの保持および埋込み工法</p> <p>種別 ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>均しモルタルの厚さ ※50mm ・30mm</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示 [8.13.2]</p> | 9. 溶接部の試験 [8.15.12] | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | 8-6 グラウト工事 2. 既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

①一般事項

関係法令等の遵守
 大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則（以下石綿則）
 特定化学物質等障害予防規則、廃棄物の処理および清掃に関する法律（以下廃掃法）
 福井県アスベストによる健康被害の防止に関する条例
 既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説
 建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・同解説

施工調査 [9.1.1]
 ②アスベスト含有建材の有無 ・行わない（含有しているものとして除去）
 目視、および既存資料による製造年等の確認
 ③建材中の石綿含有率の分析 ④目視、製造年等にて判別できない場合に実施する）
 分析方法
 ○JIS A 1481-2 または JIS A 1481-3による ・
 分析結果については、監督職員に報告すること。

| 材料名 | 定性分析 | 定量分析 |
|------------------|------------|----------|
| 天井ケイ酸カルシウム板 t6.0 | ○（試験数： 1 ） | ・（試験数： ） |
| 給湯配管保温材 | ○（試験数： 1 ） | ・（試験数： ） |

採取箇所は図示

アスベスト粉じん濃度測定
 ・行う（石綿含有率5質量%超）
 測定室（ ）

| 適用 測定名称 | 測定時期 | 測定場所 | 測定点 (各施工箇所ごと) | 備 考 |
|---------|-------------------|---------------------|------------------------------|-------|
| ・ 測定 1 | 処理作業前 | 処理作業室 | 各 2点～5点 | (注) 1 |
| ・ 測定 2 | 調査対象室外部の付近 | 計 2点 | 大気 | |
| ・ 測定 3 | 処理作業室内 | 各 2点～5点 | (注) 1 | |
| ・ 測定 4 | 処理作業中 | 負圧・除じん装置の 排出吹出し口 | 出口吹出し風速 1m/sec 以下の位置 各 2点 | — |
| ・ 測定 5 | 処理作業後 | 処理作業室外(敷地境界) | 4方向各 1点 | — |
| ・ 測定 6 | 処理作業後 (シート養生中) | 処理作業室内 | 各 2点 | — |
| ・ 測定 7 | 処理作業後シート | 処理作業室内 | 各 2点～5点 | (注) 1 |
| ・ 測定 8 | 撤去後 1週間以降 | 調査対象室外部の付近 | 計 2点 | 大気 |

(注) 1. 各施工箇所ごとの作業室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点、1000㎡以下までは4点、1000㎡を超えるものは5点とする。

・行う（石綿含有率5質量%以下）
 測定室（ ）

| 適用 測定名称 | 測定時期 | 測定場所 | 測定点 (各施工箇所ごと) | 備 考 |
|---------|-------------------|---------------------|------------------|-----|
| ・ 測定 1 | 処理作業前 | 処理作業室 | 各 1点 | — |
| ・ 測定 2 | 調査対象室外部の付近 | 計 1点 | 大気 | |
| ・ 測定 3 | 処理作業室内 | 各 1点 | — | |
| ・ 測定 4 | 処理作業中 | 負圧・除じん装置の 排出吹出し口 | 各 1点 | — |
| ・ 測定 5 | 処理作業後 | 処理作業室外(敷地境界) | 計 1点 | — |
| ・ 測定 6 | 処理作業後 (シート養生中) | 処理作業室内 | 各 1点 | — |
| ・ 測定 7 | 処理作業後シート | 処理作業室内 | 各 1点 | — |
| ・ 測定 8 | 撤去後 1週間以降 | 調査対象室外部の付近 | 計 2点 | 大気 |

アスベスト粉じん濃度測定方法

| 名称 | 測定 3 | 測定 1, 2, 4, 6, 7, 8 | 測定 5 |
|--------------|----------------------------|---------------------|----------|
| 計数機器 | 位相差顕微鏡 | | |
| メンブレンフィルタの直径 | 25mm | | 47mm |
| 試料の吸引流量 | 1 l/min | 5 l/min | 10 l/min |
| 試料の吸引時間 | 5min | 120min | 240min |
| 試料の透明化 | アセトントリアセチン法またはシュウ酸ジエチル法 | | |
| 計数条件 | 総アスベスト繊維数200本または視野数50視野 | | |
| 計数アスベスト | 直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上 | | |
| 定量限界 | 5.0 f/l | 0.5 f/l | 0.3 f/l |

処理を行う吹付けアスベストの仕様等

| 材料名 | 厚さ (mm) | 処理を行う範囲 |
|-----|---------|---------|
| | | ※図示 |

処理方法 [9.1.1][9.1.3]
 ※除去工法（固形化 ・行う）
 ・封じ込め工法
 劣化の著しい部分、下地との接着が不良な部分については改修標準仕様書9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う
 封じ込めの工法は施工業者の仕様により、除去物および汚染物質の処理等は改修標準仕様書9.1.3 (b) (2)による
 なお、施工にあたっては、改修標準仕様書9.1.2除去工事共通事項を適用する。
 ・囲い込み処理

施工調査等 ※行う [9.1.1]

専門工業者が工事に相応した技術を有することを証明する資料 [9.1.2.]
 「吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術」（民間開発建設技術の技術審査・証明事業認定規定）の証明書または、同等の技術を有することを証明する資料（監指）

石綿作業主任者
 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

除去作業者
 1. 施工業者より下記の科目について、アスベスト処理に関する衛生のための特別の教育を受けていること。（石綿則）
 イ 石綿等の有害性
 ロ 石綿等の使用状況
 ハ 石綿等の粉じんの発散を抑制するための措置
 ニ 保護具の使用法
 ホ 前各号に掲げるもののほか、石綿等のばく露防止に關し必要な事項
 2. 以下の健康診断を受診し、診断の結果、肺機能に異常がない者とする。
 イ 労働安全衛生法に基づく一般健康診断（1年以内に受診）
 ロ 石綿障害予防規則に基づく特殊健康診断（6カ月以内に受診）
 ハ じん肺法に基づくじん肺健康診断（3年以内に受診）

施工計画書
 施工計画書に下記事項についても記載する。（石綿則）
 1. 作業の方法および手順
 2. 石綿粉じんの発散を防止し、また制御する方法
 3. 労働者への石綿粉じんのばく露を防止する方法

監9.1.2 (a) (ii) の⑩のその他必要な事項として下記の書類を添付する。
 1. 石綿作業主任者が特定化学物質等作業主任者技術講習修了証の写し
 2. 特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有することを証明する書類の写し
 3. 委託する特別管理産業廃棄物処理業者の都道府県知事の許可書の写し

官公署その他への手続き
 1. 労働安全衛生法の工事計画届（労働基準監督署）
 2. 石綿障害予防規則の作業届（労働基準監督署）
 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届（知事）
 4. アスベスト排出等作業等完了届出書（知事）一票衆例
 5. 大気汚染防止法の事前調査報告（知事・発注者）、提示

アスベストの除去処理（密封処理） [9.1.3]
 保管、表示（廃掃法）
 アスベスト廃棄物は保管にあたって、他の廃棄物と別列する。アスベスト廃棄物を収納する袋等に、個々にアスベスト廃棄物である旨を表示する。
 除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・固形化 ・

収集・運搬（廃掃法）
 アスベスト廃棄物の収集・運搬にあたっては、他の廃棄物と混載してはならない。廃棄物が飛散、流出しないように措置を講じる。

注）アスベスト廃棄物とは吹付けアスベスト除去物、仮設養生プラスチックシート、HEPAフィルター、プラスチック系特殊作業服、靴カバー、室内掃除用スポンジ等を含む。

最終処分
 アスベスト廃棄物の最終処分は、埋立処分により行うこととし、都道府県知事に許可を受けた最終処分場で行う。

アスベスト含有建材除去後の仕上げ
 ※図示（耐火被覆および断熱材の除去後は、除去材料同等以上の性能の仕上材とする）

処理を行うアスベスト保温材等の仕様等

| 材料名 | 厚さ (mm) | 処理を行う範囲 |
|-----|---------|---------|
| | | ※図示 |

施工調査等 ※行う [9.1.1]

アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない ・行う

石綿作業主任者
 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

特別管理産業廃棄物管理責任者
 保温材等については、排出事業者は特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選択し管理させる。

除去工法 ・破砕して除去 ・手ばらし
 除去したアスベスト含有保温材等の材等の飛散防止措置 ※湿潤化 ・固形化 ・

官公署その他への手続き
 1. 労働安全衛生法の工事計画届（労働基準監督署）
 2. 石綿障害予防規則の作業届（労働基準監督署）
 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届（知事）
 4. アスベスト排出等作業等完了届出書（知事）一票衆例

除去物および汚染物等の処分等
 保温材等については、改修標準仕様書9.1.3(c)による。

アスベスト含有建材除去後の仕上げ
 ※図示

処理を行うアスベスト成形板の仕様等 ④施工調査にて含有発見の場合実施する）

| 材料名 | 厚さ (mm) | 処理を行う範囲 |
|------------------|---------|-----------------------|
| 天井ケイ酸カルシウム板 t6.0 | | ※図示 ○トイレ、脱衣室の切断、加工部 |
| 給湯管保温材 | | ※図示 ○洗い場ガス給湯器周囲の配管改修部 |

施工調査等 ④行う ・行わない（含有しているものとして除去） [9.1.1]

アスベスト粉じん濃度測定 ④行わない ・行う

石綿作業主任者
 石綿障害予防規則に基づき、石綿作業主任者の選定を行う。なお、石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。

表示・掲示
 改修標準仕様書9.1.2(f)による表示・掲示を行う。

アスベスト含有建材除去後の仕上げ
 ※図示

断熱材
 断熱材の種類 ・
 断熱材の厚さ (mm) ・
 施工箇所 ・図示 ・
 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

外装材
 種類（ ） 防火性能（ ）

既存外壁の措置
 既存外壁仕上げ材の撤去 ・あり ・なし [9.3.3]
 下地の清掃 ・行う ・行わない

6. ガラス改修工事 [9.4.2]
 複層ガラス
 材料ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
 ・ 器具表による
 断熱性能による区分
 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6
 日射取得性、日射減へい性による区分
 ・ G ・ S
 乾燥気体の種類
 ・ 空気 ・アルゴン

7. 断熱材 [G] [9.5.2]
 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂またはメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・

断熱材打込み工法 [9.5.2]
 断熱材 JIS A 9521Iに基づく発泡プラスチック断熱材
 種類 ・
 厚さ (mm) ・
 施工場所 ・

断熱材現場発泡工法 [9.5.3]
 断熱材の種類 ・ A種I ・ A種IH ・
 吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30
 施工箇所
 ※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
 ・ 図示
 ・ 現場発泡断熱材（品質・性能）、（試験方法） ※建築材料等品質性能表による [9.5.4]
 ・ 断熱材後張り工法
 断熱材 JIS A 9521Iに基づく発泡ぶらすच्छ断熱材
 種類 ・
 厚さ (mm) ・
 ・ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
 (材質 ・ 厚さ ・ mm)

8. 屋上緑化改修工事 [G] [9.6.1~4]
 植栽基盤および材料
 ・ 屋上緑化軽量システム
 ・ 芝および地被類の樹根ならびに種類等 ※ 図示
 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示
 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
 かん水装置 ・ 設ける（別途機械設備工事による） ・ 設けない
 既存保護層の撤去 ・ 行う

新植芝及び地被類の結核償 ※引き渡し日から1年 [9.6.4]

9. 既設舗装の撤去および再利用 [9.7.2]
 既設舗装の撤去 ・ 行う
 既設舗装の再利用 ・ 行う

10. 路床 [9.7.3] (22.2.2~3)
 凍上抑制層 ・ 適用する ※適用しない
 厚さ (mm) ・ 150 ・
 材料 ・
 フィルター層 ・ 適用する ※適用しない
 厚さ (mm) 車道部 ※150 ・
 歩道部 ※90 ・
 材料 ・
 路床安定処理 ・ 適用する（方法 ・ ） ※適用しない
 砂の粒度試験 ・ 行う ※行わない [表9.7.1]
 盛土用材料
 ・ A種 ※B種 [G] [H] ・ C種 [G] [H] ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 [G] [H]

路床土の支持力比（CBR）試験 ・ 行う ※行わない [9.7.3] (9.2.5)
 現場CBR試験 ・ 行う ※行わない
 路床の締固め試験 ・ 行う ※行わない

11. 路盤 [9.7.4] (22.3.2~3)

| 舗装の種類 | 路盤の厚さ (cm) | | 路盤材料 |
|-------------------|---------------------|-----|----------------|
| | 車道部 | 歩道部 | |
| ・ アスファルト舗装 | ・ 10 ・ 15 ・ 25 ・ 35 | 10 | ※再生クラッシュラン [G] |
| ・ インターロッキングブロック舗装 | ・ 10 ・ 15 ・ 25 | 10 | ・ クラッシュラン |
| ・ コンクリート平板舗装 | — | 10 | |

 透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする

12. アスファルト舗装 [9.7.4] (22.4.2) (22.4.3) (22.4.4) (表22.4.6)
 基層（車道部） ・ 適用する ※適用しない
 材料 アスファルト ・ ストレートアスファルト ※再生アスファルト [G]
 骨材 ・ 砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 [G]

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6)
 表層 ※密粒度アスファルト混合物 (13)
 ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
 基層 ※粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート ・ 適用する ※適用しない (22.4.5)
 アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※行わない (22.4.6)

13. ブロック系舗装 (22.9.2~22.9.3)

| 舗 装 | 種 類 | 寸法 (mm) | 厚さ (mm) | 備 考 |
|-----------------------|-------------|---------|--------------|--------------------------|
| ・ コンクリート 平板舗装 | ※普通平板 (N) | ※300角 | ※60 | 目地材 ※砂 ・ モルタル ・ |
| | ・ カラー平板 (C) | ・ | ・ | |
| ・ インターロッキング ブロック舗装 | ※普通ブロック | / | 車道部 ※ 80 | 色彩および表面加工 ※標準品 ・ |
| | ・ 透水性ブロック | | 歩道部 ※ 60 | |
| | ・ 植生ブロック | | ※80 ・ 100 | |

 ジオテキスタイル ※適用しない ・ 適用する (22.9.3)
 品質（ ）

14. 舗装の平坦性
 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・



案内図

法定面積表（当初設計図より）

| | | | |
|---------|--|-----------|----------------|
| 敷地面積 | | 1,933,311 | m ² |
| 床面積 | | | |
| 1階 | | 248.71 | m ² |
| 2階 | | 229.80 | m ² |
| 延べ | | 478.51 | m ² |
| 改修対象床面積 | | | |
| 1階 | | 36.80 | m ² |
| | | (トイレ、乾燥室) | |

敷地 概要

地名地番：福井県小浜市田島区大浜
 都市計画区域：都市計画区外
 用途地域：指定なし
 国定公園等：若狭湾国定公園第2種特別地域
 防火制限：指定なし
 積雪荷重：海岸線から2km以内 1.00m 3,000N
 地表面粗度区分：Ⅲ（建物高さ13m以下）
 風速：V0=32m/s

建物 概要

■本体建物
 鉄筋コンクリートラーメン構造 2階建て
 主要用途：研修施設（海の学習棟）
 軒高 6.75m 最高の高さ 9.55m
 耐火建築物
 屋根：スラブコンクリート t120（勾配）
 モルタル、スチロール成形下地
 S型瓦葺
 外壁：コンクリート化粧打ち放しB種
 スタッコ吹付
 （アスベスト含有無し、調査分析済）
 軒裏：コンクリート打ち放しB種
 スタッコ吹付、リシン吹付
 開口部：延焼の恐れのある部分防火設備（延焼ライン抵触無し）
 基礎：独立基礎（GL-1300）
 支持杭無し
 竣工：1984年（昭和59年）3月

■消防関係法令
 主要用途：青少年教育施設（16項イ）
 階の判定：1階2階共無窓階でない
 既存の消防設備
 ○消火器（2階2本）
 ○誘導灯（2階2か所）
 ○自動火災報知設備
 ○非常警報設備（階50人（無窓階20人））
 ○建物群として屋外消火栓設備

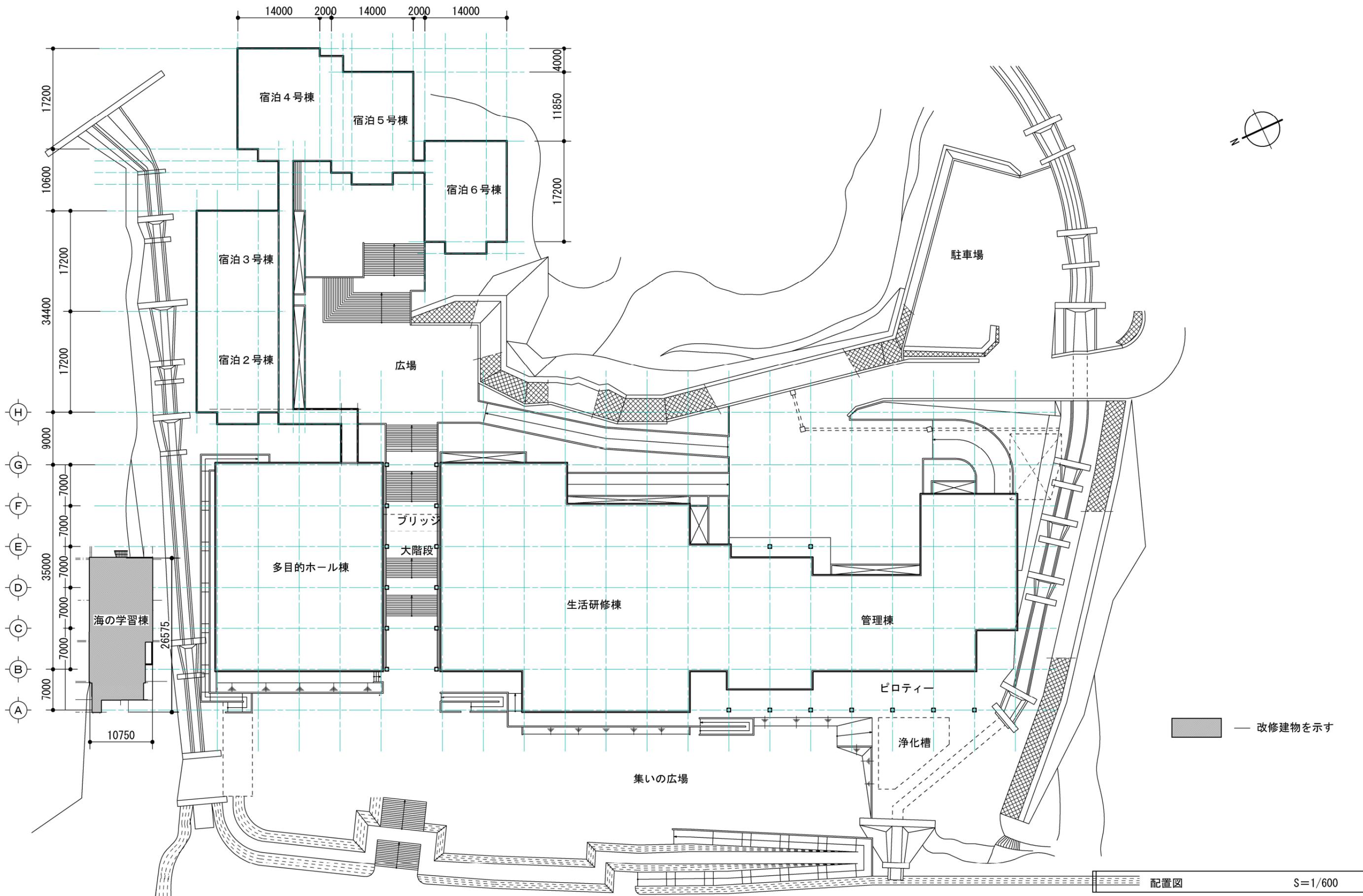
工事 概要

■改修内容

- 男女トイレ
 - ・衛生器具の更新（大便器、手すり類）
 - ・天井換気扇の更新
 - ・トイレブースの更新
 - ・床下点検口の更新
 - ・内装仕上の更新（壁・天井塗装）
- 乾燥室
 - ・車いす用シャワー室及び脱衣室に改修
 - ・衛生器具、熱源の更新（シャワーカラン等、床排水等、洗面器、手すり類）（ガス湯沸器：2階給湯系統の1台を更新、分岐）
 - ・天井換気扇の更新（耐湿型）
 - ・照明器具の更新（室配置に適したもの）
 - ・内装仕上の更新（床モルタル・塗布防水、床シート 壁・天井塗装、シャワーカーテン）
- 鋼製建具
 - ・腐食した出入口扉の塗り替え、一部更新

■工事に係る留意点

- 大気汚染防止法のアスベスト含有建材事前調査報告を実施すること。
- 別添仮設計画は参考とする。
- 工事に伴う騒音・振動・粉塵等の苦情については、施工者の責任において対処すること。
- 河川、海岸への工事中の汚水、廃棄物の流出を起こさない様十分留意すること。
- 工事車両の出入の際は安全確認に務めること。
- 建物内の内装仕上、家具、備品について、工事中に破損、損傷の無い様十分注意して養生し施工にあたること。破損、損傷に関しては施工者の責任において復旧すること。（ただし、改修室の備品は発注者が移動する）
- 外壁、外構構造物についても同様とする。
- 工事中の既存電源使用について過電流やブレーカー遮断により、電灯設備等に影響を与えないよう、接続する回路の調査を実施するなど十分な配慮を行うこと。
- 自動火災報知設備の一時撤去、試験、復旧に関して、消防協議の上、消防署への申請、受験に対応すること。
- 「若狭湾国定公園並第2種特別地域につき、外観変更の申請対象となっている為、関連工事については十分留意し、施工にあたること。



配置図 S=1/600

TITLE architecture space coordinate

PICTURE 配置図

SCALE S=1/600 BOSS CHECKED DRAWN DAY 2023.6

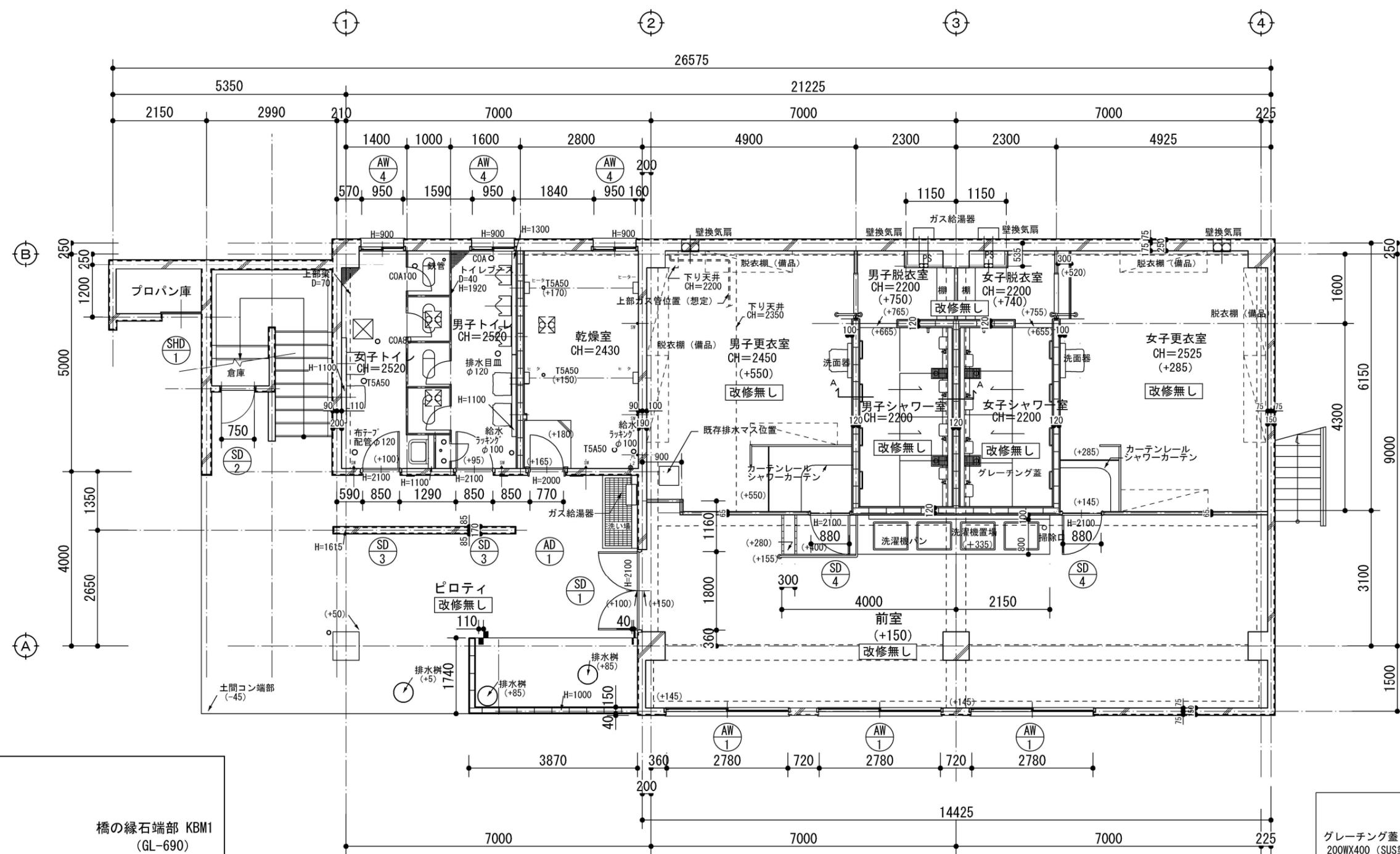
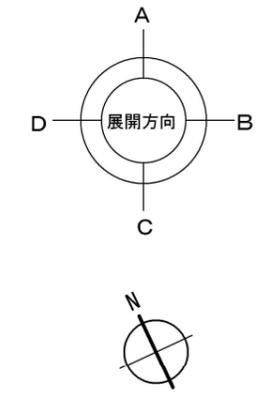
SPACE CREATE MIKI-PLANNING 株式会社 未来プランニング 一級建築士事務所 事務所登録い-755号 一級建築士. 第117905号 浜岸 吉満 NO. D09

国立若狭湾少年自然の家 海の学習棟 トイレ等改修工事

一級建築士. 第354534号 吉村 英樹 A3出力時: 100%

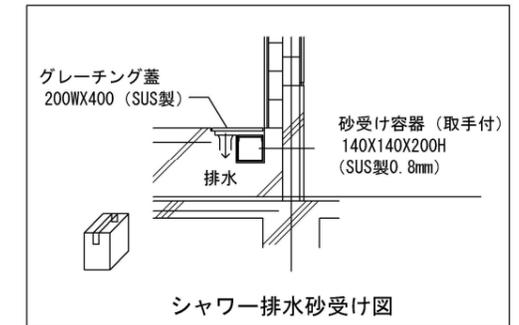
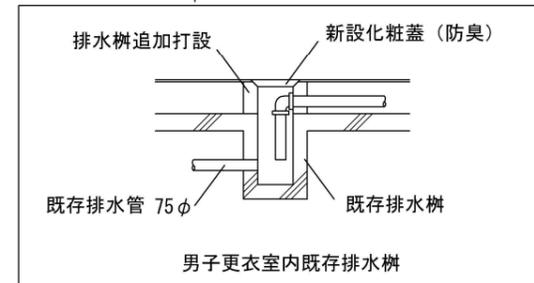
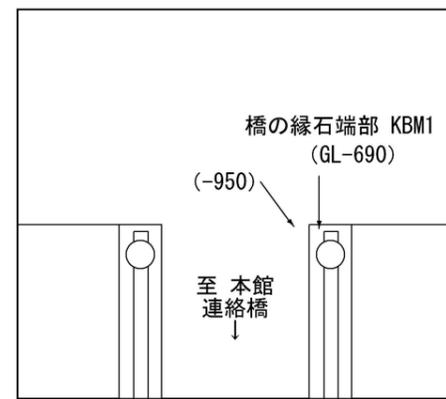
内部仕上表

| 階 | 室名 | | 床 | 巾木 | 壁 | 天井 | 天井下地 | 廻縁 | |
|--------------------------|-----------|--|---|-----------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------|--------|
| 1 | 女子トイレ | 改修前 | 仕上 | モザイクタイル張り25mm角 | / | VP塗り | EP塗 | 軽量鉄骨天井 | 樹脂製F型 |
| | | | 下地 | モルタル塗り | | モルタル金鍍押え又はコンクリート打放し | ケイ酸カルシウム板(7) 6.0 目透かし | LGS19@303 | |
| | | | 備考 | アルミ製床下点検口 600×600 (撤去) | | | | | ジョイントW |
| | | 改修後 | 仕上 | 撤去部のみモザイクタイル張り25mm角 | | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | 改修無し | 改修無し |
| | | | 下地 | モルタル塗り (参考:長江陶業 無釉25mm角) | | 既存下地 素地こしらえ | 既存下地 素地こしらえ | | |
| | | | 備考 | SUS製床下点検口 600×600 | | | | | |
| | 備考 | | 床スラブ躯体復旧 t130 (旧和風便器部、床下点検口取替え周囲) (金属拡張アンカー、D13配筋共) | | | | | | |
| | CH= 2,520 | 備考 | | | | | | | |
| | 男子トイレ | 改修前 | 仕上 | モザイクタイル張り25mm角 | / | VP塗り | EP塗 | 軽量鉄骨天井 | 樹脂製F型 |
| | | | 下地 | モルタル塗り | | モルタル金鍍押え又はコンクリート打放し | ケイ酸カルシウム板(7) 6.0 目透かし | LGS19@303 | |
| | | | 備考 | | | | | | ジョイントW |
| | | 改修後 | 仕上 | 撤去部のみモザイクタイル張り24mm角 | | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | 改修無し | 改修無し |
| 下地 | | | モルタル塗り | 既存下地 素地こしらえ | | 既存下地 素地こしらえ | | | |
| 備考 | | | (参考:長江陶業 無釉25mm角) | | | | | | |
| 備考 | | 床スラブ躯体復旧 t130 (旧和風便器部) (金属拡張アンカー、D13配筋共) | | | アルミ製天井点検口450角 1か所新設 (下地開口補強共) | | | | |
| CH= 2,520 | 備考 | | | | | | | | |
| 乾燥室 ↓ シャワー室 脱衣室 | 改修前 | 仕上 | ウレタン塗布防水 (ノンスリップ) | ウレタン塗布防水 | VP塗 | EP塗 | 軽量鉄骨天井 | 樹脂製F型 | |
| | | 下地 | モルタル下地 一部長尺ビニール床シート | モルタル又はRC下地 H=300 | コンクリート下地 (一部モルタル補修) | ケイ酸カルシウム板(7) 6.0 目透かし | LGS19@303 | ジョイントW | |
| | | 備考 | (UP-A30) | | | | | | |
| | | 改修後 | 仕上 | 長尺浴室用ビニール床シート (7) 2.8 柄物 | DP塗 (3級) | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | DP上塗り (3級) (2液型ポリウレタン樹脂エナメル) | 改修無し | 改修無し |
| | 下地 | | モルタル金鍍押え (7) 30 自閉樹脂塗膜防水 | モルタル金鍍押え 自閉樹脂塗膜防水 | 既存下地 素地こしらえ | 既存下地 素地こしらえ | | | |
| | 備考 | | (参考:サンゲツ オフロア) | H=300 | | シャワーカーテンH=2130 SUS天井付けレール | | | |
| | 備考 | | (参考:大関化学工業 パラテックスB-1) | 既存モルタル1方撤去 H=300 | | アルミ製天井点検口450角 1か所新設 (下地開口補強共) | | | |
| | 備考 | | ※既存モルタル全撤去、長尺ビニール床シート撤去 ※排水溝W100 (蓋幅150) 深さ50~100mm | | | | | | |
| | CH= 2,430 | 備考 | (樹脂グレーチング 参考:カネソウPV-A) (溝内厚膜弾性ウレタン樹脂塗床) (参考:大同塗料 ユカクリートソフトA) ※SUSシェルフ別途 (脱衣棚、シャンプー棚) | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

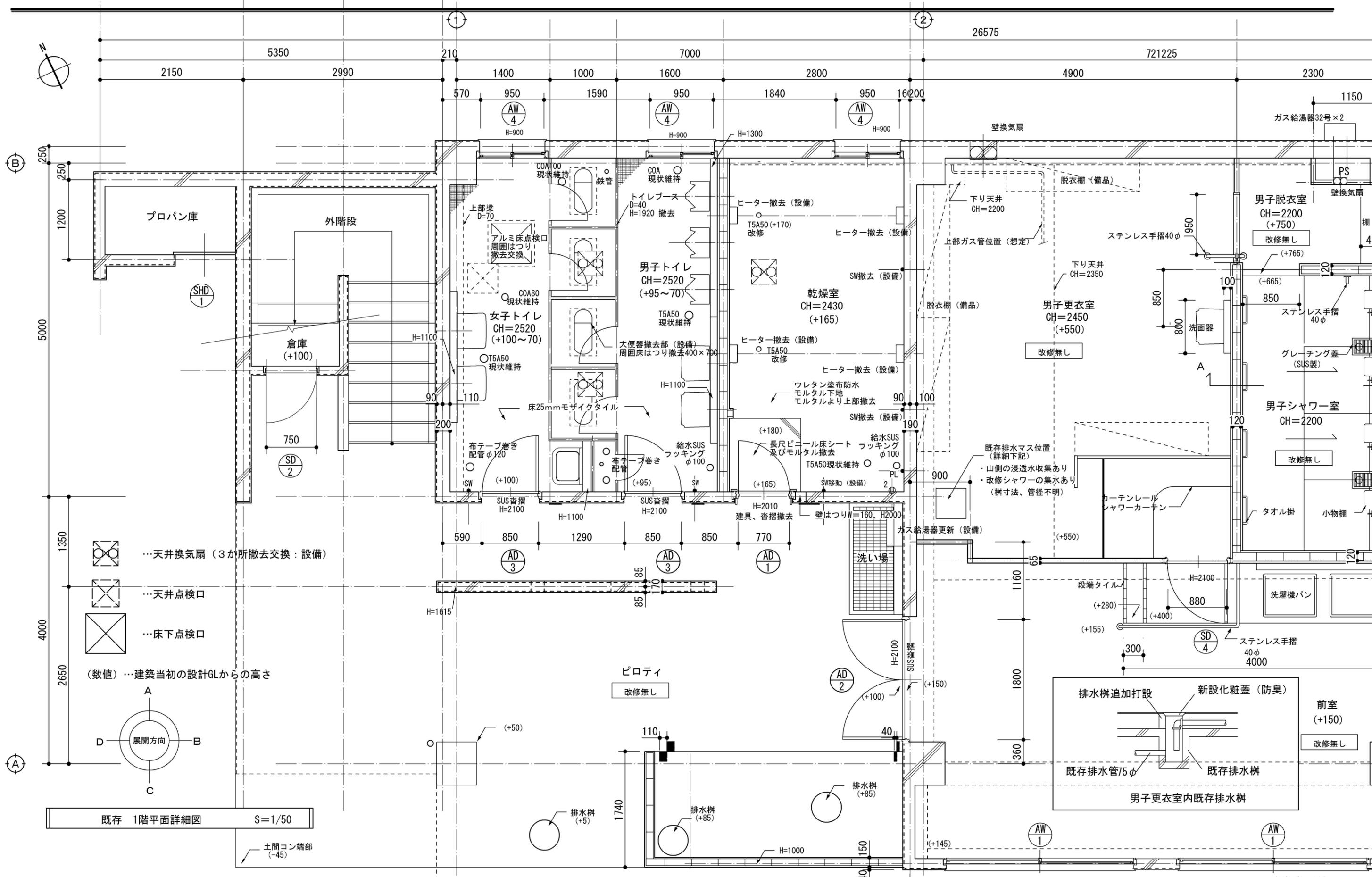


- ...天井換気扇
- ...天井点検口
- ...床下点検口

(数値) ...建築当初の設計GLからの高さ



既存 1階平面図 S=1/100



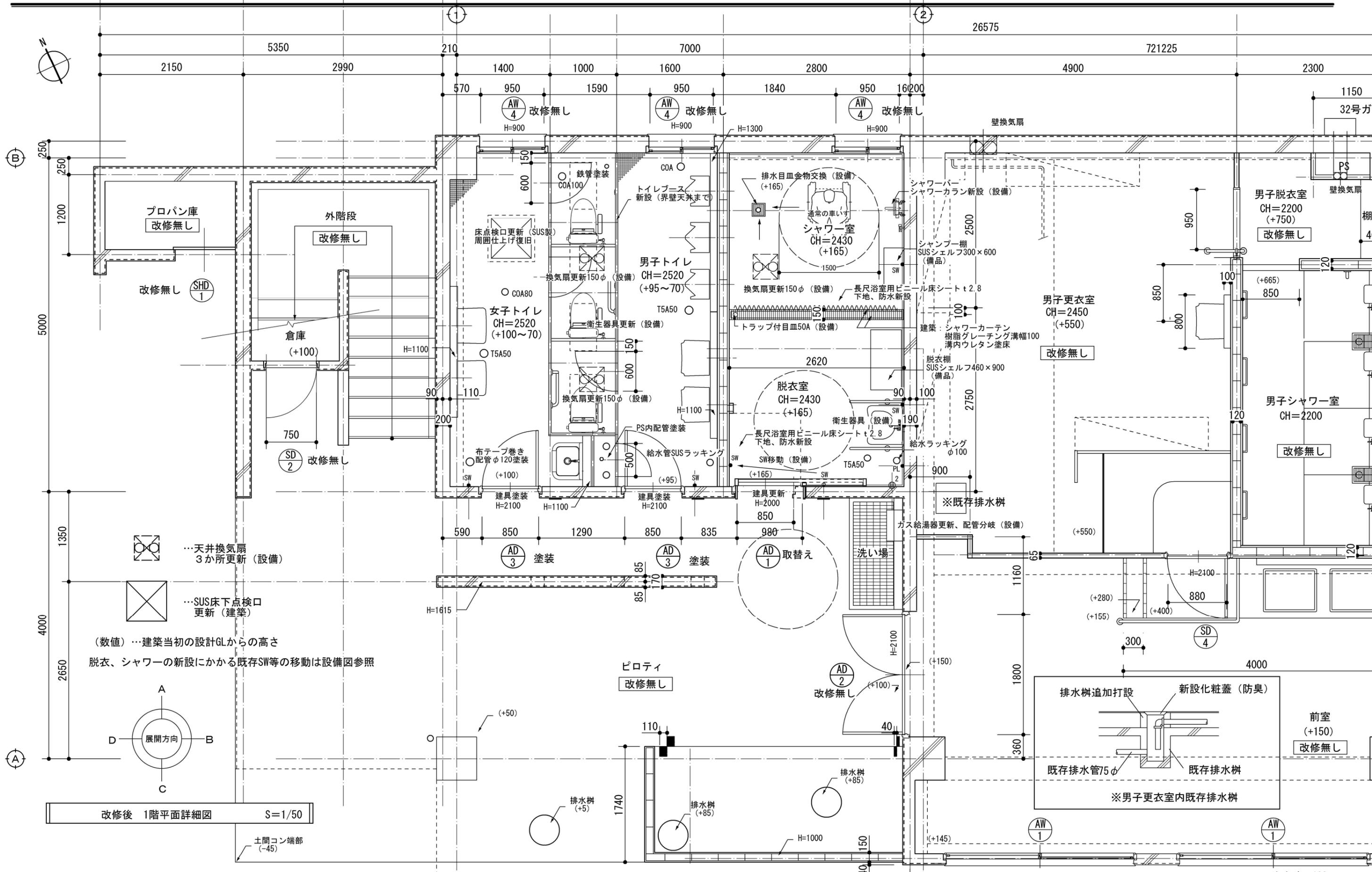
②

①

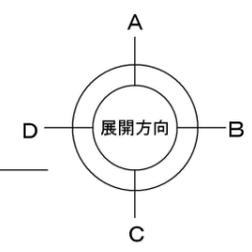
③

既存 1階平面詳細図 S=1/50

土間コン端部 (-45)

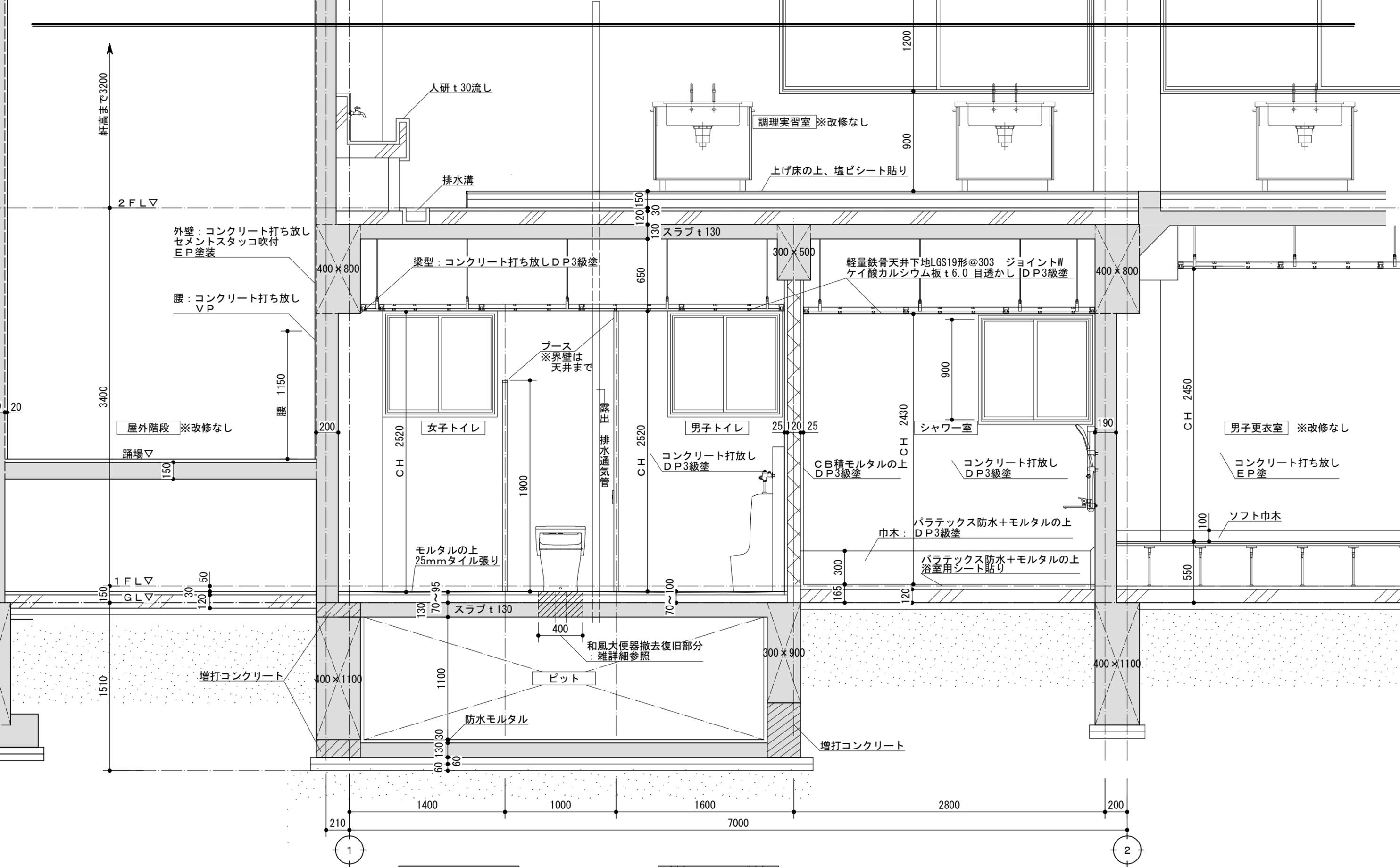


(数値) …建築当初の設計GLからの高さ
 脱衣、シャワーの新設にかかる既存SW等の移動は設備図参照

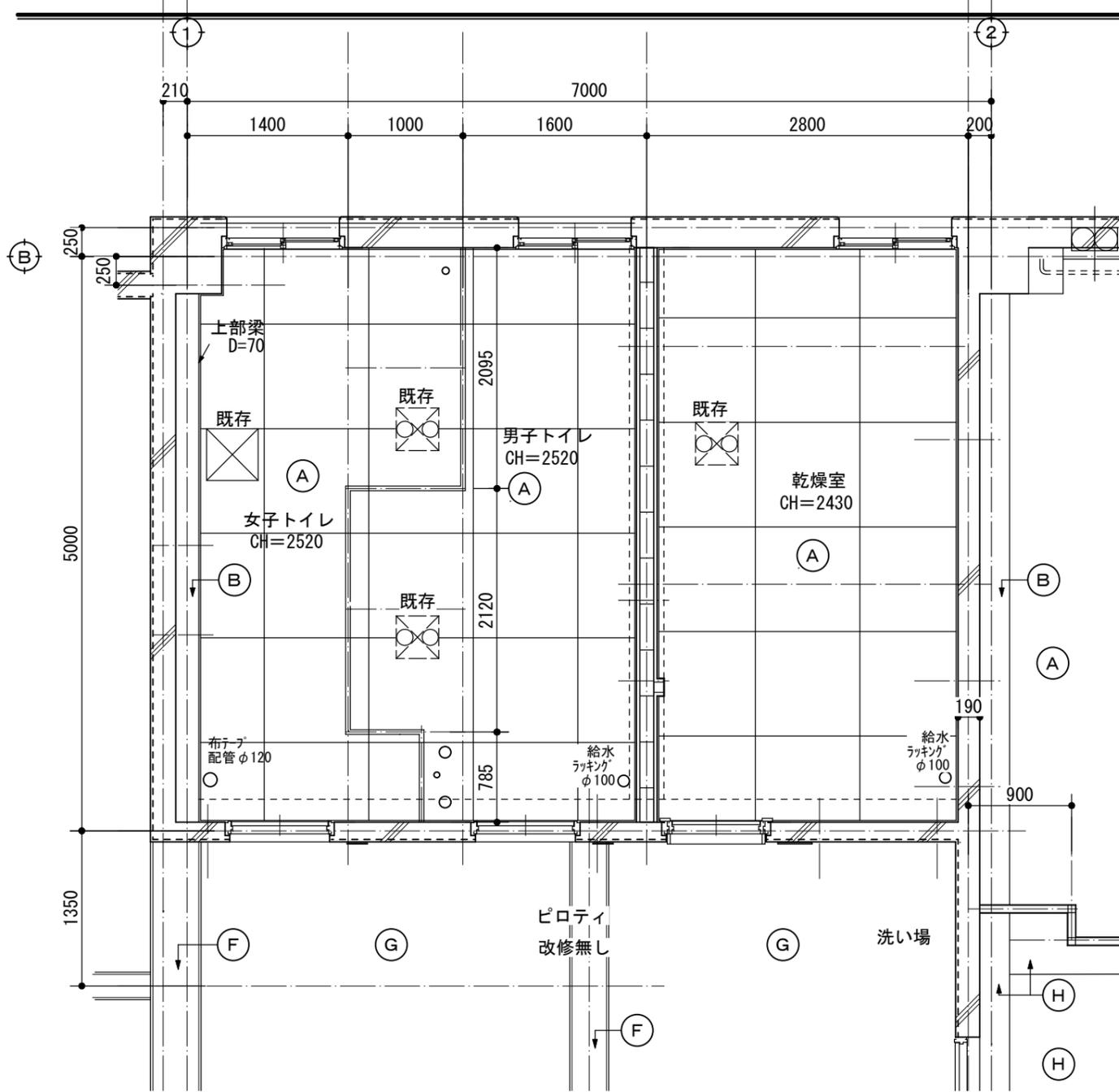


改修後 1階平面詳細図 S=1/50

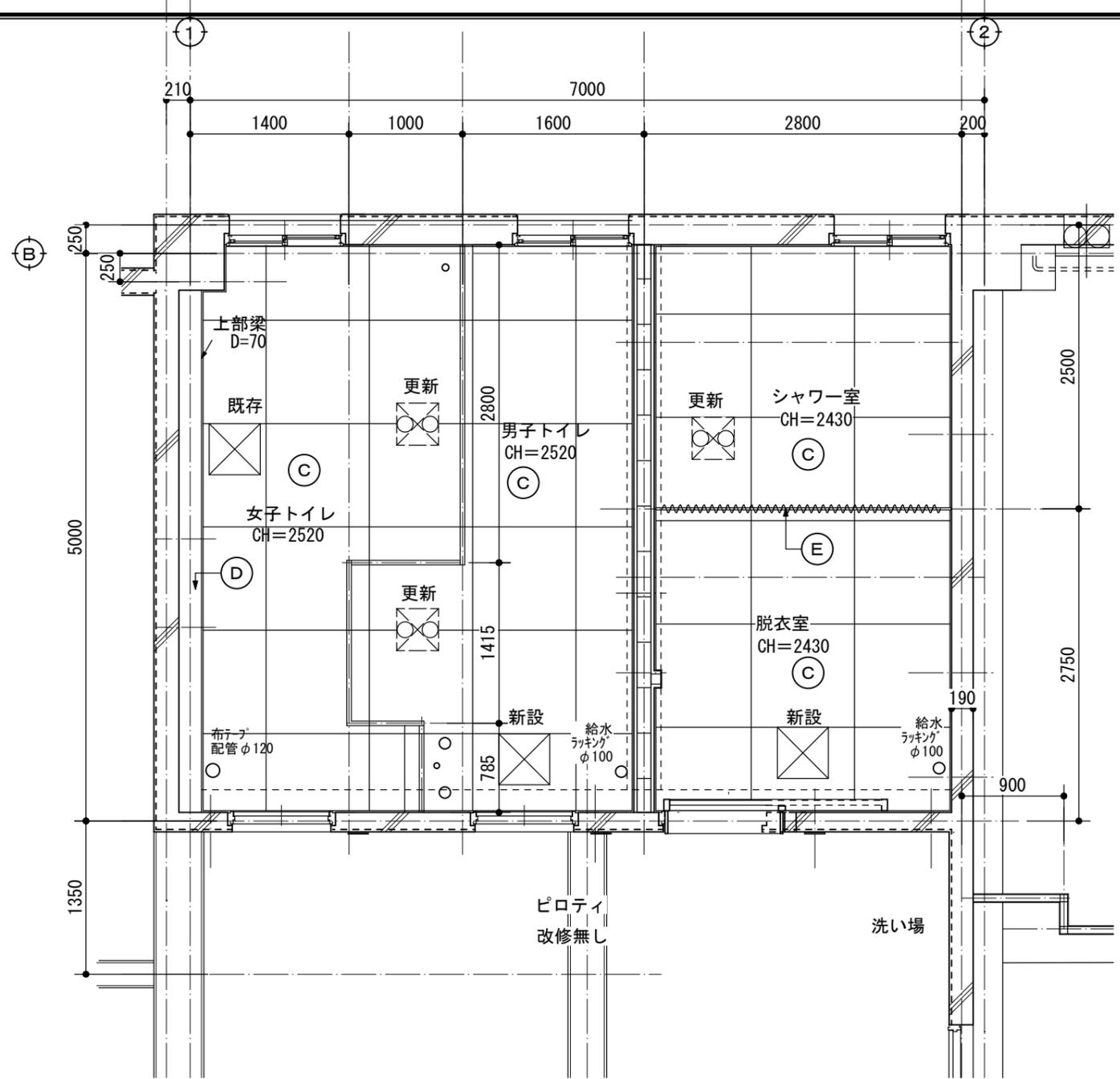
土間コン端部 (-45)



躯体コンクリートを示す
 土間コンクリートを示す 特記以外 t 120 (地業は砕石60)



既存 1階天井伏図 S=1/50

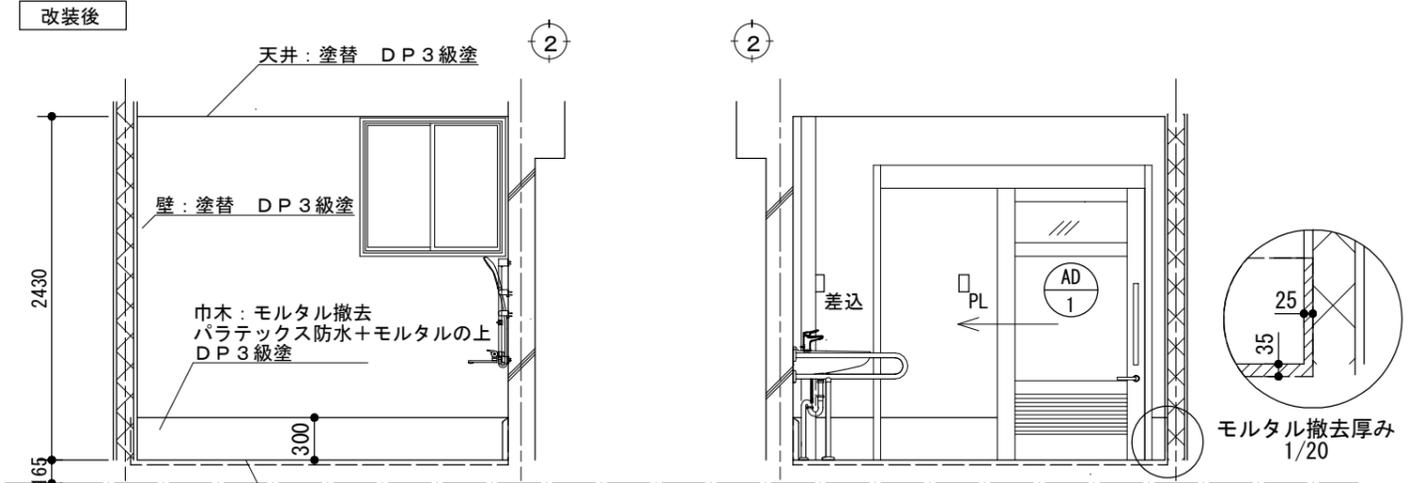
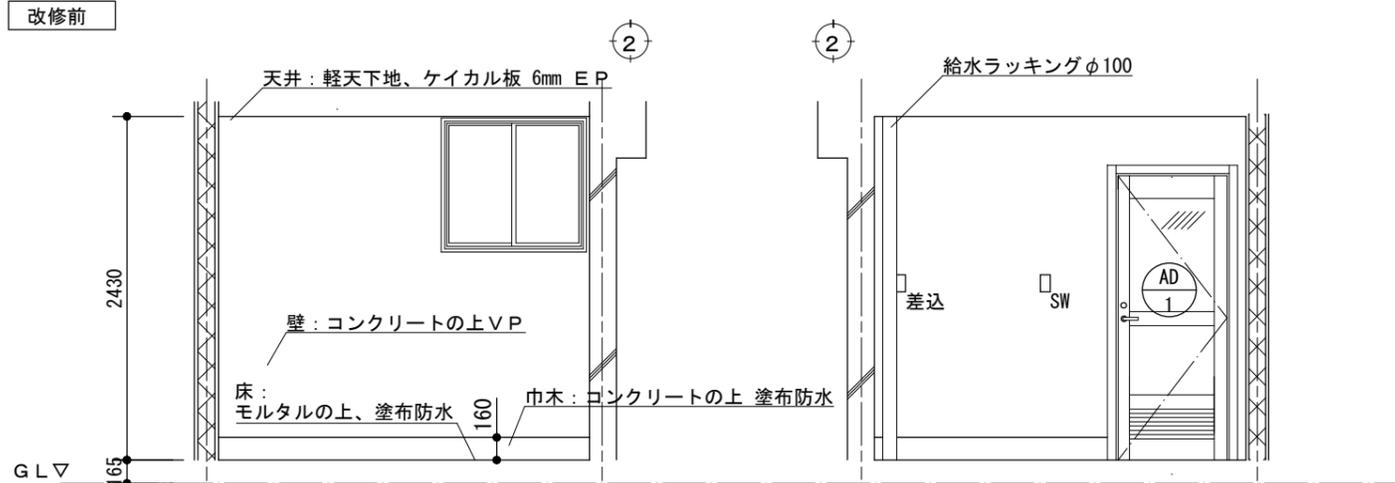


改修後 1階天井伏図 S=1/50

凡例

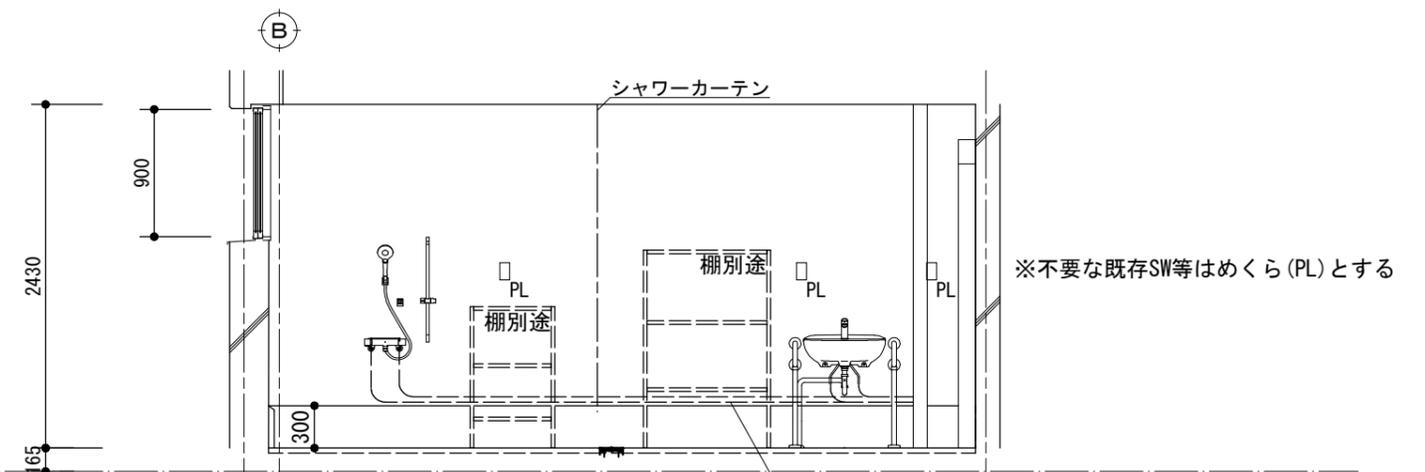
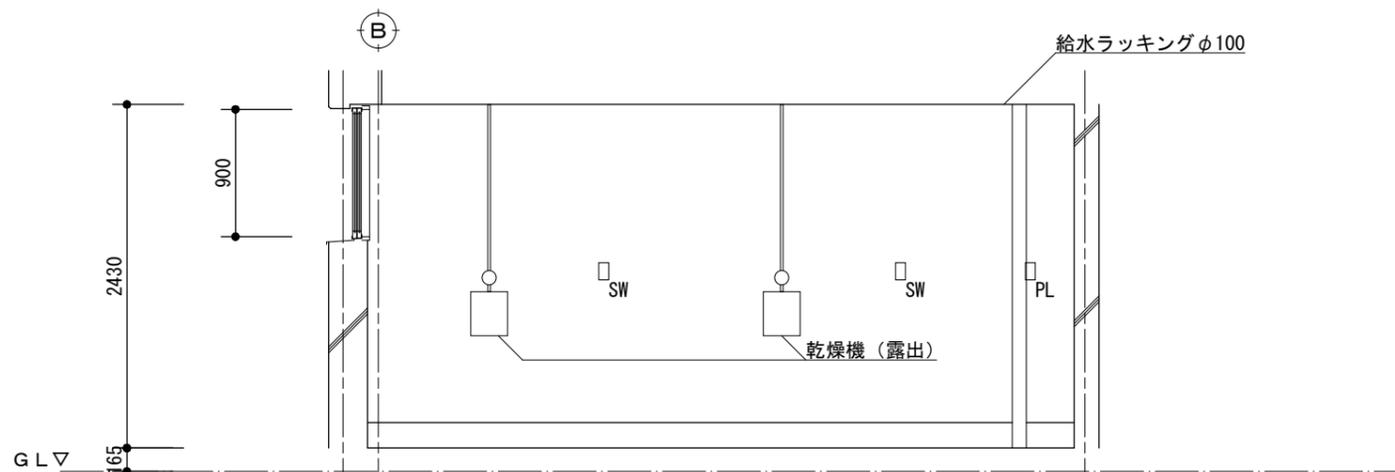
-  ...天井換気扇3か所更新 (機械設備工事)
-  ...天井点検口アルミ450×450アングル枠タイプ 2か所増設 (建築)

| 記号 | 主材 | 下地 | 廻縁 |
|-----|----------------------------------|---------------------------|---------|
| (A) | ケイ酸カルシウム板 t6.0 目透かし EP塗り | 軽量鉄骨天井下地LGS19形@303 ジョイントW | F型樹脂製見切 |
| (B) | コンクリート打放し VP塗り | | |
| (C) | DP塗り (3級) 2液ウレタン樹脂エナメル (素地こしらえ共) | | |
| (D) | DP塗り (3級) 2液ウレタン樹脂エナメル (素地こしらえ共) | | |
| (E) | SUS304天井付カーテンレール (シャワーカーテン) | | |
| (F) | コンクリート打放し リシン吹付け | | |
| (G) | コンクリート打放し スタッコ吹付け | | |
| (H) | コンクリート打放し 化粧 | | |



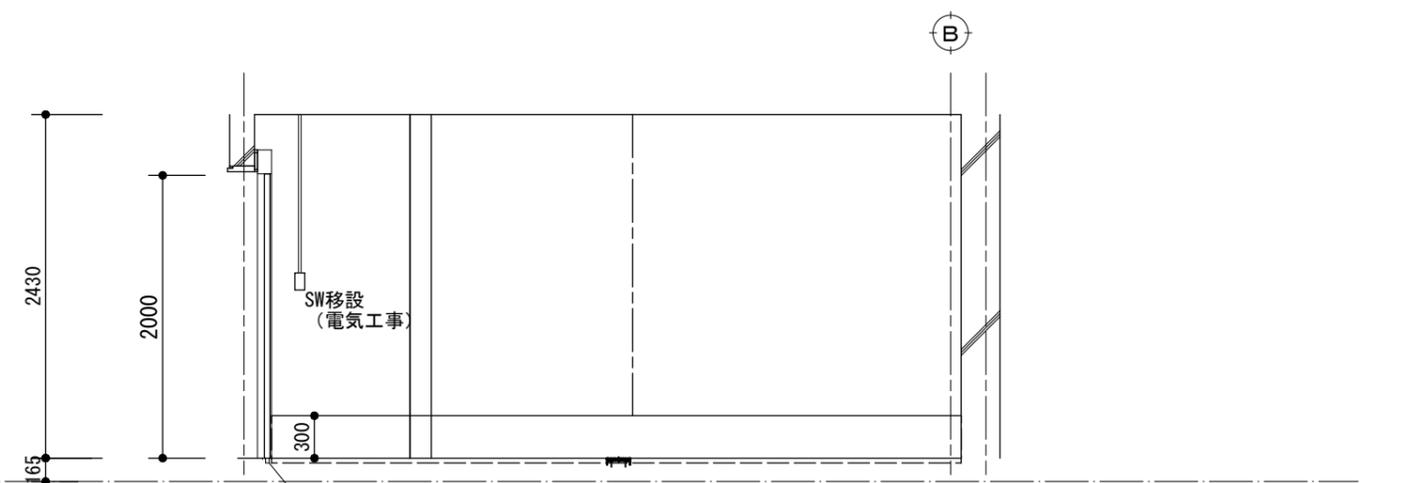
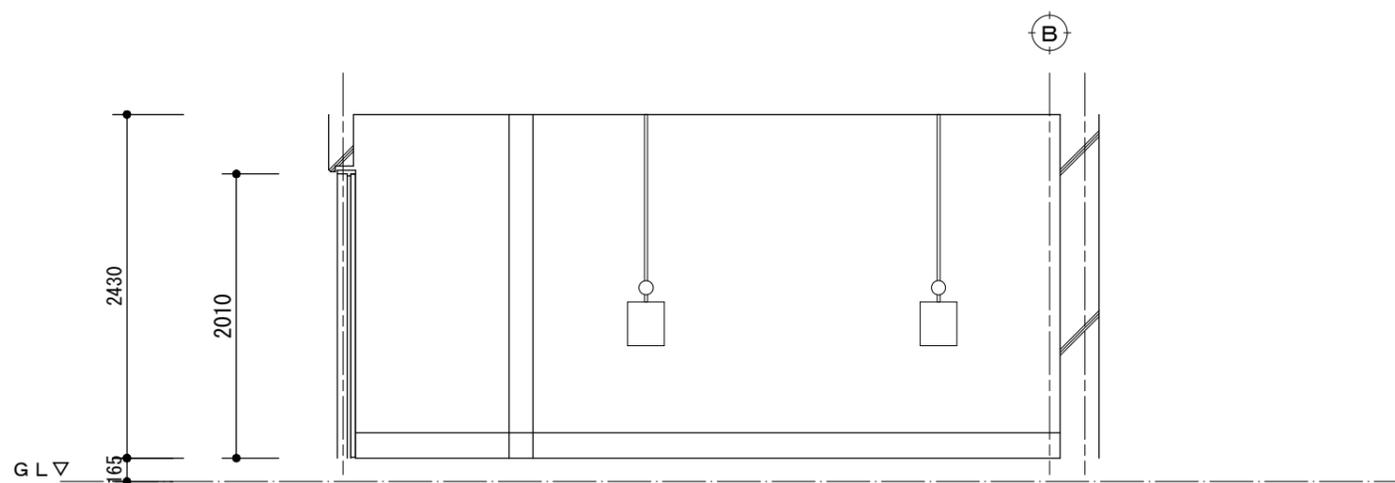
シャワー室・脱衣室 A面 C面

シャワー室・脱衣室 A面 C面



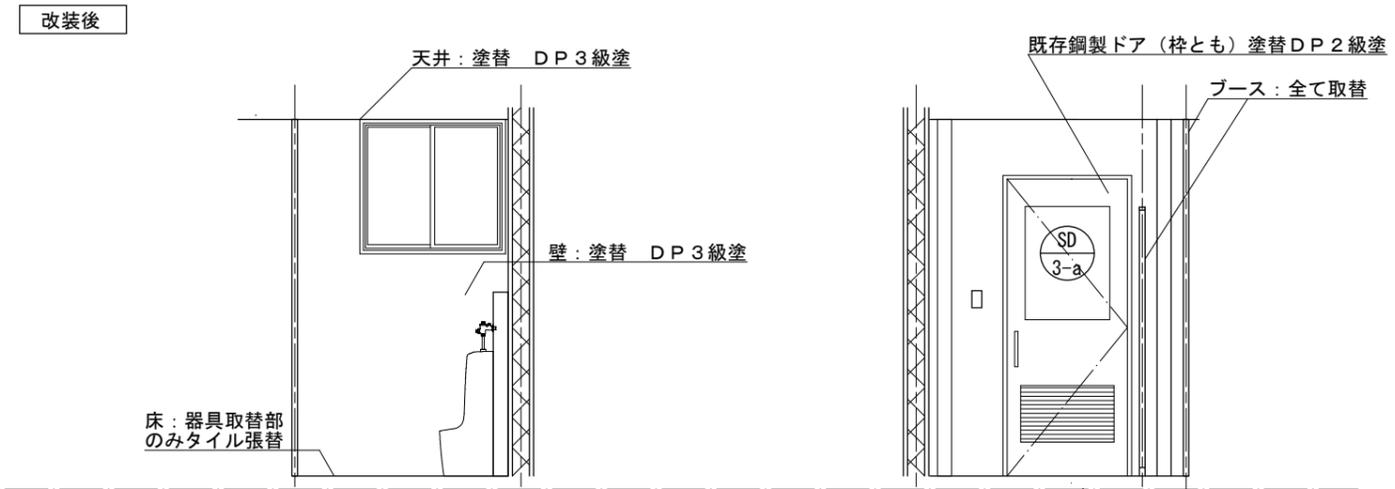
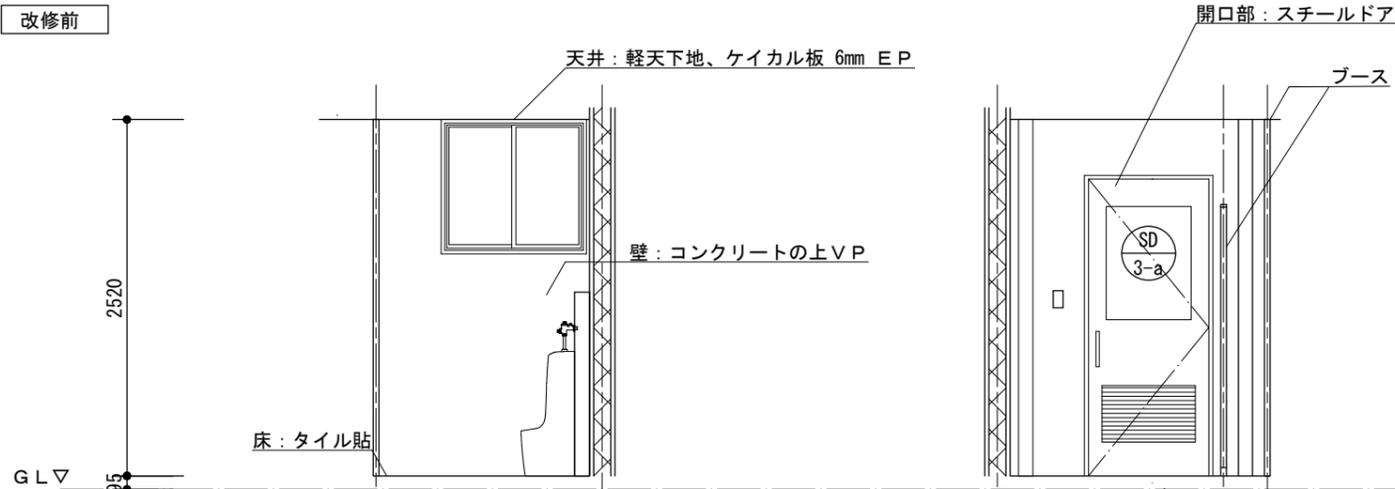
シャワー室・脱衣室 B面

シャワー室・脱衣室 B面



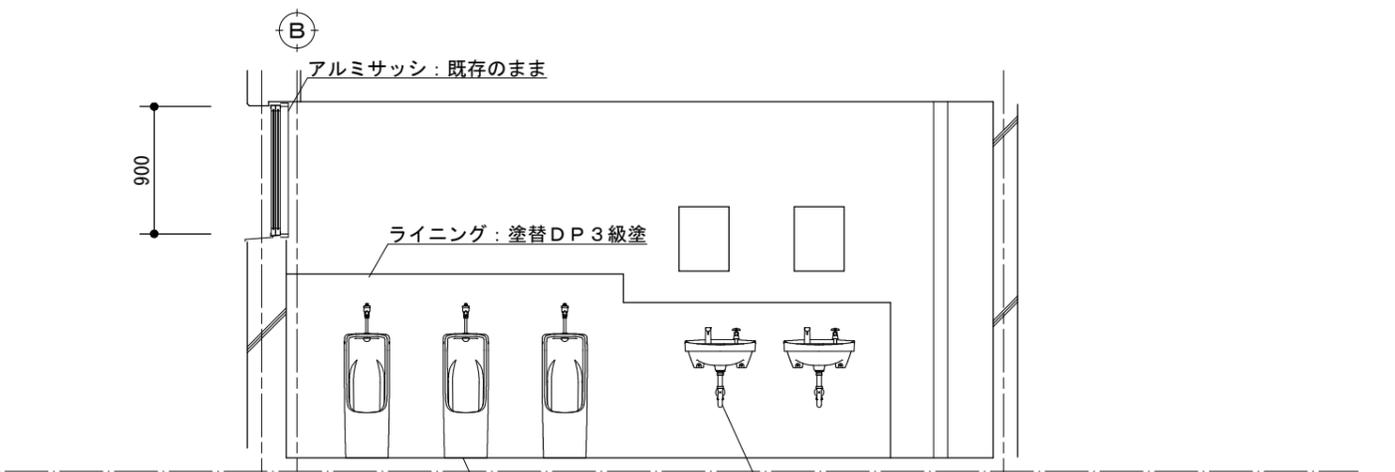
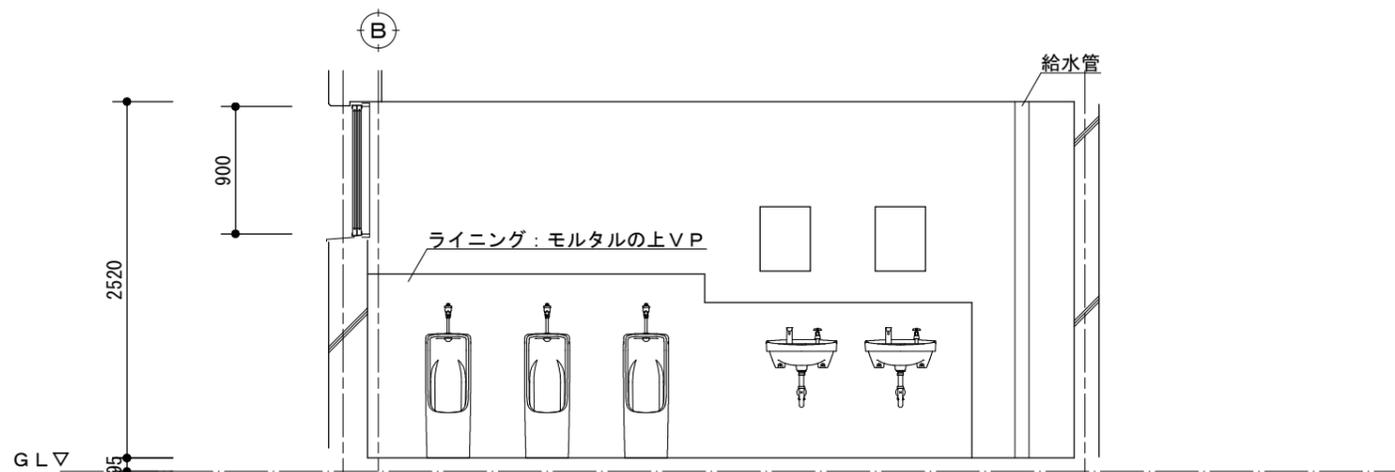
シャワー室・脱衣室 D面

シャワー室・脱衣室 D面



男子トイレ A面 C面

男子トイレ A面 C面



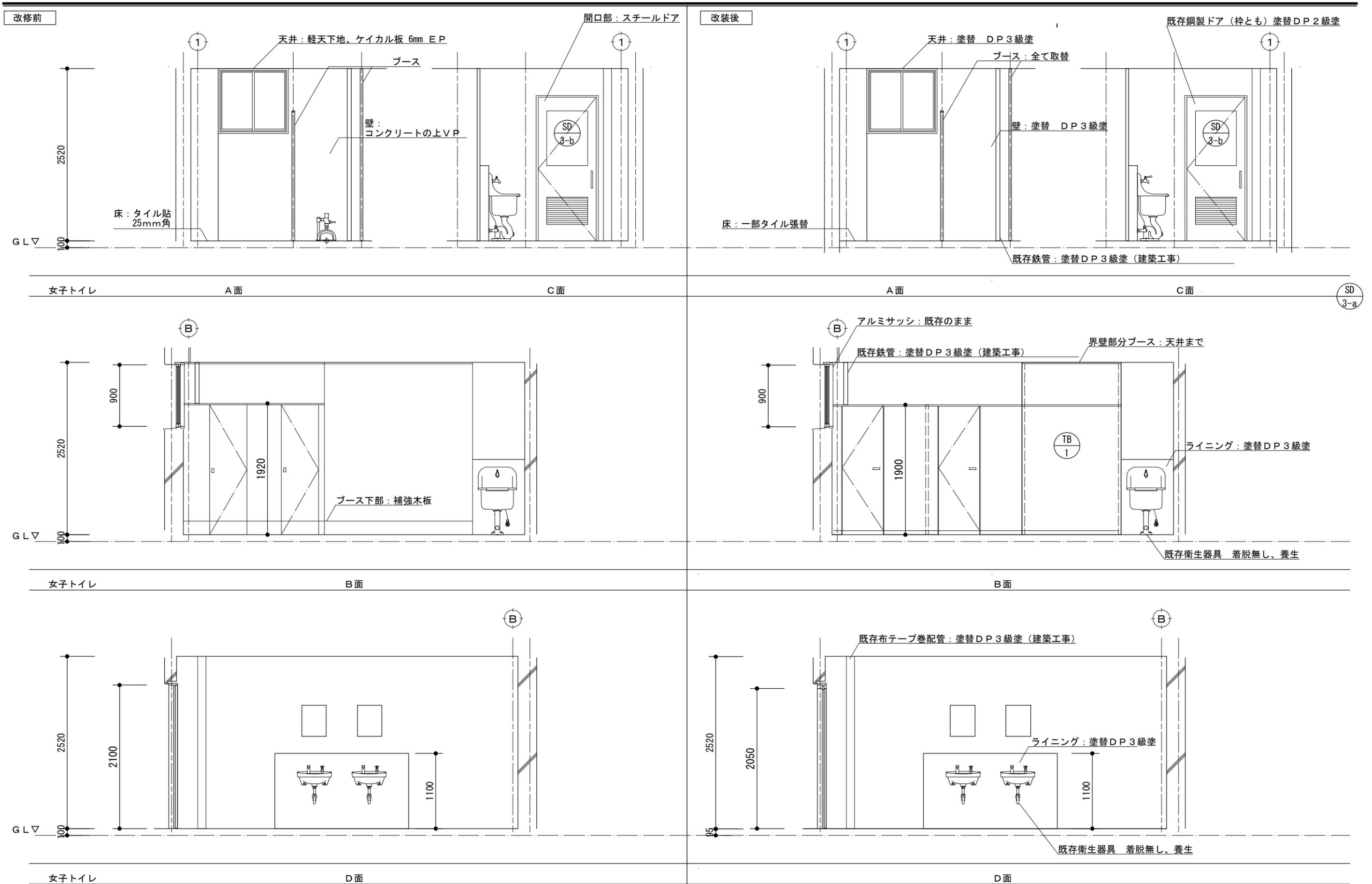
男子トイレ B面

男子トイレ B面

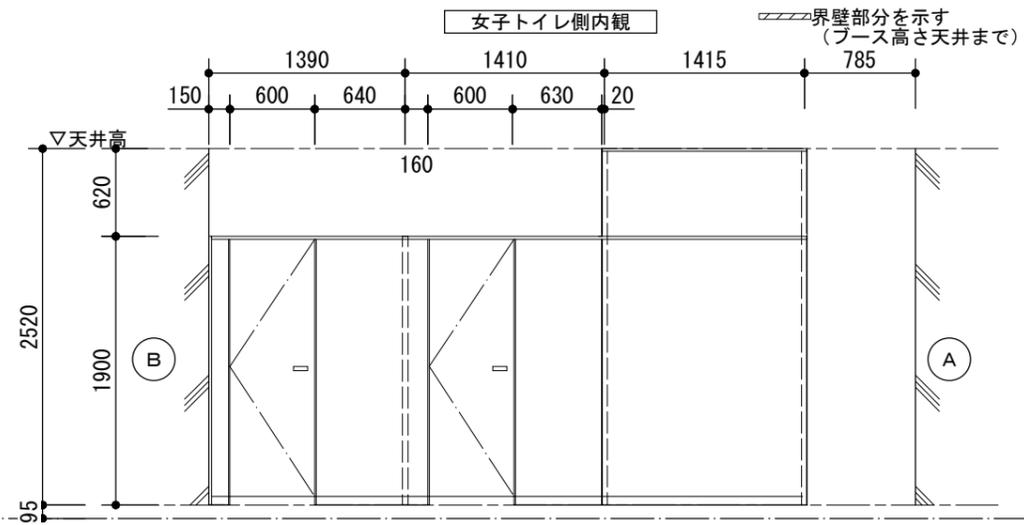
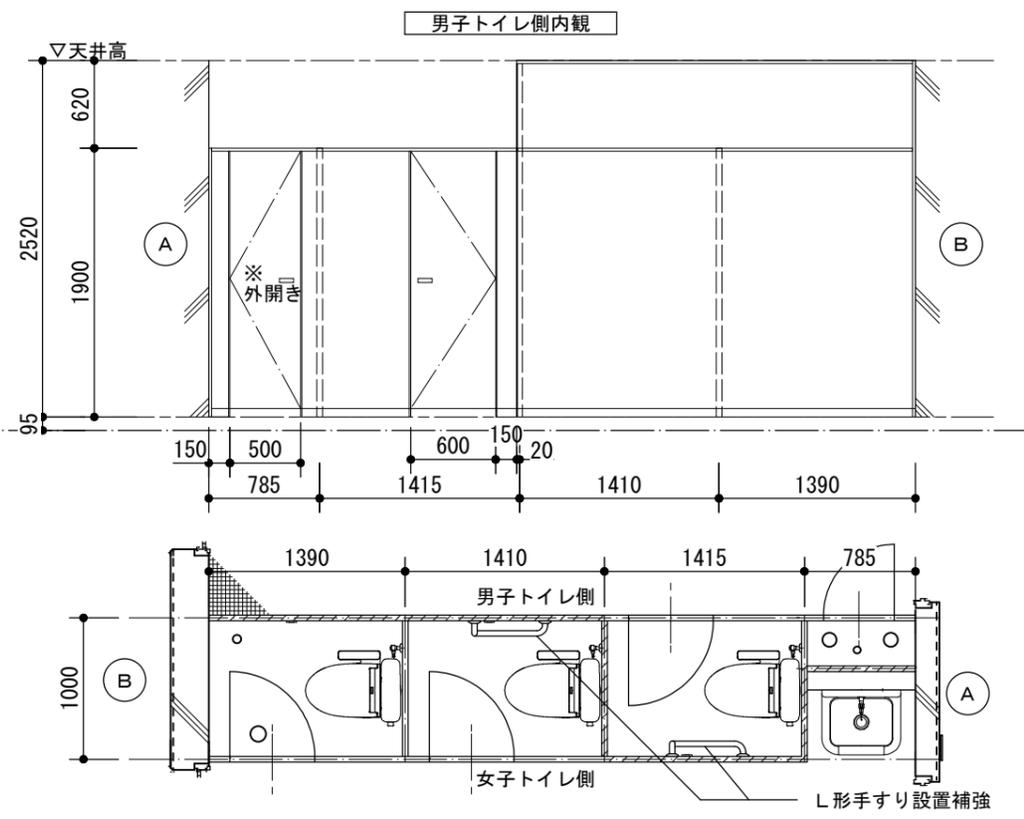


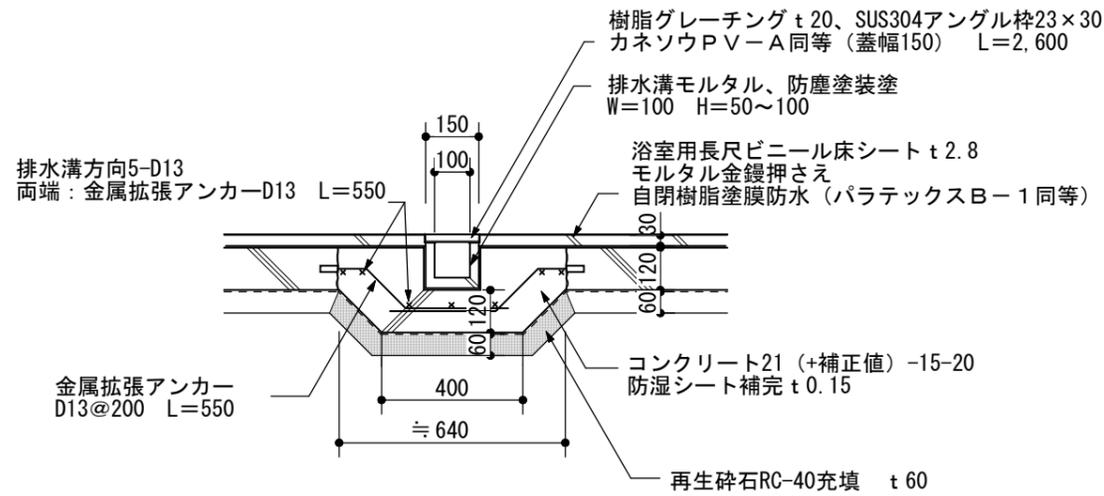
男子トイレ D面

男子トイレ D面

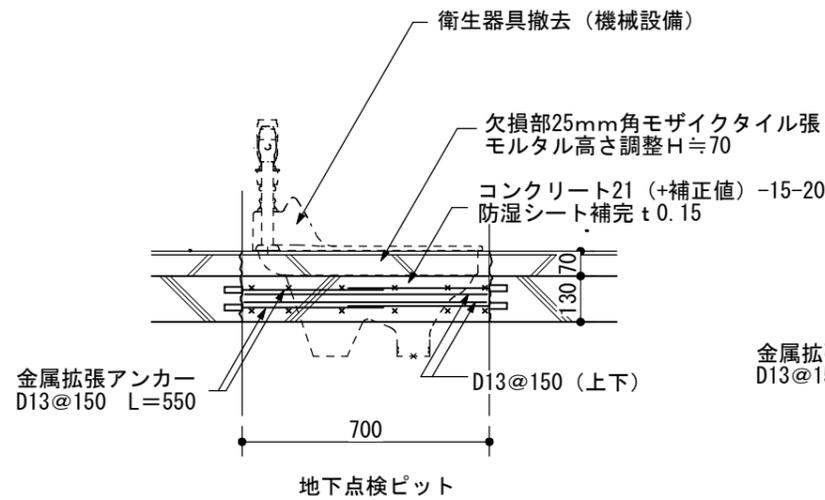


| | | | | |
|------------|--|---------------|---------------------------------------|---------------|
| 記号 | AD 1 | 新調 | TB 1 | 新調 |
| 使用場所 | 脱衣室 1か所 | | 男女トイレ 1か所 | |
| 姿図 ※内観図 | | | | |
| 種類 | アルミ製 框組片引き込み戸 (ハンガー自閉式) | | ※既存建具撤去=解体工事 | |
| 仕上 | 標準色 シルバー | | | |
| 見込 | 100 | | | |
| ガラス | 網入り型ガラス6.8mm | | | |
| 金物 | 固定ガラリ、下部SUSレール、ハンガー及び自閉式金物 (浴室仕様) | | | |
| 備考 | 錠 (表示装置/非常開装置/大型サムターン) : 美和ロックFG3-8-SB、引棒 : UNION G7053-01-001-L600 | | | |
| 記号 | SD 3-a | 既存塗替 (枠とも) | SD 3-b | 既存塗替 (枠とも) |
| 使用場所 | 男子トイレ 1か所 | 女子トイレ 1か所 | | |
| 姿図 ※内観図 | | | | |
| 種類 | 鋼製片開きドア | | トイレブース (耐水仕様) アルミールエッジタイプ | |
| 仕上 | 既存: 鋼製面SOP (枠とも) 塗替仕様: 下地調整RB種+錆止めB種 (材料: エポキシ樹脂プライマ2回塗) + DP2級 (シリコン塗装2回塗) | | 表面材: 高圧メラミン樹脂化粧板、芯材: 発砲ポリプロピレン | |
| 見込 | 既存のまま | | 40 | |
| ガラス | 既存のまま (型ガラス) | | 巾木: SUS、その他役物: アルミ押出材 (表示付スライドロック、戸当) | |
| 金物 | 既存のまま | | コーナーカバーはフラット形状とする (参考: 小松ウォールSB-GPR) | |

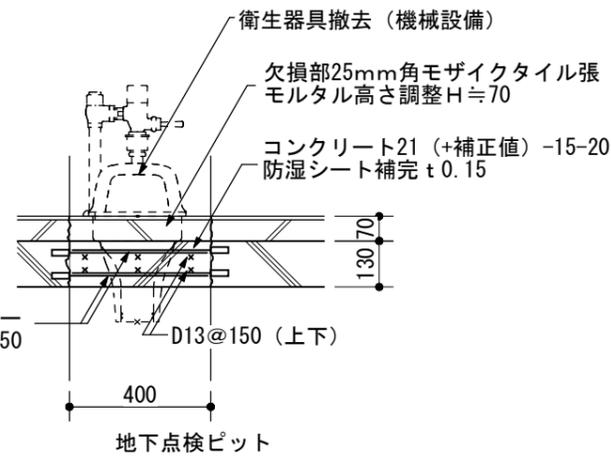




シャワー排水溝詳細図 S=1/20



和風大便器撤去復旧詳細図 S=1/20



■カーテン工事

SC
1

シャワー室

抗かび 防炎シャワーカーテン 片引きSS仕様 1.3倍ヒダ W2600 × H2100
サンゲツ イーリー同等 1か所
天井付けレール L=2600 SUS304製 1か所

■サイン工事

○新設

S
1

脱衣室 (外部)

ピクトグラム 表層: 耐候性シート巻き 基材: アルポリックパネル t 3.0
背面コンクリート壁より浮かし取付
「シャワーマーク」 200×200 1か所

S
2

男女トイレ (外部)

ピクトグラム 表層: 耐候性シート巻き 基材: アルポリックパネル t 3.0
背面コンクリート壁より浮かし取付
「男性マーク」 「女性マーク」 200×200 合計2か所

○撤去処分

壁付け樹脂製サイン 180×180 2か所
壁付け樹脂製サイン 300×300 1か所

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---|--|---|--|---|---|---|--|--|--|---|--|---|--|---|--|--|--------------------------------------|---|
| ●電線管 (埋込配管・露出配管) | (1) 電線管表示(19)(25)~(75)で特記なき場合は、ねじなし電線管とする。 | ●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 | ●照明制御装置 照明制御装置の各センサーの設定は、監督職員の指示による。 ○センサー設定器を() 個) 附属すること。 | ●LED制御装置の種類 LED制御装置の種類・電圧は、標準図又はJIL5004「公共施設用照明器具」(以下、「JIL」という。)に指定のあるものを除き下記による。 器具の種類 制御装置の種類 電圧(V) LED灯 調光信号線が接続された機器 LXMまたはLZ 回路電圧による(個別通信制御を除く) 上記以外 LNまたはLJ 回路電圧による LED灯はユニバーサル電圧(100~242V等)対応品でもよい。 | ●LED照明器具の規格 LED照明器具の定格消費電力等の規定が標準図とJILと異なる場合、JILの規定を準用する。 | ●防水形照明器具 標準仕様書第2編 1.19.1(a)に規定する防水試験を行う。 | ○フロアコンセント ○引出し形 ○飛び出し形 ●内部固定形 ○外部固定形 ○OAフロア用 | ○分電盤等 (1) 本工事の分電盤、OA盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器および漏電遮断器の寸法は、JIS C 8201-2-1「低圧開閉装置および制御装置-第2-1部: 回路遮断器(配線用遮断器およびその他の遮断器)」, 同付属書 J0「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、JIS C 8201-2-2「低圧開閉装置および制御装置-第2-2部: 漏電遮断器」、同付属書 J0「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」による。 (2) 特記なき場合、分岐に用いる2種の配線用遮断器および漏電遮断器は、1種サイズのものとす。 (3) SPD分離器(配線用遮断器)は警報接点付きとする。 (4) SPD分離器は、監督職員の承諾を受けて、SPD内蔵とすることができ。 (5) OA盤の端子盤部に(※通気口 ○冷却用ファン)を設ける。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○制御装置 (1) 単位装置の電流計は負荷端子の手前に接続する。(インバータ回路を除く) (2) 制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 (3) インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に付けた場合、開扉時に冷却装置を停止させる。 (4) インバータ発熱対策用冷却装置の故障を、単位装置の故障に含める。 | ○インターロック 自動火災報知設備の受信機、連動制御器およびガス漏れ火災警報受信機と連動して、空調機を停止させる。 | ○インバータ装置の 規約効率 電機出力(kW) 0.40 0.75 1.5 2.2 3.7 5.5 7.5 11 15 18.5 22 30 37 45 規約効率(%) 86.0 88.5 92.0 93.0 94.0 94.5 94.5 95.0 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 備考1 規約効率は、JEM-TR245「汎用インバータの規約効率」より算出した値とする。 2 規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○照明器具 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○雷保護システム ○外部雷保護システム(○受雷部システム ○引下げ導線システム ○接地システム) ○内部雷保護システム ○保護レベル ○I ○II ○III ○IV ○その他 大地抵抗率測定用補助接地極を構造体下部に設ける。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○変圧器の規格 (1) 変圧器(スロット結線変圧器、モールド変圧器でH絶縁材料を使用するもの、一時電圧が低圧または特別高圧のものを除く。)は、グリーン購入法による特定調達品目判断基準を満たすものとする。 (2) ダイアル温度計は、最高温度指針計とする。 | ○基礎 ※本工事 ○別途(建築)工事 ○既設 ○サーモスタット ○室内にサーモスタット(30℃~40℃可変形、35℃に設定)および切替スイッチ(自動・手動・断)を設ける。 ○外部換気扇連動(※端子 ○スイッチ)を設け、サーモスタットと連動させる。 | ○付属品等 ○その他 ○屋内型は、押しボタン、ランプ、計器類を外扉の見やすい位置に配置する。 ○室内照明器具はLEDとする。 ○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○充電表示器は、断路器の1次側の適切な場所に設ける。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○工事種類 ○直流電源装置 ○交流無停電電源装置(UPS) ○その他 ○直流電源装置の過放電防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○工事種類 ○ディーゼル発電装置 ○ガスエンジン発電装置 ○ガスタービン発電装置 ○太陽光発電装置 ○太陽光発電装置 架台の材質が鋼材の場合は、JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」による(※HDZ35 ○HDZ45 ○HDZ55)以上の溶融亜鉛めっきを施したもまたは同等以上の耐食性を有するものとする。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○工事種類 ○形式 ○フロアコンセント ○保安器用接地 ※本工事 ○別途工事 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 ○工事種類 ○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備 ○子時計 特記なき子時計は、SWA33-GPBとする。 | ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付 | |
| | ●電線本数・管路等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) 電線の収容本数は内線規程による。 (2) 分電盤2側以降の配線、制御盤、端子盤等の制御用配線および各通信機器間の配線(幹線部分を除く)において、配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は設備機器の機能を充分満足するよう施工する。 (3) 1区間の配線の長さが30m以上の場合、施工に必要な場合には、ジャンクションボックスを設ける。 (4) 増築用予備配管の管端は外壁面から10cm程度内側に止め、キャップ等を使用して雨水の進入を防止する。 (5) 機械室等の床配管は図面よりP/F管等で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。 (6) 分電盤、制御盤、端子盤等の2側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。 |
| | ●位置ボックス等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) 天井隠への位置ボックスは、ケーブル配線で端末となる所には設けなくてよい。 (2) 結露するおそれのある外壁に埋込む場合は、結露防止断熱カバーを取付ける。 (3) 盤類取付ボルトは必要以上に盤内に入らないようにする。また、耐震壁および外壁には盤を埋込まない。 (4) 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。 (耐火間仕切壁(軽量鉄骨下地)内の場合には図面特記による) |
| | ●予備配管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) 分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内まで立上げる。 (2) 端子盤の立上がり予備配管は、50Pを超えるものについては、50P毎に(25)を1本天井内まで立上げる。 (3) ケーブルラックの防火区画貫通部に、(51)を1本以上設ける。 |
| | ●フラッシュプレート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ※金属製(ステンレス、新金属も含む) ○樹脂製 |
| | ○フロアプレート・ベース | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ※水平高低調整式(空箱防止付リング付、OAフロア一部分を除く) ※絶金製 ●アルミ製 |
| | ●機器取付高さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 図面に特記なき場合は、表-1「機器標準取付高さ」による。 |
| | ●図示寸法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 盤その他機器類について図示した寸法は参考値とする。 |
| | ○地中埋設管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) 埋設深度は、次のとおりとする。 ※地表面(舗装がある場合は、舗装下面(路盤))から 300mm以上 ○引込管・高圧線路・車両通路等 地表面から 600mm以上 (2) 管径は200mm以下とする。 (3) 配管下端(管底+100mm)および配管上端(管頂+100mm)に砂地業(山砂類または再生材)を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。 (4) 埋設表示 標準シート(中間) ※高圧 ※低圧 ※データ回線等 埋設標 ※高圧 ○低圧 ○データ回線等 |
| | ○接地工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 接地埋設標は文字刻印式とする。 分電盤等の接地線は屋外にて埋設し、接地埋設表示を行う。 接地極の材料は、図面に特記なき場合は、表-2「接地極一覧表」による。 |
| ●鋼材および防錆処理 | (1) 配管等の支持金物、鋼製架台・機器付属金物 ① 一般部 ※SS400 ② 屋外部 ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZ35 ○HDZ50 ○HDZ55) ●ステンレス鋼製(SUS 304) 屋外部のボルト、ナット材質は上記に準ずる。 (2) 屋外の盤類・開閉器箱・地絡方向継電装置箱、プルボックスまたは鋼板製プレート ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZ35 ○HDZ50 ○HDZ55) ●ステンレス鋼製(SUS 304) (3) 屋内部分で湿気、水気のある部分の鋼板製図または鋼板製プレート ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZ35 ○HDZ50 ○HDZ55) ●ステンレス鋼製(SUS 304) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●塗装工事 | 図面に特記がない場合、機器および盤類は製造者の標準仕様とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●他工事との取り合い | 表-3「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●総合調整 | 関連工事と連携し総合調整を行う。停電・復電時の動作確認を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表-1 「機器標準取付高さ」

| 名称 | 測点 | 取付高(mm) | 名称 | 測点 | 取付高(mm) |
|-----------------|--------|-------------|-----------------|--------|-------------|
| 取引用計器 | 地上~窓中心 | 1,800~2,000 | 壁掛形時計 | 床下~中心 | 1,500 |
| 引込開閉器 | 地上~中心 | 1,800~2,000 | 壁掛形スピーカ | 床下~中心 | (上端1,900以下) |
| 分電盤 | 床上~中心 | 1,500 | 子時計 | 床下~中心 | 天井高×0.9 |
| スイッチ | 床下~中心 | 1,300 | 壁付アッテネータ | 床下~中心 | 天井高×0.9 |
| 人感センサ操作スイッチ | 床下~中心 | 1,300 | 表示機 | 床下~中心 | 天井高×0.9 |
| コンセント(一般) | 床下~中心 | 300 | 壁付発信機 | 床下~中心 | 1,300 |
| 壁付発信機 | 床下~中心 | 150 | ベル・ブザー・チャイム | 床下~中心 | 2,300 |
| 壁付押しボタン(一般) | 床上~中心 | 150~250 | 壁付押しボタン(一般) | 床上~中心 | 1,300 |
| 壁付押しボタン(車椅子用) | 床上~中心 | 900 | 外部受付用インターホン(子機) | 標準図による | |
| ブラケット(一般) | 床上~中心 | 2,100~2,300 | 壁付インターホン(上記以外) | 床下~中心 | 1,300 |
| 壁付アウトレット(一般) | 床上~中心 | 2,000~2,500 | 壁付アウトレット(一般) | 床上~中心 | 300 |
| 壁付アウトレット(和室) | 床上~中心 | 150 | 壁付押しボタン(和室) | 床上~中心 | 150 |
| 壁付押しボタン(多目的トイレ) | 床上~中心 | 900 | 壁付押しボタン(多目的トイレ) | 床上~中心 | 900 |
| 壁掛形制御盤 | 床上~中心 | 1,500 | 機器収容箱 | 天井下~上端 | 200 |
| 壁掛形制御盤 | 床上~中心 | (上端1,900以下) | テレビ端子(一般) | 床下~中心 | 300 |
| 開閉器スイッチ | 床上~中心 | 1,500 | 受信機・副受信機 | 床下~中心 | 800~1,500 |
| 操作スイッチ | 床上~中心 | 1,300 | 機器収容箱 | 床下~中心 | 800~1,500 |
| 端子盤(室内) | 床上~下端 | 300 | 発信機 | 床下~中心 | 800~1,500 |
| 集合保安器箱 | 天井下~上端 | 200 | ベル | 床下~中心 | 2,300 |
| 壁付アウトレット(一般) | 床上~中心 | 300 | 表示灯 | 床上~上端 | 2,100 |
| 壁付アウトレット(和室) | 床上~中心 | 150 | 液化石油ガス用検知機 | 床上~上端 | 300 |

注、天井高3,000mm以上の場合および機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。

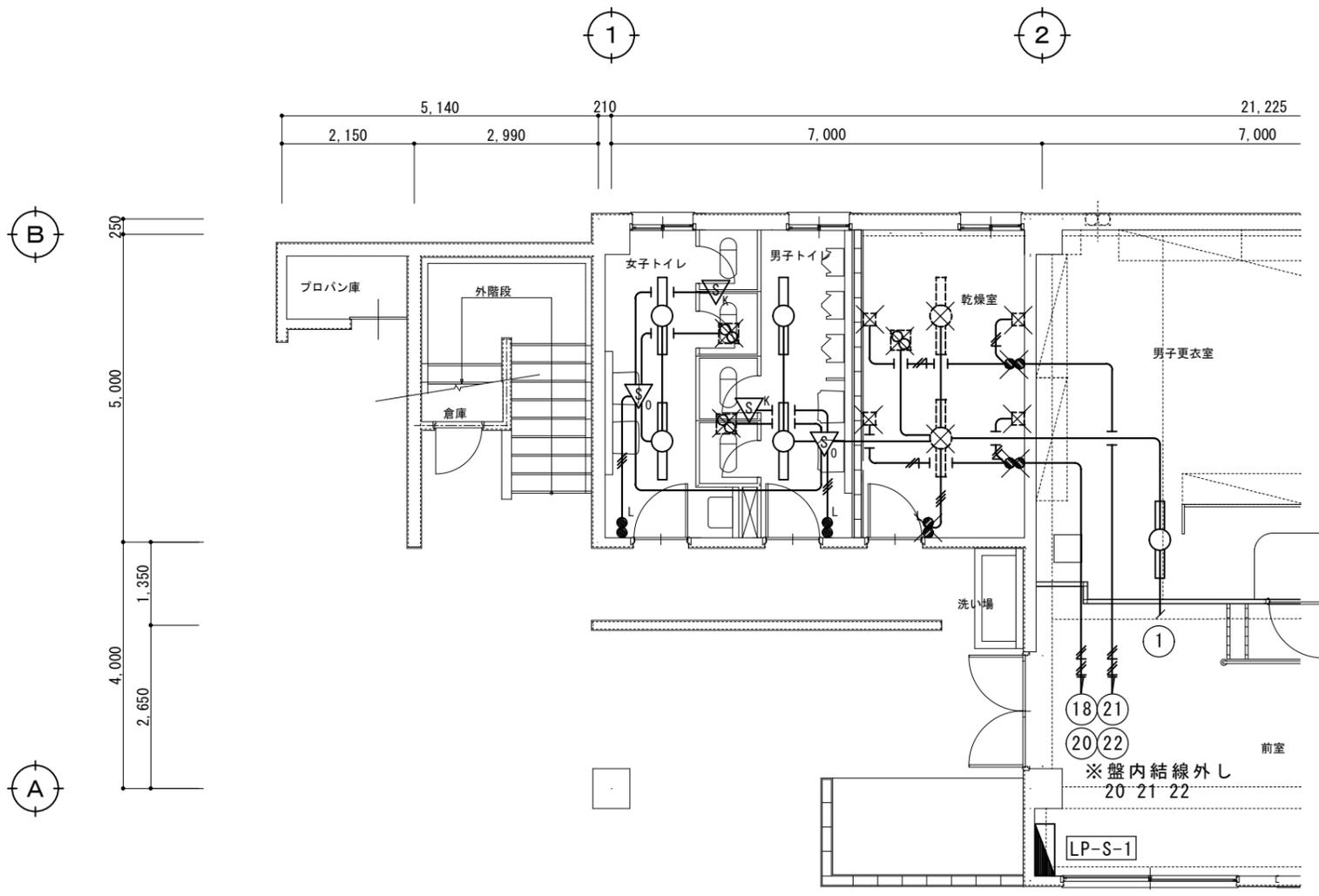
表-2 「接地極一覧表」

| 接地の種類 | 記号 | 接地抵抗 | 接地極の規格・数量 |
|--------|------------------------------------|---------|---|
| ○共同接地 | E _{A,B,C,D} | Ω以下 | EP-0.9 × |
| ○共同接地 | E _{A,D} | 10 Ω以下 | EP-0.9 × 1 |
| ○A種接地 | E _{A,D} | 10 Ω以下 | EP-0.6 × 1 |
| ○B種接地 | E _B | 10 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○C種接地 | E _C | 10 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○D種接地 | E _D | 100 Ω以下 | EB(0=10, L=1500またはW=30, L=900) × 1 |
| ○D種接地 | E _D | 100 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○高圧避雷器 | E _{LH} | 10 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○低圧避雷器 | E _{LL} | 10 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○雷保護設備 | E _{LA} | 10 Ω以下 | ○EP-0.6 × 2 ○EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 2 連一組 |
| ○交換機用 | E _L | Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○通信用 | E _{At} | 10 Ω以下 | EB(0=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連一組 |
| ○通信用 | E _{Dt} およびE _{Dm} | 100 Ω以下 | EB(0=10, L=1000またはW=30, L=900) × 1 |
| ○測定用 | E _o | Ω以下 | EB(0=10, L=1500またはW=30, L=1200) × 1 |

表-3 「工事区分表」

| 設備 | 工事内容 | 建築 | 電気 | 機械 |
|--------|-------------------------|---------------------|----|----|
| 設備機器基礎 | 屋内基礎 | ● | ● | ● |
| | 屋上基礎 | ● | ● | ● |
| | 屋外基礎 | ● | ● | ● |
| | 架台、アンカーボルト 特記した基礎 | ● | ● | ● |
| 設備用開口部 | 下地補強 | ● | ● | ● |
| | S・SRC造梁の貫通部 | 補強 | ● | ● |
| | スリーブ | ● | ● | ● |
| | R/C造梁・床・壁の貫通部 | 補強 | ● | ● |
| その他 | 軽量鉄骨下地天井・壁の開口部 | 補強 | ● | ● |
| | 型枠 | ● | ● | ● |
| | 補強を要する切込み | ※● | ● | ● |
| | 補強を要しない切込み | ● | ● | ● |
| その他 | 貫通部・開口部の穴埋め補修 | ● | ● | ● |
| | 貫通部・開口部の露出し | ● | ● | ● |
| | 床、天井点検口 | ● | ● | ● |
| | 防油堤 | オイルサービスタンの防油堤 | ● | ● |
| その他 | 外部取付ガラリ | ダクト、チャンバーの接続用フランジ含む | ● | ● |
| | 雨水排水 | 配管、樹、蓋 | ● | ● |
| | 汚水、雑排水 | 配管、樹、蓋 | ● | ● |
| | 別途機器等へ直接接続する配管配線 | | ● | ● |
| 電気配管配線 | 別途機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共) | ● | ● | ● |
| | 別途機器付属の制御盤への電源供給配管配線 | ● | ● | ● |
| | 別途機器と専用操作スイッチの連り配管配線 | ● | ● | ● |
| | パッケージ形空調和機の2次側配管配線(接地共) | ● | ● | ● |

※防火区画貫通部ケーブル用貫通処理材使用
ケーブル壁貫通部(防火認定番号 PS060ML-0545)
ケーブルラック床貫通部(防火認定番号 PS060FL-0497)

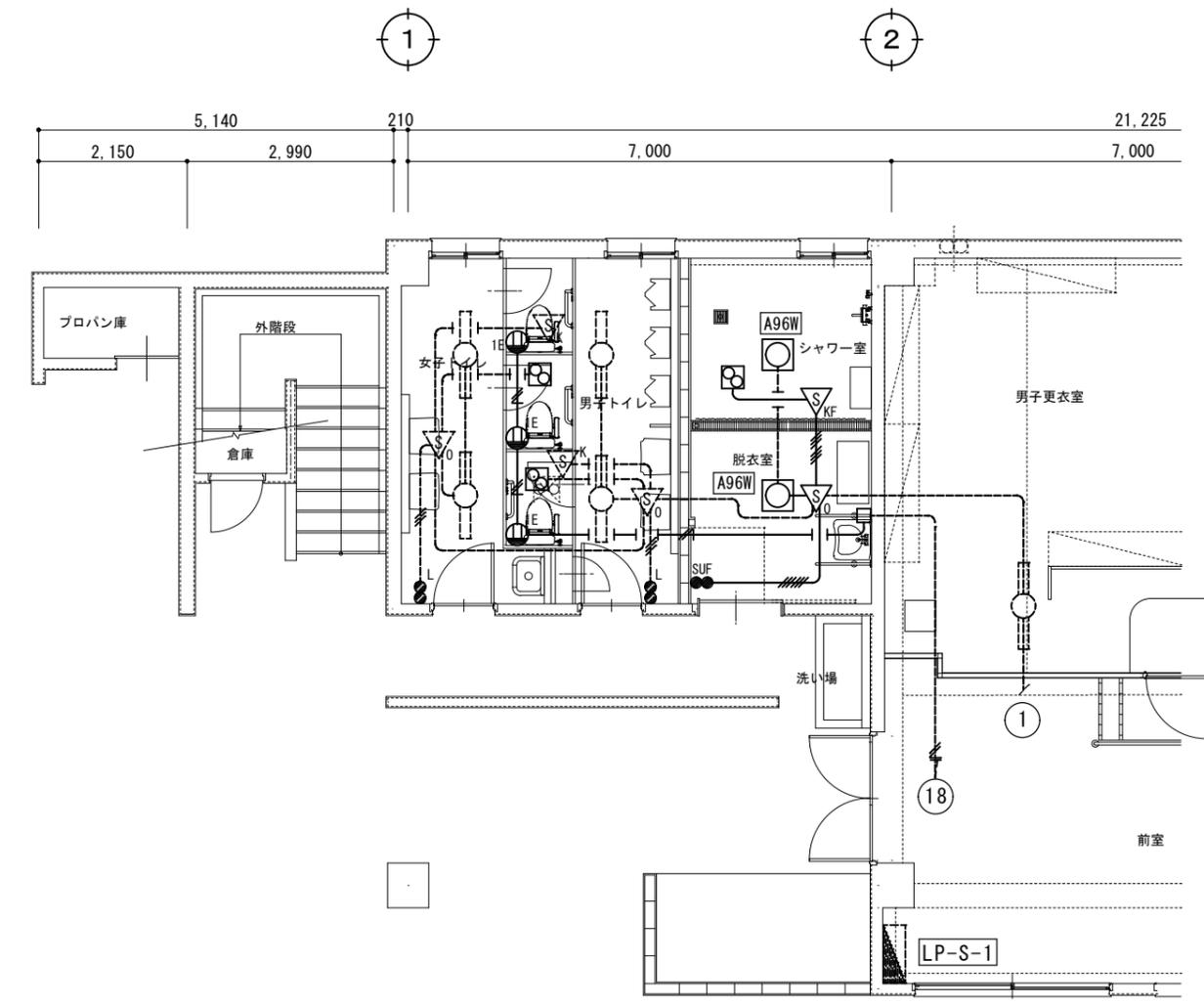


改修前平面図 S = 1 / 100

凡例

| | | | |
|--|----------------|-------------|------------|
| | 露出照明器具撤去 | FL40W-1 | カバープレート取付 |
| | 埋込スイッチ (2連) 撤去 | フルカラー金属プレート | |
| | 天井扇結線外し | 器具撤去機械工事 | 配線養生 |
| | 乾燥ファンヒーター結線外し | 器具撤去機械工事 | 回路18のみ配線養生 |

特記事項
 特記なき配管配線は下記による
 1V2.0mm×2(E19) 2.0mm×3(E19)
 1V1.6mm×2(E19) 1.6mm×3(E19) 1.6mm×4(E19)
 露出部分は1種線び(金属モール)内入線
 配線器具はコスモ型金属プレート使用

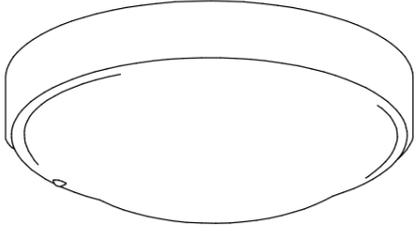
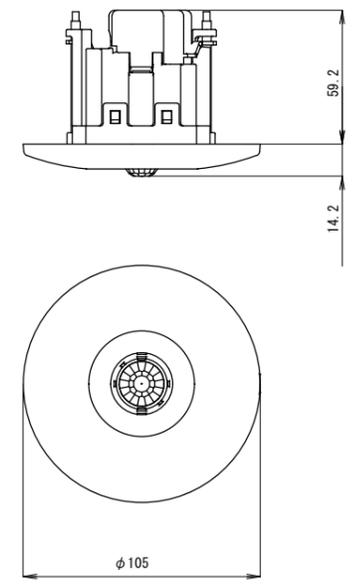
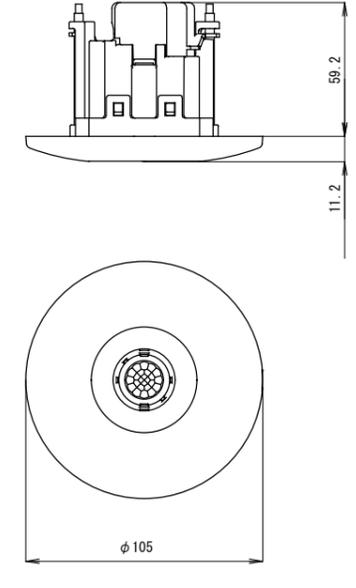
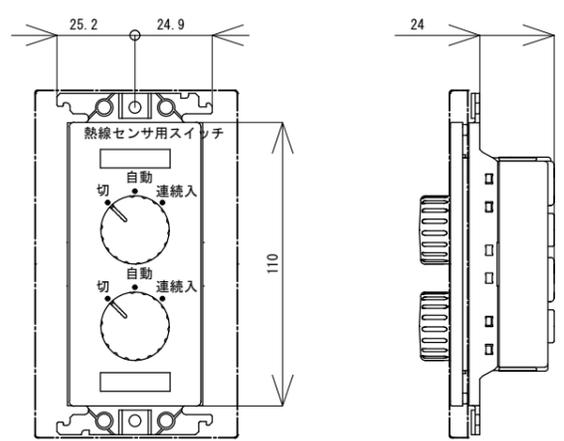


改修後平面図 S = 1 / 100

凡例

| | | |
|--|------------------|-----------------|
| | 防湿型シーリング照明器具新設 | 既設配線接続 |
| | 操作ユニット(2回路)新設 | 15A 250V 金属プレート |
| | 熱線センサ付自動スイッチ親器新設 | 天井取付 100V |
| | 熱線センサ付自動スイッチ子器新設 | 天井取付・換気扇接続 |
| | 接地極付埋込コンセント新設 | 2P15A×1E 金属プレート |
| | 線び用角型ジャンクションボックス | 金属製プランクPL |
| | 新設天井扇結線替え | 本体機械工事 |
| | 新設配管配線 | ※特記による |

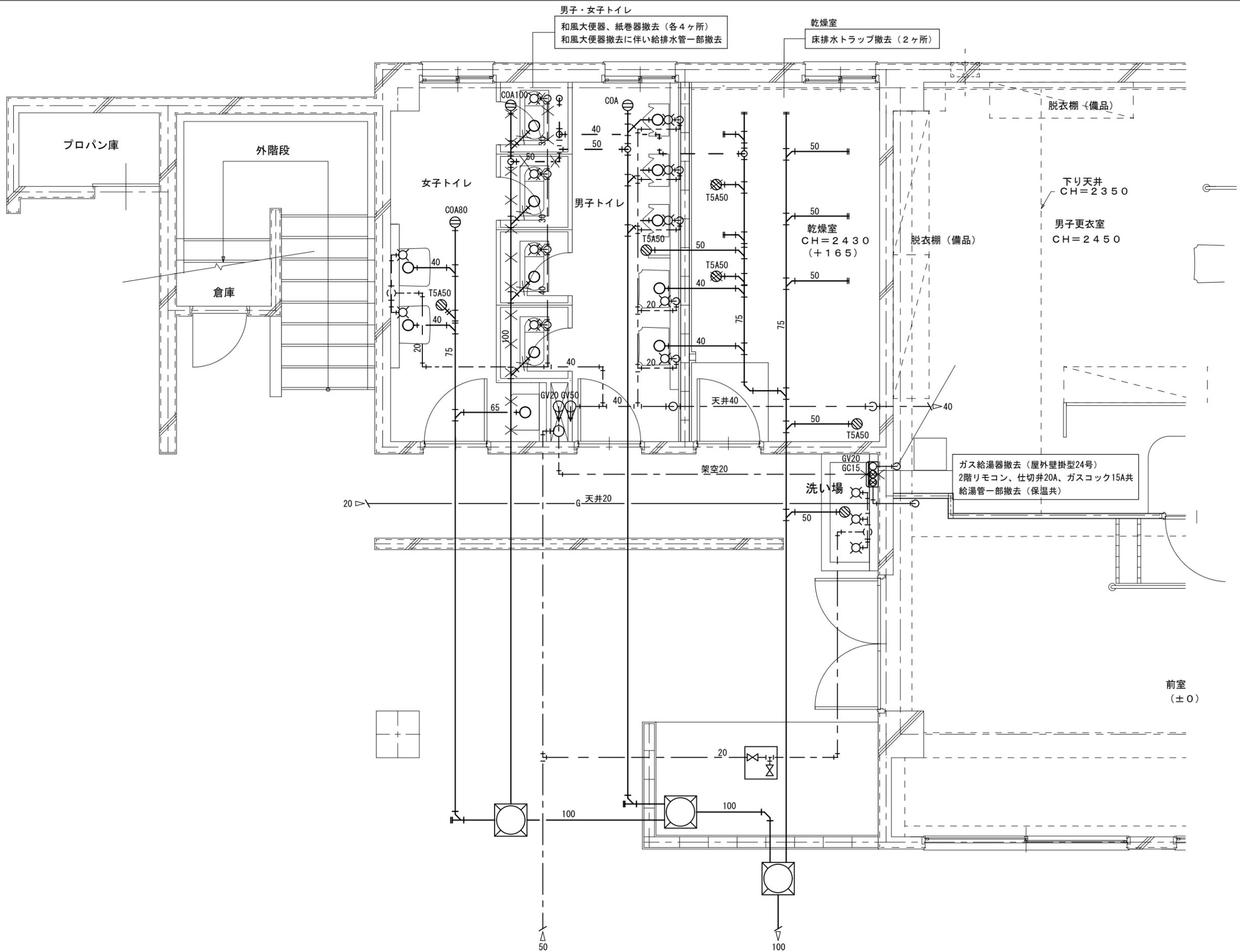
特記事項
 特記なき配管配線は下記による
 EM-EEF1.6mm-2C 2.0mm-3C
 EM-EEF1.6mm-3C 1.6mm-3C×2
 露出部分は1種線び(金属モール)内入線
 配線器具はコスモ型金属プレート使用

| | | | | | | | | | | | |
|---|------------|------------|----|---------|--|----|------------|--|---|----|----------|
| <p>A96W LEDシーリングライト 30形丸形蛍光灯1灯器具相当</p>  <p>温白色 (3500K)、Ra83 器具光束965lm、消費電力10.7W、電圧100V 防湿型・防雨型、拡散タイプ、ネジ込み方式 プラスチック (ホワイト) カバー: アクリル (乳白)</p> <p>LGW51705WCF1</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>△S0 天井取付 熱線センサ付自動スイッチ (観器・100V) (広角検知形・検知後連続動作時間約10秒~30分可変形)</p>  <p>WTK24818</p> <table border="1" data-bbox="178 1764 816 1827"> <tr> <td>定格</td> <td>8A 100V AC</td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>明るさセンサ付</td> </tr> </table> | 定格 | 8A 100V AC | 仕様 | 明るさセンサ付 | <p>△SKF 天井取付 熱線センサ付自動スイッチ (子器・換気扇接続端子付) (換気扇100W・検知後換気扇連続動作時間約10秒~30分可変形)</p>  <p>WTK29318</p> <table border="1" data-bbox="845 1764 1484 1827"> <tr> <td>定格</td> <td>1A 100V AC</td> </tr> </table> | 定格 | 1A 100V AC | | <p>●SUF コスモシリーズワイド21 埋込熱線センサ用自動スイッチ付 操作ユニット (2回路) (ホワイト) 15A 250V AC</p>  <p>WTC5822W (金属プレート)</p> <table border="1" data-bbox="2181 1764 2804 1827"> <tr> <td>定格</td> <td>15A 250V</td> </tr> </table> | 定格 | 15A 250V |
| 定格 | 8A 100V AC | | | | | | | | | | |
| 仕様 | 明るさセンサ付 | | | | | | | | | | |
| 定格 | 1A 100V AC | | | | | | | | | | |
| 定格 | 15A 250V | | | | | | | | | | |

| 機械設備工事特記仕様書 (R.2.改訂) | | ●工事用資材の選定 | | ●撤去 | | ●完成時の提出図書等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------|---|------------------------|---|------------------------|---|--------------|--------|----------|-------|-------|----------|----------|-------|--------|------|-------|----------|---------|---------|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|-------|---------|-------|----------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|--------------|--|-------|---------------|------|-----------|---------------|-----------|-----------|--------|-------|----------|-------|-------|-------|---|------|-----------|-------|----|--------|-------|------|--------|-------------------|--|---|---|------|----|------|---|---|-----------|-------|----|---|---|----------|---|--------|---|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| I. 工事概要 1. 工事場所 福井県 小浜市 田島区大浜 地保 2. 建物概要 <table border="1"> <tr> <th>棟名称</th> <th>構造</th> <th>階数</th> <th>延べ面積 (m²)</th> <th>消防法施行令別表第一</th> <th>建築基準法別表第一の用途</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>A: 海の学習棟</td> <td>RC造</td> <td>2階屋</td> <td>478.51</td> <td>第16項 (イ)</td> <td>研修施設</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | 棟名称 | 構造 | 階数 | 延べ面積 (m ²) | 消防法施行令別表第一 | 建築基準法別表第一の用途 | 備考 | A: 海の学習棟 | RC造 | 2階屋 | 478.51 | 第16項 (イ) | 研修施設 | | B: | | | | | | | C: | | | | | | | D: | | | | | | | 工事材料や物品等の調達においては、福井県内に主たる営業所を有する者の中からの調達および県産品の活用に努める。また工事完成時に県産品使用実績報告書を監督職員に提出する。 ●設備機材等 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの、または、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 また、設備機材等の製造者等は、次の(1)~(6)の事項を満たすものとし、証明となる資料または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 (1) 品質および性能に関する試験データが整備されていること。 (2) 生産施設および品質の管理が適切に行われていること。 (3) 安定的な供給が可能であること。 (4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許等を取得していること。 (5) 製造または施工の実績があり、その信頼性があること。 (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。 | | ●撤去 撤去を行う場合は、改修標準仕様書第1編第4章によるほか、次による。 工作物撤去後の補修は (※モルタル補修 ○) とする。 ●再使用機材 取外し後再使用する機材は、改修標準仕様書第1編 1.4.3 による。なお、ファンコイルユニット等の見えがかり部分は、洗剤を使用するなどして十分に清掃を行う。 ●発生材の処理等 (1) 標準仕様書第1編 1.3.9 または改修標準仕様書第1編第5章による。 引き渡すを要するもの ※なし ○あり (機器類・金属類等) 家電リサイクル法による処分を要するもの ●なし ○あり (図示) フロン系冷媒使用機器の撤去 ●なし ○あり 上記機器類の撤去は改修標準仕様書第3編2.4.2、2.4.3及び第5編2.3.2による。 (2) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う。 運搬および処分費 ※本工事 ○別途 (3) 次のアスベスト含有資材を含む部分の施工に際しては関係法令に従い適切な対策を講じた上、適切に処分すること。 ○ダクトバックン ○配管エルボ部保温材 ○煙道の断熱材 ○ボード等内外装材 ○分調調査によりアスベスト含有資材と判定されたもの ○分調調査によりアスベスト含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 (4) 上記(3)に示す部位のうち、アスベスト含有調査の判断は以下による。 ダクトバックン ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 配管エルボ部保温材 ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 ボード等内外装材 ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 (5) 次のアスベスト含有調査により、資機材のアスベスト含有の有無を確認する。 ※JIS A 1481-2「試験採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」またはJIS A 1481-3「アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 調査費用 ※本工事 ○別途 (6) 分析結果については、監督職員に報告すること。 分析調査対象資材 <table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> </table> 採取箇所は図示による (7) 上記以外のものについては関係法令に従い適切に処理する。 | | 部位 | 定性分析 | 定量分析 | () | () | () | () | () | () | () | () | () | (1) 標準仕様書第1編第1章第7節および改修標準仕様書第1編第1章第8節による完成図書を作成し、監督職員に提出する。 電子納品によるほか、提出部数および作成様式等は下記のとおりとする。 <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>原図</th> <th>製本</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※変更設計図</td> <td>1部</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※完成図</td> <td>1部</td> <td>(注2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※保全に関する資料</td> <td>—</td> <td>2部</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○長期保全計画書</td> <td>—</td> <td>2部</td> <td></td> </tr> </table> 注1: 原図は施設毎に図面ホルダーに収納する。 注2: 完成図白焼製本 A3版3部を提出する。 (2) 保守点検に必要な工具類一式を、監督職員に提出する。 | | 区分 | 種類 | 原図 | 製本 | 備考 | | ※変更設計図 | 1部 | — | | | ※完成図 | 1部 | (注2) | | | ※保全に関する資料 | — | 2部 | | | ○長期保全計画書 | — | 2部 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 棟名称 | 構造 | 階数 | 延べ面積 (m ²) | 消防法施行令別表第一 | 建築基準法別表第一の用途 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A: 海の学習棟 | RC造 | 2階屋 | 478.51 | 第16項 (イ) | 研修施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B: | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C: | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D: | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 部位 | 定性分析 | 定量分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| () | () | () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| () | () | () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| () | () | () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 種類 | 原図 | 製本 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ※変更設計図 | 1部 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ※完成図 | 1部 | (注2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ※保全に関する資料 | — | 2部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○長期保全計画書 | — | 2部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 工事種目 (●印を付けたものを適用し、各一式とする) <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">棟別および屋外 工事種目</th> <th colspan="4">適用区分</th> <th rowspan="2">屋外</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>空気調和設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>換気設備</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排煙設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>自動制御設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>衛生器具設備</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>給水設備</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排水設備</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>給湯設備</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>消火設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ガス設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>浄化槽設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>厨房機器設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>撤去工事</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> | | 棟別および屋外 工事種目 | 適用区分 | | | | 屋外 | A | B | C | D | 空気調和設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 換気設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 排煙設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 自動制御設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 衛生器具設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 給水設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 排水設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 給湯設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 消火設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ガス設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 浄化槽設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 厨房機器設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 撤去工事 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ●工事検査・試験 監督職員による。 ●工事検査・技術検査 ※請負金額130万円以上の場合、評定する。 ○130万円未満の場合、評定しない。 ●工事成績評定の対象 (工事成績評定要領 第2条) ※須負金額130万円以上の場合、評定する。 ○130万円未満の場合、評定しない。 ○評定しない (○応急工事 ○取壊解体工事 ○土砂運搬工事 ○規格品据付工事 ○規格品交換工事 ○部品交換工事 (オープホール含む) ○その他) | | ●環境への配慮 (1) 「排出ガス対策型建設機械指定要領」および「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」(国土交通省)による排出ガス対策型および低騒音型建設機械を使用する。 (2) 発生材の処理等 再資源化を図るもの ○アスファルト・コンクリート塊 ○コンクリート塊 ○建設発生木材 ○建設汚泥 (3) 再生資源の利用 ※再生クラッシュラン ※再生スファルト合材 (4) 提出書類 以下の書類について、提出用ファイル (電子データ) を監督職員に提出する。 ① 再生資源利用 (計画・実施) 書 ② 再生資源利用促進 (計画・実施) 書 | | ●設計図 ●設計図 A2の白焼きを () 部、A3の白焼きを (3) 部製本し提出する。 ●著作権等 当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。 ○一年点検 ※発注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。 | |
| 棟別および屋外 工事種目 | 適用区分 | | | | 屋外 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空気調和設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 換気設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排煙設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自動制御設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 衛生器具設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 給水設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排水設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 給湯設備 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 消火設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガス設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浄化槽設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 厨房機器設備 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 撤去工事 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 別契約の関連工事 ●建築関係工事 ●電気関係工事 ○給排水関係工事 ○空調関係工事 ○その他工事 () | | ●化学物質を放散させる建築材料等の使用制限 本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質および性能を有すると共に、次の(1)から(4)を満たすものとする。 (1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗装、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しない又は放散が極めて少ない材料で設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 (2) 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 (3) 接着剤は可塑剤 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する。 (4) (1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ない材料を使用したものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散させないものとは放散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものを用い、原則として規制対象外のものを使用するものとする。ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 また、「ホルムアルデヒドの放散量」は次のとおりとする。 ホルムアルデヒドの放散量 該当する建築材料 規制対象外 ① JISおよびJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド放散建築材料以外の材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 第三種 ① JISおよびJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド放散建築材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 | | ●グリーン購入調達記録表の提出 資材、工法、建設機械において、工事の特性を踏まえ、必要とされる強度や耐久性、機能の確保、コスト等に留意しつつ、「福井県庁グリーン購入推進方針 (平成13年4月27日策定)」に基づき環境資材等の使用を積極的に推進するものとし、その調達実績を記録した「公共工事に係るグリーン購入調達記録表」を監督職員に提出する。 | | ●耐震施工 設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人 建築研究所監修)により、基礎、架台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図 (施工25~29) による。 (1) 設計用水平震度 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="4">耐震安全性の分類</th> </tr> <tr> <th colspan="2">○特定の施設</th> <th colspan="2">●一般の施設</th> </tr> <tr> <td></td> <td>重要機器・水槽</td> <td>一般機器・水槽</td> <td>重要機器・水槽</td> <td>一般機器・水槽</td> </tr> <tr> <td>上層階</td> <td>2.0 (2.0)</td> <td>1.5 (2.0)</td> <td>1.5 (2.0)</td> <td>1.0 (1.5)</td> </tr> <tr> <td>屋上および屋根</td> <td><2.0></td> <td><1.5></td> <td><1.5></td> <td><1.0></td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5 (1.5)</td> <td>1.0 (1.5)</td> <td>1.0 (1.5)</td> <td>0.6 (1.0)</td> </tr> <tr> <td></td> <td><1.5></td> <td><1.0></td> <td><1.0></td> <td><0.6></td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>1.0 (1.0)</td> <td>0.6 (1.0)</td> <td>0.6 (1.0)</td> <td>0.4 (0.6)</td> </tr> <tr> <td>および地下階</td> <td><1.5></td> <td><1.0></td> <td><1.0></td> <td><0.6></td> </tr> </table> 注1 () 内の数値は防振支持の機器の場合、>の数値は水槽類に適用する。 2 重要機器 (水槽類) は、下記による。(水槽類にはオールドタンク等を含む。) ○給水装置 ○排水装置 ○換気機器 ○空調機器 ●熱源機器 ○防災設備 ○監視制御装置 ○危険物貯蔵装置 ○火を使用する設備 ○避難経路上に設置する機器 ○ 3 上層階の定義は、次による。 6階建以下の場合は最上層、7~9階建の場合は上層2階、 10~12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 (2) 設計用鉛直震度 設計用鉛直震度は設計用水平震度の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。 (3) 吊り軽量機器の耐震支持 (100kg以下の設備機器) ① 耐震クラスS (指針表 2.2-1を参照) で計画する場合の吊り部材には、形鋼を用いる。 ② 吊りボルトで耐震支持部との合計長さを25cm以内とする。斜材は、自重支持用吊りボルトと同等以上の強度の金属材 (鉄筋、全ネジボルト) を用いる。また、自重支持ボルトと斜材とを接続する部材は締め付け具を用い、クランプなどは使用しない。 | | 設置場所 | 耐震安全性の分類 | | | | ○特定の施設 | | ●一般の施設 | | | 重要機器・水槽 | 一般機器・水槽 | 重要機器・水槽 | 一般機器・水槽 | 上層階 | 2.0 (2.0) | 1.5 (2.0) | 1.5 (2.0) | 1.0 (1.5) | 屋上および屋根 | <2.0> | <1.5> | <1.5> | <1.0> | 中間階 | 1.5 (1.5) | 1.0 (1.5) | 1.0 (1.5) | 0.6 (1.0) | | <1.5> | <1.0> | <1.0> | <0.6> | 1階 | 1.0 (1.0) | 0.6 (1.0) | 0.6 (1.0) | 0.4 (0.6) | および地下階 | <1.5> | <1.0> | <1.0> | <0.6> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置場所 | 耐震安全性の分類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○特定の施設 | | ●一般の施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 重要機器・水槽 | 一般機器・水槽 | 重要機器・水槽 | 一般機器・水槽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上層階 | 2.0 (2.0) | 1.5 (2.0) | 1.5 (2.0) | 1.0 (1.5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋上および屋根 | <2.0> | <1.5> | <1.5> | <1.0> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中間階 | 1.5 (1.5) | 1.0 (1.5) | 1.0 (1.5) | 0.6 (1.0) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <1.5> | <1.0> | <1.0> | <0.6> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1階 | 1.0 (1.0) | 0.6 (1.0) | 0.6 (1.0) | 0.4 (0.6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| および地下階 | <1.5> | <1.0> | <1.0> | <0.6> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 工期 別に示す予告等による。 (但し、下記に指定する部分の工事については令和 年 月 日完成) 指定部分 | | ○室内空気中の化学物質の濃度測定および確認 ※24時間測定 ○ () 時間測定 延べ () 箇所 (1) 測定対象室および各室測定箇所数 ※図示 ○ () (2) 測定対象物質 ※室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン (学校の場合はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、スチレン、エチルベンゼン) 測定はバッチ型採取機器により行う。測定条件等は、監督職員の指示による。 測定対象物質の濃度を測定し、報告する。 | | ●情報共有システム ※利用しない (ただし、受注者より利用したい旨の申し入れがあった場合は、発注者はこれを承諾する。) ○利用する (情報共有システム運用ガイドライン (案) 福井県版を基に、福井県仕様システムに登録し利用すること。) | | ●機器の据え付け及び取り 機器の据え付け及び取りは標準仕様書第3編第2章第1節または改修標準仕様書第3編第2章第1節による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II. 工事仕様 1. 共通仕様 1) 現場説明書、特記仕様書、設計図面に記載がない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部の仕様書等による。「公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (平成31年版) 」 (以下、「標準仕様書」という。) 「公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (平成31年版) 」 (以下、「改修標準仕様書」という。) 「公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (平成31年版) 」 (以下、「標準図」という。) 2) 工事種目に電気設備工事および建築工事を含む場合、その仕様は当該図面による。 | | ●電気工作物の種類 ※事業用電気工作物 ○一般用電気工作物 ○電気保安技術者 標準仕様書または改修標準仕様書に規定する電気保安技術者をおくものとする。 ●品質管理 標準仕様書第1編1.3.4または改修標準仕様書第1編1.3.4による。 ●施工中の安全確保および環境保全 施工中の安全確保および環境保全を標準仕様書第1編1.3.5および1.3.8または改修標準仕様書第1編1.3.5および1.3.9による。 ●火気の取り扱い 改修標準仕様書第1編1.3.6による。 ●施工調査 施工計画調査は、改修標準仕様書第1編1.5.1による。 事前調査の内容は次による。 調査項目 改修対象建物および同建物内設備配管・ダクト等・屋外埋設配管等埋設物 調査範囲 本工事と取り合いのある範囲および本工事の施工により影響がおよぶ範囲 調査方法 スケール・レベル・目柱による他、監督職員との協議による。 標準仕様書または改修標準仕様書によるほか、下記による。 施工前に当該工事に係る地中埋設物等 (建物または既設コンクリート内の既設配管・配線も含む) について事前調査を行う。既設構造物の位置および既設埋設配管の経路等が不明な場合は、探査方法および試験掘削方法を監督職員と協議する。 はつりおよび穴開け、あと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査機により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行う。放射線透過検査については、監督職員の指示による。 | | ○電子納品 (1) 本工事は電子納品対象工事とする。電子納品は、「電子納品の手引き (案) 福井県版」 (以下「要領等」という。) に基づいて行う。 (2) 成果品は「要領等」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体 (OD-R) で2部提出する。 (3) 電子成果品の提出の際には電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルスチェックを実施したうえで提出する。 (4) 完成検査まで (公財) 福井県建設技術株式会社電子納品保管管理システムの登録料を支払い、完成検査終了後、正を監督職員に副を (公財) 福井県建設技術株式会社に提出する。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 特記仕様 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ○電子納品の対象 工事関係資料のうち電子納品の対象とする納品資料を下表に示す。 詳細については、「電子納品の手引き (案) 福井県版」による。 <table border="1"> <tr> <th>フォルダ名称</th> <th>資料大分類</th> <th>ファイル形式</th> </tr> <tr> <td>PLAN</td> <td>施工計画書</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>SCHEDULE</td> <td>工程表</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>MEET</td> <td>打合せ簿</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>MATERIAL</td> <td>機材関係資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>PROCESS</td> <td>施工関係資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>INSPECT</td> <td>検査関係資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>SALVAGE</td> <td>発生材関係資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>DRAWING</td> <td>完成図</td> <td>※SXF (sfx) 形式および ※JW-CAD形式</td> </tr> <tr> <td>MAINT</td> <td>保全に関する資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>OTHS</td> <td>契約関係資料</td> <td>PDF形式 (注1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>施工図</td> <td>※SXF (sfx) 形式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>完成写真</td> <td>JPEG形式 (注3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工事実績情報</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工事の一時的停止</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工期の変更</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>文化財その他埋蔵物</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他の資料</td> <td>PDF形式</td> </tr> <tr> <td>(注4)</td> <td>工事写真</td> <td>JPEG形式 (100万画素程度)</td> </tr> </table> 注1: 元請・下請関係届出書、現場指示書は契約関係資料に入れる。それ以外については手引きによる。 注2: ファイル形式は上表による。これによれない場合は監督職員と協議する。 注3: 完成写真は電子画像の他、[○四つ切 ○キャベソ版] のプリントを () 部提出する。 注4: フォルダ構成など、「営繕工事写真撮影要領平成31年版」(国土交通大臣官房官庁営繕部)によるほか、監督職員の指示による。ただし画像データの編集はファイル名のみとする。 | | フォルダ名称 | 資料大分類 | ファイル形式 | PLAN | 施工計画書 | PDF形式 | SCHEDULE | 工程表 | PDF形式 | MEET | 打合せ簿 | PDF形式 | MATERIAL | 機材関係資料 | PDF形式 | PROCESS | 施工関係資料 | PDF形式 | INSPECT | 検査関係資料 | PDF形式 | SALVAGE | 発生材関係資料 | PDF形式 | DRAWING | 完成図 | ※SXF (sfx) 形式および ※JW-CAD形式 | MAINT | 保全に関する資料 | PDF形式 | OTHS | 契約関係資料 | PDF形式 (注1) | | 施工図 | ※SXF (sfx) 形式 | | 完成写真 | JPEG形式 (注3) | | 工事実績情報 | PDF形式 | | 工事の一時的停止 | PDF形式 | | 工期の変更 | PDF形式 | | 文化財その他埋蔵物 | PDF形式 | | その他の資料 | PDF形式 | (注4) | 工事写真 | JPEG形式 (100万画素程度) | ●配管・ダクトの吊りおよび支持 (1) 配管の吊りおよび支持などは、標準仕様書第2編第2章第6節または改修標準仕様書第2編第2章第4節の当該事項によるほか、配管の曲り部およびバルブ類取付箇所には、500mm以内に支持金物を設ける。 (2) ダクト類の吊りおよび支持などは、標準仕様書第3編第2章第2節 または改修標準仕様書第3編第2章第2節による。 ○建物導入部の変位吸収措置 建物導入部の変位吸収方法は、標準図 (施工4.5) による。 ○フレキシブルジョイント ○ボールジョイント ※スリークッション ●あと施工アンカー 新規に作成する基礎・構造体に設備を設置する場合には、原則としてあと施工アンカーは使用してはならない。 配管、機器等の吊下げ用アンカーには接着系アンカーを使用してはならない。施工後確認試験を行う。ただし、吊りボルト用アンカー等軽微なものは監督職員との協議により省略することができる。 試験方法 国土交通大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) (平成31年版) 8.12.7による。 確認強度 監督職員との協議による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フォルダ名称 | 資料大分類 | ファイル形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAN | 施工計画書 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SCHEDULE | 工程表 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| MEET | 打合せ簿 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| MATERIAL | 機材関係資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PROCESS | 施工関係資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| INSPECT | 検査関係資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SALVAGE | 発生材関係資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DRAWING | 完成図 | ※SXF (sfx) 形式および ※JW-CAD形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| MAINT | 保全に関する資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| OTHS | 契約関係資料 | PDF形式 (注1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 施工図 | ※SXF (sfx) 形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 完成写真 | JPEG形式 (注3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工事実績情報 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工事の一時的停止 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工期の変更 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 文化財その他埋蔵物 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他の資料 | PDF形式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (注4) | 工事写真 | JPEG形式 (100万画素程度) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●配管材料等 配管材料は標準仕様書第2編第2章第1節および改修標準仕様書第2編第2章第1節によるほか、表-1「配管材料区分」による。 ●一般用弁 水道直結部および図面特記部の耐圧は JIS または JV10K、その他は JIS または JVK5 とする。配管類との接続により、電気腐食を起こす恐れのない材質のものを使用する。 | | ●配管材料等 配管材料は標準仕様書第2編第2章第1節および改修標準仕様書第2編第2章第1節によるほか、表-1「配管材料区分」による。 ●一般用弁 水道直結部および図面特記部の耐圧は JIS または JV10K、その他は JIS または JVK5 とする。配管類との接続により、電気腐食を起こす恐れのない材質のものを使用する。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板には、県内間伐材を使用し、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。 構内につくることが ※できる ○できない ●工事用仮設物 別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。 ●足場・作業構台 ※ 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第1編 2.2.1 によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の (2) 手すり据置方式または (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種 (単管足場) ○F種 (くさび緊結式足場) ○G種 (枠組足場) 外部足場 ○A種 (枠組足場) ○B種 (くさび緊結式足場) ○C種 (単管足場) ※D種、E種 ○F種 (高所作業車) なお、単管足場、枠組足場の設置場所は図示または監督職員の指示による。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | ●アンカーボルトのナット用合成樹脂製キャップ 屋外設置機器のアンカーボルトのナット部分には、合成樹脂製キャップをかぶせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 特記事項 1) 項目および特記事項は、※、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。 | | ●現場表示板 地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

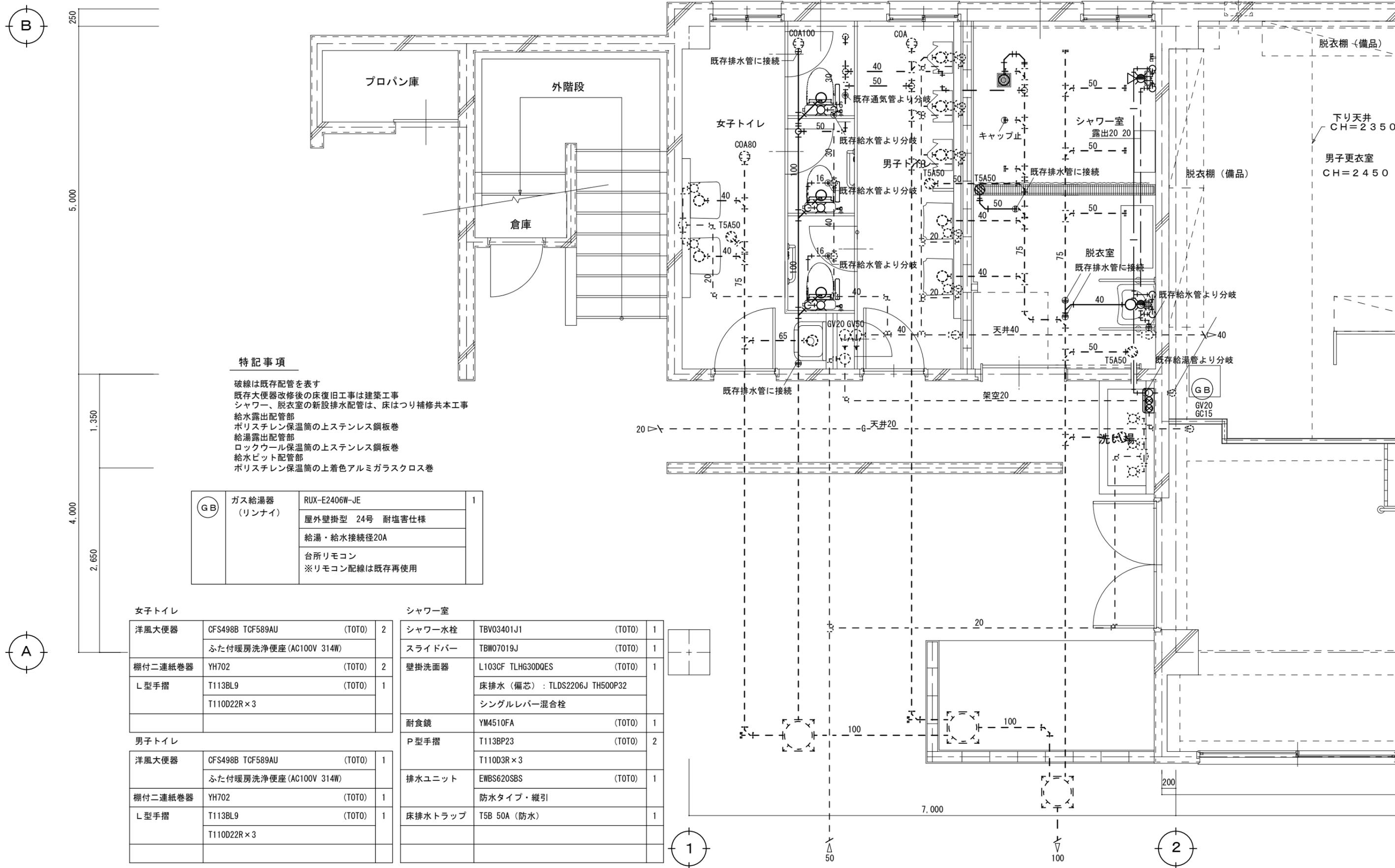
| | | | | | |
|-----------------------|----------------|--|--|---|--|
| 共 通 用 項 目 | ○屋外埋設配管 | 標準仕様書第2編 2.7.1 または改修標準仕様書第2編 2.5.1 による。 (1) 埋設深度は、次のとおりとする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。 ※地表面（舗装がある場合は、舗装下面（路盤））から 300mm 以上 ※車道道路（構内車道道路程度） 地表面から 600mm 以上 ○ 地表面から mm 以上 (2) 配管下端（管底-100mm）および配管上端（管頂+100mm）に砂地栗（山砂類または再生材）を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。 (3) 管を埋戻す場合は、土盛り1500mm程度の深さに埋設表示用アルミテープまたはポリエチレンテープ等を埋設する。ただし、排水管は不要とする。 (4) 曲りおよび分岐部には地中埋設管を打込むこと。 | ○方式 ○全空気方式（○中央 ○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ○個別方式 | ○排気フード 排気フードの補強、支持金物、接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ※ステンレス鋼板（補強共） ○亜鉛鉄板 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ※本工事 ○別途工事 グリースフィルターの予備 ○要 ※不要 | |
| | ●屋内埋設配管 | (1) 給水、ガスおよび消火配管は、土間コンクリート直下の地栗部分に配管し、周囲を砂で埋戻す。 (2) 排水管も上記に準じ、配管上部の地栗は砂に置き換える。 (3) 配管は原則として、土間コンクリートより吊りボルトにて吊り下げる。吊り間隔は屋内配管に準ずる。 | ○主要熱源機器 機器 ○吸気冷凍水機 ○チリングユニット ○ボイラー ○空気熱源ヒートポンプユニット ○コージェネレーション装置 ○空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（○OHP ○GHP ○ ） 燃料 ○灯油 ○A重油 ○LPG ○都市ガス ○電気〔○深夜電力〕 ○レレット | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ●保温および塗装 | (1) 標準仕様書ロックウール保温材、グラスウール保温材及びポリスチレンフォーム保温材が併記されている箇所は、いずれかを使用する。ただし、給水管については、暗室内（ビット含む）、屋外露出および浴室、厨房等の多湿箇所につきポリスチレンフォーム保温材とし、排水管については、浴室、厨房等の多湿箇所につきポリスチレンフォーム保温材とする。 (2) 屋外露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は次による。 ●ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ●ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○アルミニウム板 (3) 屋内露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は、原則、合成樹脂製カバー1とする。 (4) 弁・ストレーナなどの金属製カバーおよびタンク類の保温外装材の種別は、次による。 ●ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○アルミニウム板 (5) 車庫に露出のダクトおよび配管の保温は、機械室による。 (6) 各場所に出露の保温を施さないダクトおよび配管の塗装は以下による。 外壁廻り ※要 ○不要 書庫 ※要 ※不要 屋上階 ○要 ※不要 機械室 ○要 ※不要 車庫 ○要 ※不要 一般居室、廊下 ※要 ○不要 倉庫 ○要 ※不要 (7) 合成樹脂製支持受 ※硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの | ○設計時の温湿度条件 場所 屋外 一般居室 ○ ○ ○ 室 時期 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 夏期 ℃ % 28 ℃ 50 % ℃ % 冬期 ℃ % 19 ℃ 40 % ℃ % | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ○吹出口および吸込口ボックス | ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は JIS A 4009（空気調和および換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ 0.6mm 以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊り又は3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ○エポキシ樹脂ライニング | エポキシ樹脂コーティングおよびライニングの乾燥方法は次による。 ※加熱乾燥 ○常温乾燥 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ●電線類および電線管 | 電線類および電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による。 電線類は原則としてEM電線およびEMケーブルを使用する。 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ●ボックス | 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 但し、電動機の出、燃料消費量および圧力損失は表示された数値以下とする。 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ○誘導電動機 | 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランジスタモーター）による。 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |
| | ○スリーブ | 柱、梁および耐震壁以外の箇所で、開口補強が不要、かつ、スリーブ径が200φ以下の部分には、紙製板を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ配管施工前に仮枠を必ず取り除く。 | ○ダクトの種別 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 | ○換気設備 ○保温 ○排煙対象部分 ○ダクトの工法 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 ○ダクトの種別 |

| | | | | | | |
|--------------|--------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|--------------------|-----|-----|
| 表-1 「配管材料区分」 | | 用 途 | | 名 称 ・ 種 類 | | |
| 空調配管 | 冷水管・膨張管・エア抜き管・膨張タンクより、 | ※配管用炭素鋼鋼管(SGP白) | ○ステンレス鋼管 | | | |
| | ボイラー室への補給水管 | ○耐熱性ライニング鋼管 | ○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA) | | | |
| | 冷却水管 | ※配管用炭素鋼鋼管(SGP白) | ○ステンレス鋼管 | ○耐熱性ライニング鋼管 | | |
| | 蒸気給水管 | ※配管用炭素鋼鋼管(SGP黒) | ○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒) | | | |
| | 蒸気還管 | ※圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒) | ○ステンレス鋼管 | | | |
| | 油 管（一般配管） | ※配管用炭素鋼鋼管(SGP黒) | | | | |
| | 油 管（地中配管） | ※ポリエチレン被覆鋼管 | ○ステンレス鋼管 | | | |
| | 空調用給水管 | ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) | 呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) | | | |
| | 空調用排水管 | ※排水用硬質ポリ塩化ビニル管(VP) | ○配管用炭素鋼鋼管(SGP白) | | | |
| | 冷 媒 管 | ※断熱材被覆鋼管 | ○鋼管 | ○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒) | | |
| 給水配管 | 一般配管 | ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) | ○ポリ粉体ライニング鋼管 | | | |
| | 地中配管 | ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) | ○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA) | | | |
| | 排水配管 | ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) | ○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA) | | | |
| | 通 気 管 | ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP) | ○ポリ粉体ライニング鋼管 | | | |
| | ポンプアップ排水管 | [汚水・雑排水] ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA) | ○コーティング鋼管 | | | |
| | 衛生器具との接続管 | ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP) | ○ポリ粉体ライニング鋼管 | | | |
| | 給湯配管 | ※鋼管（壁または床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。） | ●ステンレス鋼管(SUS304) | ○ステンレス鋼管(SUS316) | | |
| | 消火配管 | 一般配管 | ※配管用炭素鋼鋼管(SGP白) | ○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG白) | | |
| | ガス管 | 屋内配管 | ※配管用炭素鋼鋼管(白) | ○合成樹脂被覆鋼管 | | |
| | 表-2 「工事区分表」 | 工 事 内 容 | | 建 築 | 電 気 | 機 械 |
| 設備機器基礎等 | 屋内基礎 | | ● | ● | ● | |
| | 屋上基礎 | | ● | ● | ● | |
| | 地下補強 | | ● | ● | ● | |
| | S・S・R造梁の貫通部 | 補強 | ● | ● | ● | |
| | R・C造梁・床・壁の貫通部 | スリーブ | ● | ● | ● | |
| | 軽量鉄骨地下天井・壁の開口部 | 補強 | ● | ● | ● | |
| | 貫通部・開口部の穴埋め補修 | 補強を要する切込み | ● | ● | ● | |
| | 貫通部・開口部の塞出し | 補強を要しない切込み | ● | ● | ● | |
| | 床、天井点検口 | | ● | ● | ● | |
| | 防油堤 | オイルサービスタンの防油堤 | ● | ● | ● | |
| 電気配管配線 | 外部取付ガラリ | ダクト、チャンパーの接続用フランジ含む | ● | ● | ● | |
| | 雨水排水 | 配管、樹、蓋 | ● | ● | ● | |
| | 汚水、雑排水 | 配管、樹、蓋 | ● | ● | ● | |
| | 機器等へ直接接続する配管配線 | | ● | ● | ● | |
| | 機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共) | | ● | ● | ● | |
| | 機器付属の制御盤への電源供給配管配線 | | ● | ● | ● | |
| | 機器と専用操作スイッチの渡り配管配線 | | ● | ● | ● | |
| | パッケージ形空気調和機の2次側配管配線(接地共) | | ● | ● | ● | |



既存大便器改修後の床復旧工事は建築工事
給排水管、床配管貫通口はつり補修 (50φ、150φ) 3ヶ所

給水、給湯管、壁配管貫通口はつり補修 (50φ) 2ヶ所
シャワー、脱衣室の新設排水配管は、床はつり補修共本工事



特記事項

破線は既存配管を表す
既存大便器改修後の床復旧工事は建築工事
シャワー、脱衣室の新設排水配管は、床はつり補修共本工事
給水露出配管部
ポリスチレン保温筒の上ステンレス鋼板巻
給湯露出配管部
ロックウール保温筒の上ステンレス鋼板巻
給水ビット配管部
ポリスチレン保温筒の上着色アルミガラスクロス巻

| | | | |
|----|-----------------|-------------------------|---|
| GB | ガス給湯器 (リンナイ) | RUX-E2406W-JE | 1 |
| | | 屋外壁掛型 24号 耐塩害仕様 | |
| | | 給湯・給水接続径20A | |
| | | 台所リモコン ※リモコン配線は既存再使用 | |

女子トイレ

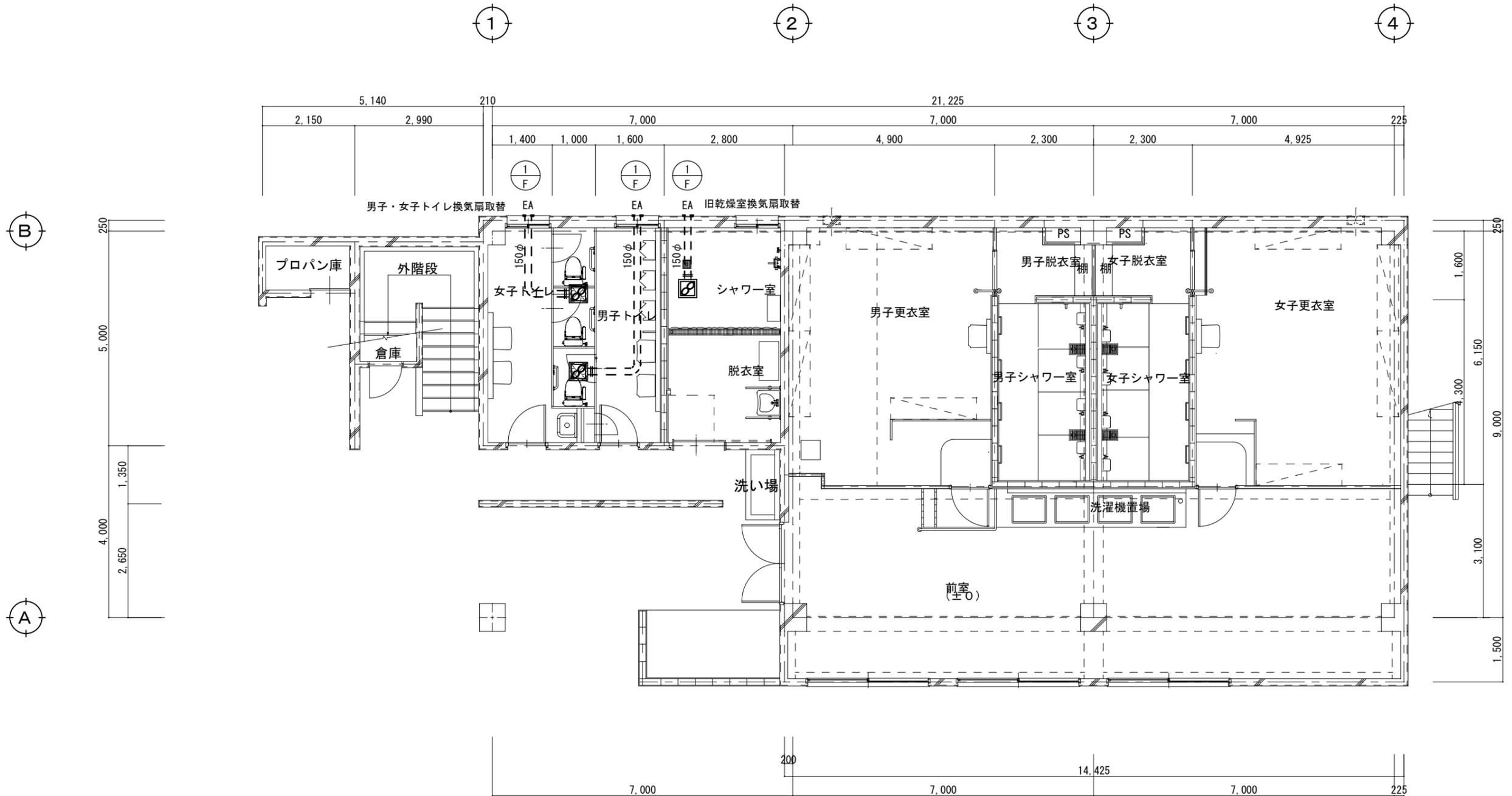
| | | |
|---------|-------------------------|---|
| 洋風大便器 | CFS498B TCF589AU (TOTO) | 2 |
| | ふた付暖房洗浄便座 (AC100V 314W) | |
| 棚付二連紙巻器 | YH702 (TOTO) | 2 |
| L型手摺 | T113BL9 (TOTO) | 1 |
| | T110D22R×3 | |

男子トイレ

| | | |
|---------|-------------------------|---|
| 洋風大便器 | CFS498B TCF589AU (TOTO) | 1 |
| | ふた付暖房洗浄便座 (AC100V 314W) | |
| 棚付二連紙巻器 | YH702 (TOTO) | 1 |
| L型手摺 | T113BL9 (TOTO) | 1 |
| | T110D22R×3 | |

シャワー室

| | | |
|---------|-------------------------------|---|
| シャワー水栓 | TBV03401J1 (TOTO) | 1 |
| スライドバー | TBW07019J (TOTO) | 1 |
| 壁掛洗面器 | L103CF TLHG30DQES (TOTO) | 1 |
| | 床排水 (偏芯) : TLDS2206J TH500P32 | |
| | シングルレバー混合栓 | |
| 耐食鏡 | YM4510FA (TOTO) | 1 |
| P型手摺 | T113BP23 (TOTO) | 2 |
| | T110D3R×3 | |
| 排水ユニット | EWBS620SBS (TOTO) | 1 |
| | 防水タイプ・縦引 | |
| 床排水トラップ | T5B 50A (防水) | 1 |



| 換気設備機器表 | | | | | | | | 注記 本表内、メーカー名、型番等は、参考とする。 | | |
|---------|----------|--------|-----------|-------|------------------------------|------|------------------------|--------------------------|----|--|
| 記号 | 機器名 | 参考設計機器 | | | | 仕様詳細 | 風量 (m ³ /h) | 消費電力 (W) | 数量 | |
| | | 製造会社 | 参考型番 | フード | 付属品 | | | | | |
| 1 F | 天井埋込形換気扇 | 三菱 | VD-18ZC13 | 既存再使用 | 1φ100V プラスティック製 騒音 (db) 29.5 | 310 | 29.5 | 3 | | |
| | | | | | スイッチ：電気設備工事（既存再使用） | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |